第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査

1．産業動物実験施設新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区　吉田構内S-10区、T-10区

調査面積　45㎡

調査期間　平成24年7月2日～7月11日

調査担当　横山成己　松浦暢昌

調査結果

（1）調査の経緯（図4、写真7・8）

平成24年(2012)2月、農学部より吉田構内東部、農学部附属農場牛舎・豚舎間の空閑地において、産業動物実験施設の新営計画が提出された。開発予定地周辺における既往調査の状況を見ると、昭和41年(1966)に実施された計画地の南西に隣接する牛舎新営工事に伴う本発掘調査においては、弥生時代の溝、土壙、古墳時代の竪穴住居、中世の掘立柱建物等が発見されている[註1]のに対し、平成7年(1995)に実施された西に隣接する牛舎新営工事に伴う予備発掘調査においては埋蔵文化財が検出されていない[註2]ことから、予備発掘調査を実施し、開発予定地の地下の様相を確認する必要があると判断し、その旨平成23年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成24年2月15日開催：メール審議）に諮り、了承された。

調査においては、予定地に対し幅2m、南北長9m、東西長15.5mのL字形トレンチを設定した。

【註】

1）小野忠熙（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』，小野忠熙（編），山口

2）報告書未刊行

（2）調査の経過

調査は平成24年7月2日から11日の期間で実施した。7月2日に重機掘削、7月4日および9日に地山面精査および調査区断面精査を行い、7月10日には諸記録作業を終了した。翌7月11日に埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

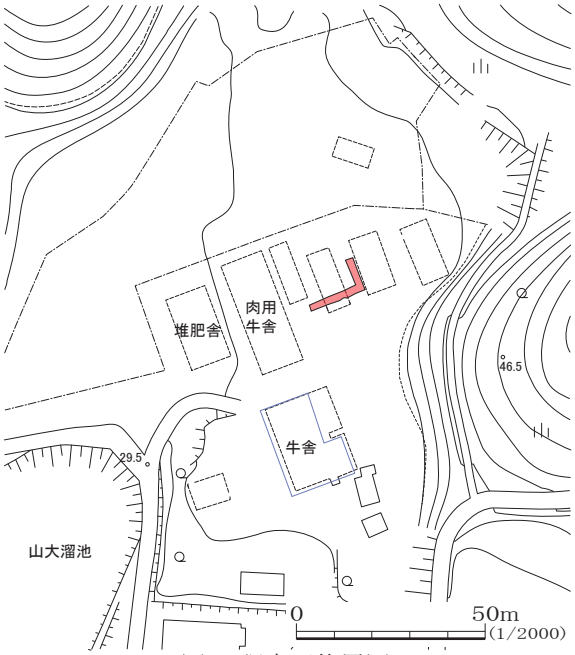


図4　調査区位置図

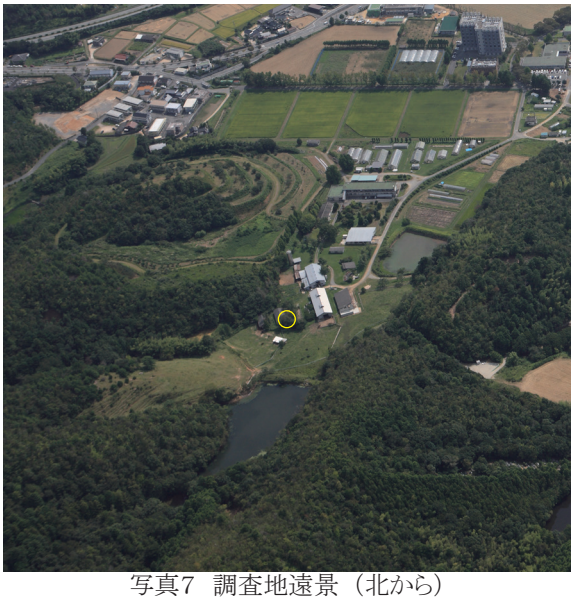


写真7　調査地遠景（北から）

写真8　調査前全景（南西から）

（3）調査成果（図5・6、写真13～18）

調査の結果、調査区内全域において地山の削平・攪乱を受けており、旧地形をとどめていないことを確認した。また、検出した地山面に遺構を確認することはできず、遺物の出土も見られなかった。なお、東西トレンチ東部は大きく攪乱を受けており（写真13・14）、地山の確認を断念した。

層序については、現表土下に最大6層の造成土が盛られており、造成土直下は地山となっているが、東西トレンチ東端部にてわずかに確認された地山上の灰オリーブ色弱粘質土は水田の床土である可能性が残る。地山は、明黄褐色シルト下ににぶい赤褐色シルト、さらに下位に灰オリーブ色岩盤風化土が確認された。

開発予定地の削平および攪乱に関しては、現在は解体されているがかつてこの地に存在した牛舎や、当調査時に東に隣接して存在した豚（牛）舎の建設に伴うものと推測される。前者は昭和43年（1968）、後者は昭和48年（1973）に竣工しているが、埋蔵文化財保護対応を行ったという記録は残っていない。前述したように、調査地の南西に隣接する地で昭和41年（1966）に実施された牛舎新営に伴う発掘調査[註1]（吉田第Ⅳ地区）では、削平は受けているものの方形の竪穴住居跡や柱穴、溝などが検出されている（写真9～12）ことから、今回調査地周辺において埋蔵文化財が遺存した可能性は否定できない。本学の埋蔵文化財保護体勢が不十分であった時期のこととは言え、極めて遺憾である。

【註】

1）小野忠熙氏により実施された牛舎新営に伴う発掘調査（吉田第Ⅳ地区）に関しては、来年度刊行の山口大学埋蔵文化財資料館年報にて詳細を報告する予定である。

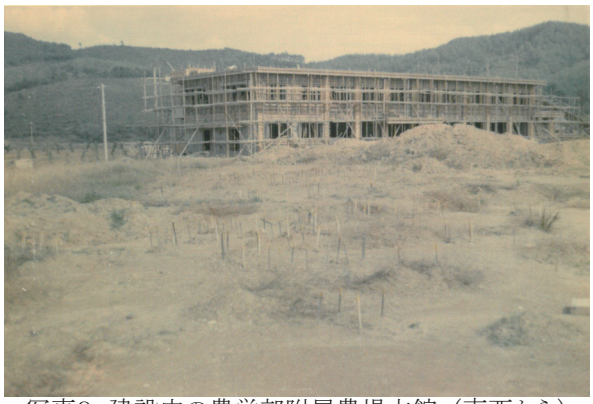


写真9　建設中の農学部附属農場本館（南西から）

写真 10　吉田第Ⅳ地区調査遠景（南西から）

写真 11　吉田第Ⅳ地区調査風景（西から）

写真 12　吉田第Ⅳ地区調査風景（北東から）

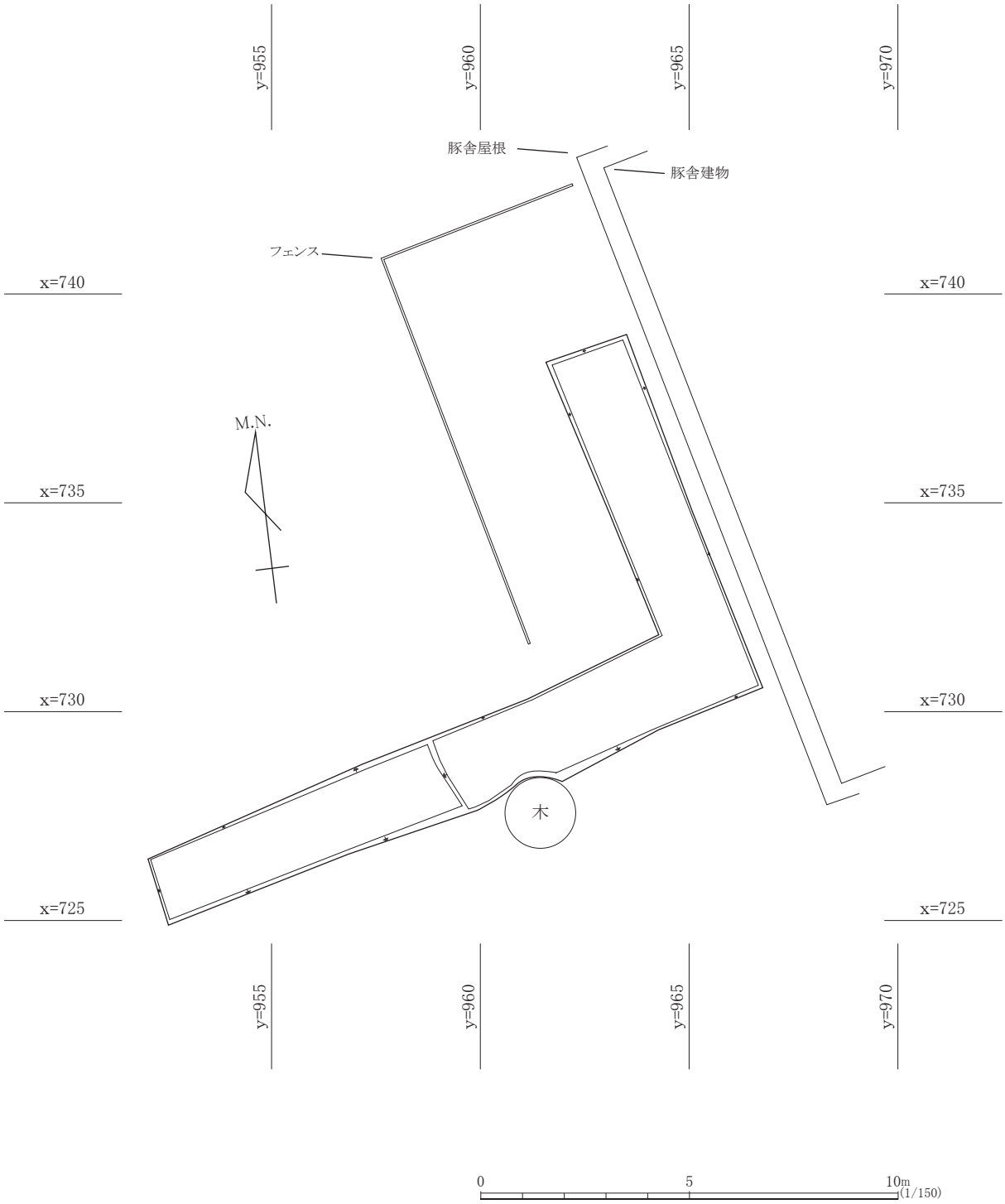
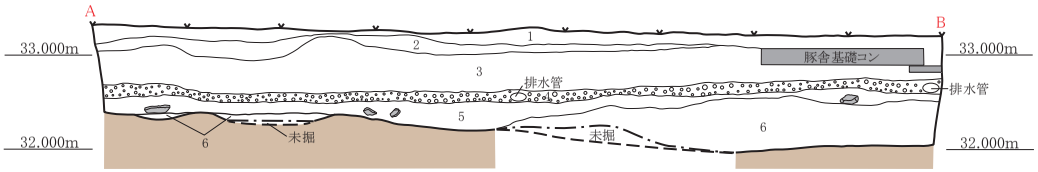
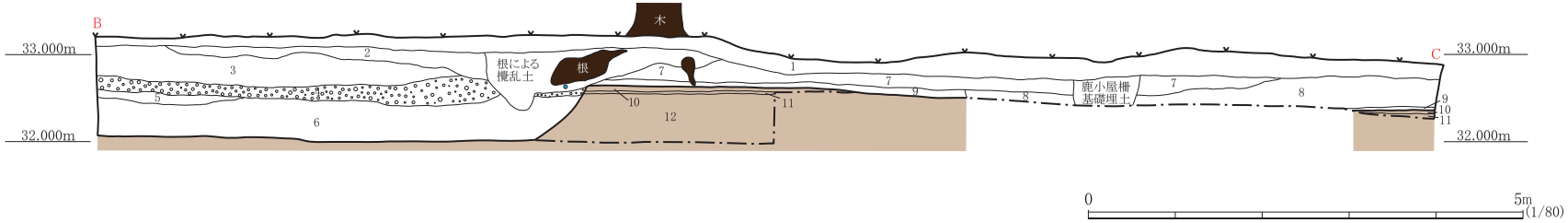

y=955
y=960
y=965
y=970
豚舎屋根
豚舎建物
フェンス
x=740
x=735
x=730
x=725
M.N.
木
0
5
10m
(1/150)

図5 調査区平面図





1　黒褐色（10YR3/2）粘質土…表土
2　灰色（5Y5/1）砂質土…造成土１
3　真砂土…造成土２
4　砕石…造成土３
5　にぶい黄色（7.5Y6/4）礫・コンクリート混粘土…造成土４
6　暗灰黄色（2.5Y5/4）砂礫土（１～４㎜φの山砂利）…造成土５
7　明黄褐色（10YR6/6）礫混粘土…造成土６
8　灰黄色（2.5Y6/2）・灰褐色（7.5YR4/2）等混ざる礫混粘土…攪乱坑埋土
9　灰オリーブ色（5Y5/2）弱粘質土…旧床土か
10　明黄褐色（2.5Y7/6）シルト…地山
11　にぶい赤褐色シルト…地山
12　灰リーブ色（7.5Y6/2）岩盤風化土…地山

図6　調査区土層断面図

写真 13　東西トレンチ完掘状況（西から）

写真 14　東西トレンチ西端部南壁土層断面（北西から）

写真 15　東西トレンチ中央部南壁土層断面（北から）

写真 16　南北トレンチ完掘状況（南から）

写真 17　南北トレンチ北端部東壁土層断面（北西から）

写真 18　南北トレンチ南端部東壁土層断面（南西から）

2. 図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事に伴う本発掘調査

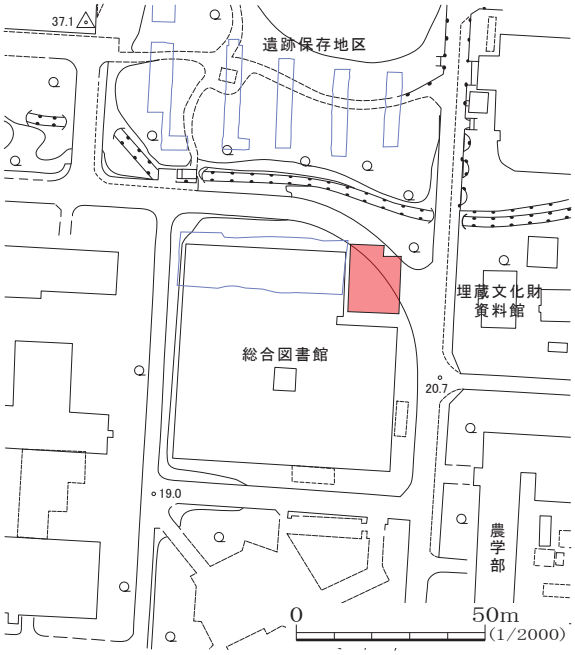


図7　調査区位置図

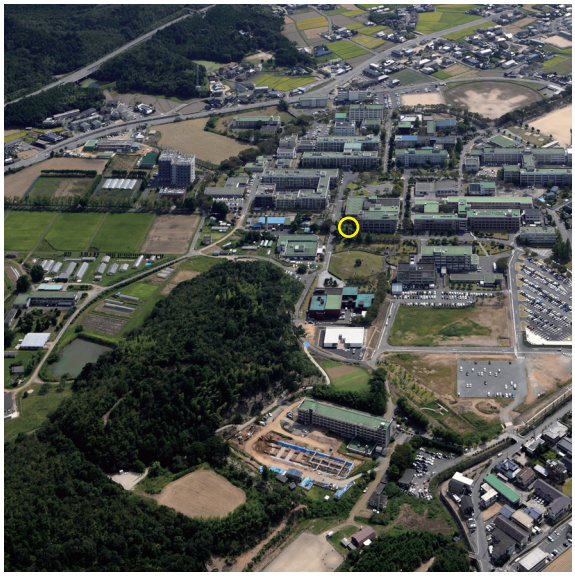


写真 19　調査地遠景（北から）

写真 20　調査前全景（東から）

調査地区　吉田構内M-16区

調査面積　172㎡

調査期間　平成24年9月20日～11月14日

調査担当　横山成己　松浦暢昌

調査結果

（1）調査の経緯（写真19・20）

吉田構内総合図書館北東隅空閑地において図書館建物の増築が計画された。総合図書館敷地においては、1号館（昭和45年竣工）建設時は埋蔵文化財保護対応が確認できないものの、建物北方に2号館が建設される際には本発掘調査が実施され、3枚の遺物包含層と護岸の杭列が施された自然河川ほか溝7条、土壙5基、柱穴が確認されている[註1]。今回の開発予定地は2号館の東隣接地であり、地下の埋蔵文化財に抵触することは確定的であったが、増築場所に選択の余地もなかったため、開発予定地全域に本発掘調査を実施する運びとなった（平成23年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会にて承認）。

【註】

1）河村吉行（1985）「中央図書館増築予定地M－16区の発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年Ⅱ』,山口

（2）調査の経過（図6、写真23～25）

調査は、平成24年9月20日に着手した。大学移転時の造成土を重機により除去することより始めたが、2号館増築に伴う本発掘調査にて報告された旧耕作土および遺物包含層の検出高より1m以上高位に旧耕土・床土・遺物包含層上面が検出されたため、調査区南西部を部分的に掘りすぎてしまった（写真21参照）。その後、下位の堆積層は全て人力により慎重に掘削を進めることとなったが、調査区西端部は図書館2号館増築、また調査区北端部は共同溝の埋設のため大きく撹乱を受けており、土層の確認が不可能であったことから、調査区中央よりやや西側と調査区東側にそれぞれ土層観察用のアゼ

を設けた。結果的に遺物包含層の下位は調査区のほぼ全域が自然河川であることが確認され、河川埋積土からは大量の遺物が出土した。調査はほぼスケジュール通りに進行したが、調査終了予定日までに土層観察用のアゼを除去することが困難な見込みとなったため、本学開発部局である施設環境部をはじめ大学情報機構および図書館との協議の上、5日間調査を延長し、アゼを完全に除去し、遺物を回収することとなった。11月8日までに調査諸記録までの作業を終え、11月9日より埋め戻し作業を開始し、11月14日に埋め戻しを終了した。

（3）基本層序（図9・10、写真35～41）

調査区の基本層序は、①造成土（約100㎝）、②旧耕土・床土、③遺物包含層（約10～20㎝）、④自然河川堆積土（最深約130㎝）である。調査区中央西部は図書館2号館犬走りに降下する階段取設時に破壊を受けたようであり、地山まで大きく抉られていた。その他の範囲も大学造成時にある程度削平を受けているようで、旧耕作土は調査区南部にのみ遺存する状況であった。調査区北部から南東部にかけては遺物包含層上部も削平を受けている。調査区の南東端部および北西端部に地山の高まりが検出されており（写真22参照）、これが河川の両岸に当たる。調査範囲で見る限りは河川は東北東－西南西方向に走っているようである。河川両岸の距離は約15m、河川の深度は最深部で約130㎝を測る。なお、遺物包含層と河川堆積土の区分に関しては、第3層と部分的に見られる下位の第4層が明確に地山を覆う（写真41参照）ことから、これを河川完全埋没後の堆積層と判断した。地山は黄～灰色またはオリーブ色のシルト層であるが、部分的に砂礫となっている。側溝を掘り下げ遺物の有無を確認したが、無遺物層であったことからこれも地山と認定した。

河川の埋積状況は極めて複雑であるものの、大別すると上層の黒色系シルト層と下層の灰～褐色系砂礫層とに区分される。河底の堆積土は水流の痕跡を明確に示しており、出土遺物は弥生時代のものが9割以上を占める。しかし、古墳時代以降の遺物も認められ、断続的に大雨による急激な出水、増水等で攪乱削平・再堆積を繰り返していることが土層断面からも観察される。このような状況下で、出土した遺物相から見ると調査区内では古墳時代後期より南から徐々に河川の埋没が進行し、流路が北方に移動しつつ室町時代初頭にはほぼ埋没を終えたと推定されるのであるが、あくまでも遺物相からの推測であり、土層観察からはその状況を看取できない。

（4）遺構（図8・11、写真42～44）

前述の通り、調査区のほぼ全域が埋没河川である。河川両岸の地山の高まりに平面的に遺構を検出することはできなかったが、調査区東壁断面に河川堆積土上から掘り込まれたピット状の遺構が確認されている（図9参照）。河川堆積土掘削開始時に湧水を除去するため調査区周囲に側溝を設けたため、遺構の平面形を確認することができなかった。

河底では、調査区南西端部に南北に並ぶ2基の環状杭列（杭列1・2）を検出した（写真42参照）。南方の杭列1は列の南西部を欠失するが、環の直径約は90㎝を測る。北方の杭列2はやや小ぶりで、環の直径は約40㎝を測る。いずれも地山面にて検出しており、河川の埋没以前に設けられたものである。所属時期に関しては、杭列1に沿う位置に古墳時代後期のほぼ完形の須恵器坏身が2点出土しており（図20の250・251、写真33参照）、同一層の42層（図10参照）にはそれ以降の時期の遺物が含まれないことから、上限の一端を推定することも可能であるが、基本層序で述べたように観察できた限りの層序からは保証できない。この杭列の機能については、類例が乏しく断定できないが、アユやウナギなどの小魚を

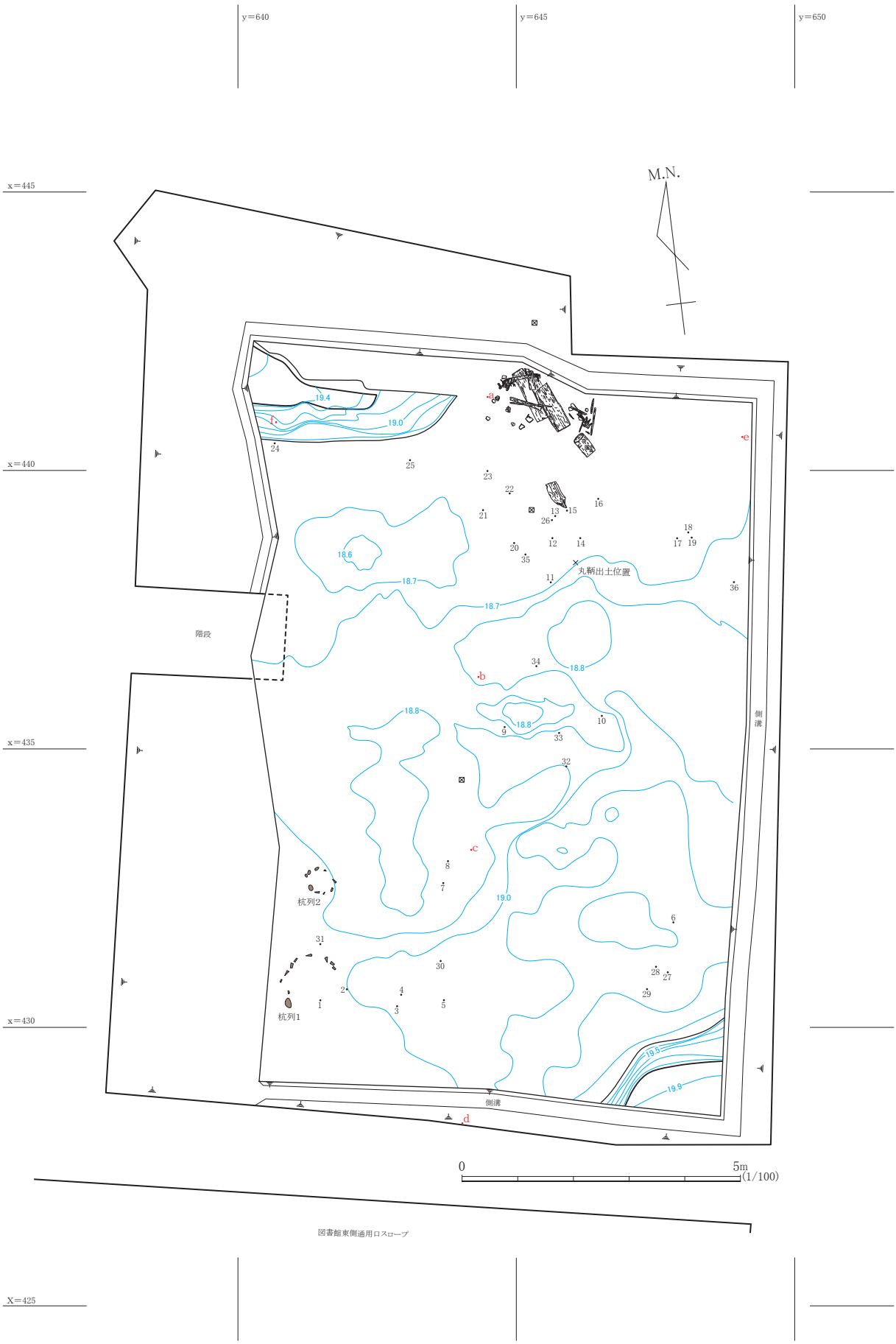
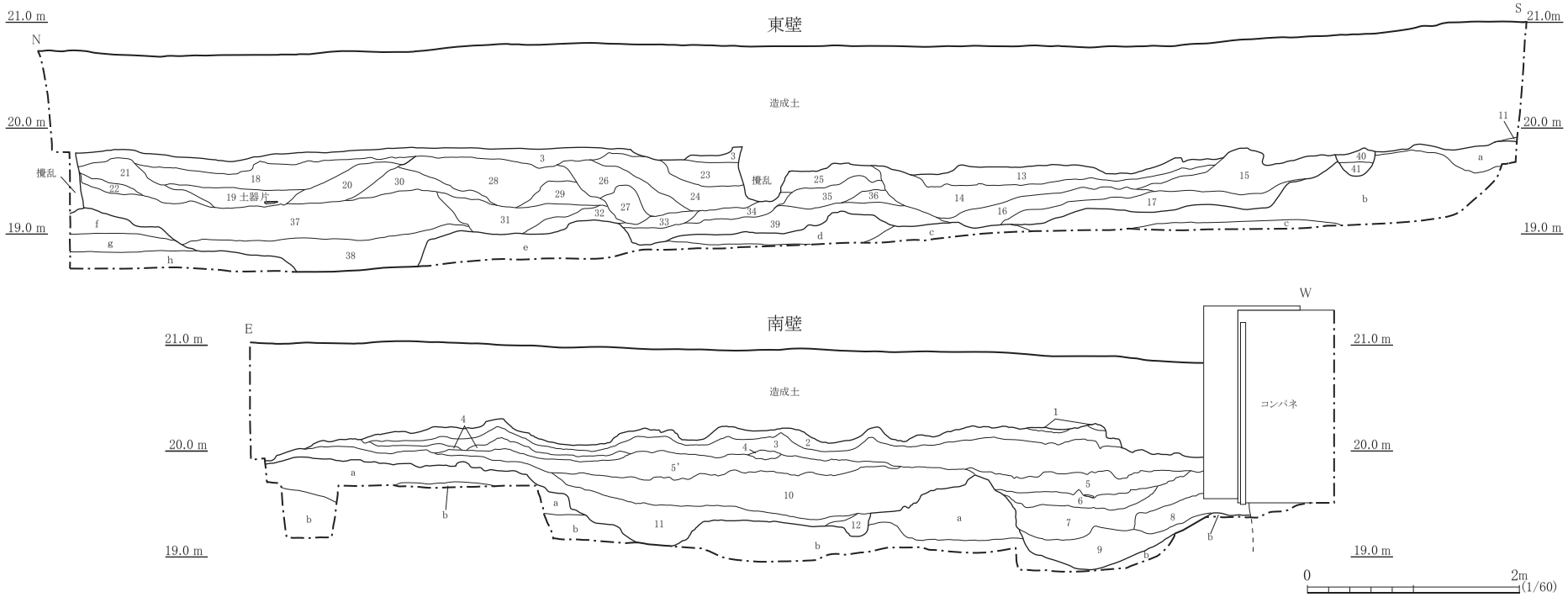

y=640
y=645
y=650
x=445
x=440
x=435
x=430
X=425
M.N.
19.4
19.0
18.6
18.7
18.8
19.5
19.9
丸鞆出土位置
階段
側溝
杭列1
杭列2
0
5m
(1/100)
図書館東側通用口スロープ

図8　調査区平面図



【地山】
a オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト
b 緑灰色（7.5GY5/1）粘土混り細～粗粒砂
c 浅黄色（5Y7/3）粘土混じり極細～極粗粒砂
d 灰オリーブ色（5Y4/2）細粒砂
e 灰色（10Y5/1）粘土混じり細～極粗粒砂（細～中礫を含む）
f 灰色（10Y5/1）極細粒砂～灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト混じり細～極粗粒砂
g 灰オリーブ色（10Y5/2）シルト混じり細礫
h 灰オリーブ色（10Y5/2）粘土混じり細～中礫

【旧耕作土】
1 オリーブ褐色（2.5Y4/3）含粗粒砂シルト質極細粒砂…旧耕土
2 暗灰黄色（2.5Y4/2）粗粒砂混り極細粒砂…旧床土

【河川埋土】
3 黒褐色（2.5Y3/1～1.5）粗粒砂～細礫混り極細粒砂質シルト
4 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）細～中礫混り極細粒砂質シルト
5 黄灰色（2.5Y4/1）含極粗粒砂粘土質シルト
5’黄灰色（2.5Y4/1）含粗粒砂極細粒砂～シルト
6 黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト、オリーブ黒色（5Y3/1）粘土（粗粒砂を僅かに含む）
7 灰色（5Y4/1）シルト質極細粒砂（極粗粒砂～細礫を僅かに含む）
8 灰色（5Y4.5/1）細礫混りシルト質極細粒砂
9 褐色（10YR4/4）粘土混り粗粒砂～細礫
10 オリーブ黒（5Y3/1）極細粒砂質シルト～極細粒砂
11 黒色（2.5Y2/1）粘土質シルト、黄灰色（2.5Y4/1）粘土質シルト、灰色（5Y4/1）細～中礫混り粘土質細～中粒砂
12 灰～暗オリーブ灰色（10Y4/1～2.5GY4/1）シルト～粗粒砂混り粘土質シルト

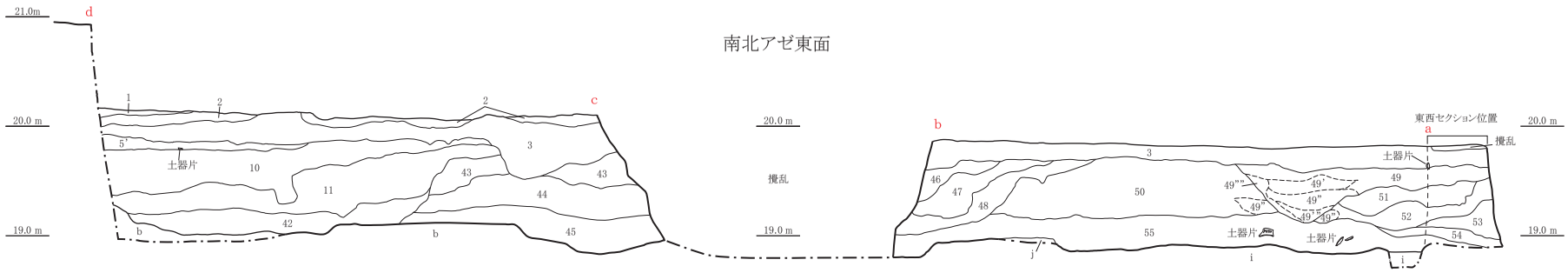
【河川埋土】
13 黒色（7.5Y2/1）極細粒砂
14 黒色（2.5Y2/1）シルト～細粒砂、灰色（10Y4/1）細粒砂、灰オリーブ色（5Y4/2）極粗粒砂～細礫
15 オリーブ黒色（5Y3/1）極細粒砂～粗粒砂混じりシルト質極細粒砂
16 黒褐色（2.5Y3/1）極細～中粒砂、褐色（10YR4/6）極粗粒砂～細礫
17 暗褐色（10YR3/4）極細粒砂～中礫
18 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂（中～粗粒砂を僅かに含む）～黄灰色（2.5Y4/1）シルト質極細粒砂
19 オリーブ黒色（5Y3/1）細～極細粒砂
20 灰オリーブ色（5Y5/2）細粒砂混じり極粗粒砂（黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルトを含む）
21 黄灰色（2.5Y4/1）シルト質極細粒砂（粗粒砂を含む）
22 黒褐色（2.5Y3/1.5）細礫混じり極細粒砂
23 オリーブ黒色（5Y3/1）極細粒砂～シルト
24 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂、細～中粒砂、暗灰黄色（2.5Y4/2）号細粒砂混じり粗粒砂～細礫（下部）
25 灰色（10Y4/1）極細～細粒砂、灰オリーブ色（5Y5/2）中～粗粒砂
26 灰色（5Y4/1）細～中粒砂（一部中礫を含む）
27 オリーブ黒色（5Y3/1）細～極細粒砂、細礫（一部中礫を含む）
28 オリーブ黒色（5Y3/1）細～極細粒砂（一部中粒砂混じる）
29 黄灰色（2.5Y4/1）シルト
30 暗灰黄色（2.5Y5/2）中～極粗粒砂（細礫含む）

【河川埋土】
31 オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト、シルト混じり細～極粗粒砂
32 暗灰黄色（2.5Y4/2）細礫混じり細～極粗粒砂
33 灰オリーブ色（5Y4/2）中粒砂
34 オリーブ黒～灰色（5Y3.5/1）極細粒砂
35 黒褐色（2.5Y3/1）シルト質極細粒砂、オリーブ黒色（5Y3/2）細～中粒砂
36 オリーブ黒色（5Y3/2）極粗粒砂～細礫
37 黄褐色（2.5Y5/3）極細粒砂～中礫
38 灰オリーブ色（5Y5/3）中礫質粘土混じり細～中粒砂
39 黄褐色（2.5Y5/4）粘土混じり粗粒砂～中礫

【その他】
40 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）極細粒砂質シルト…遺構埋土か
41 灰オリーブ色（5Y5/2）極粗粒砂…遺構埋土か

図9 調査区東壁・南壁土層断面図

南北アゼ東面



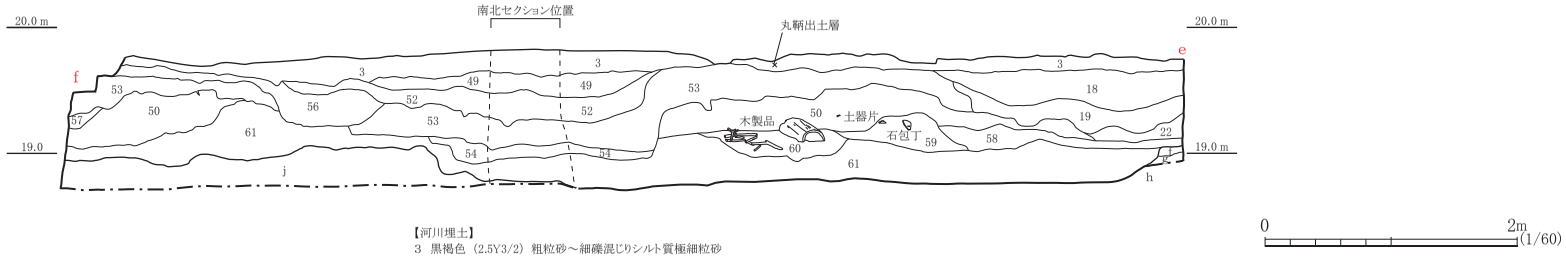
【地山】
b 緑灰色（7.5GY5/1）粗粒砂混じり粘土～粘土質シルト
i 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）極細粒砂混じり粘土質シルト
j 灰オリーブ色（5Y4.5/2）中～極粗粒砂（細～中礫を含む）

【旧耕作土】
1 オリーブ褐色（2.5Y4/3）含粗粒砂シルト質極細粒砂…旧耕土
2 暗灰黄色（2.5Y4/2）粗粒砂混り極細粒砂…旧床土

【河川埋土】
3 黒褐色（2.5Y3/2）粗粒砂～細礫混じりシルト質極細粒砂
5' オリーブ黒色（5Y3/1）極細粒砂質シルト～シルト質極細粒砂
10 オリーブ黒色（5Y3/1）極粗粒砂混じりシルト～極細粒砂、灰黄褐色（10YR4/2）粗粒砂～中礫
11 黒～黒褐色（2.5Y2.5/1）粘土混じりシルト質極細粒砂～黄灰色（2.5Y4/1）極粗粒砂～中礫、灰色（10Y4/1）粘土（擬礫か）
42 黄灰色（2.5Y4/1）粘土（細粒砂のラミナが入る）～灰色（5Y4/1）極粗粒砂～黒～黒褐色（2.5Y2.5/1）粘土 互層状、褐色（10YR4/4）細～中礫（下部）
43 灰色（5Y4/1）極細粒～細粒砂
44 暗灰黄色（2.5Y4/2）中粒砂～中礫
45 オリーブ褐色（2.5Y4/6）中粒砂～中礫、黄灰色（2.5Y4/1）粘土 下部黒色（2.5Y2/1）粗粒砂混じり粘土

【河川埋土】
46 黒褐色（2.5Y3/1）シルト～極細粒砂
47 黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト～シルト質極細粒砂
48 黒褐色（2.5Y3/1）シルト～極細粒砂混じり細粒砂～暗灰黄色（2.5Y4/2）極粗粒砂～細礫
49 黒褐色（2.5Y3/1）シルト質極細粒砂（細礫を僅かに含む）
49' オリーブ褐色（2.5Y4/3）極細粒砂～中礫
49" 黄褐色（2.5Y5/3）中礫混じり中～極粗粒砂
49'" 黒褐色（2.5Y3/1）含シルト極細粒砂
49"" 暗灰黄色（2.5Y4/2）含粘土～シルト混じり中～粗粒砂
50 灰色（5Y4/1）極細粒砂～黒褐色（2.5Y3/1）シルト質極細粒砂
51 黒色（5Y2/1）極細粒砂（シルトを含む）
52 黒褐色（2.5Y3/1）シルト～極細粒砂 オリーブ黒色（5Y3/1）粘土（粗粒砂を僅かに含む）
53 灰色（5Y4/1）極細粒砂～灰オリーブ色（5Y4/2）極粗粒砂～細礫
54 黒～黒褐色（2.5Y2.5/1）粘土（含極細粒砂）（上部）～褐色（7.5YR4/4）粘土（下部）
55 褐色（10YR4/6）極粗粒砂～中礫（大礫を含む）

東西アゼ南面



【河川埋土】
3 黒褐色（2.5Y3/2）粗粒砂～細礫混じりシルト質極細粒砂
56 オリーブ黒～灰色（5Y3.5/1）極粗粒砂～細礫混りシルト質極細粒砂
57 黒褐色（2.5Y3/1）極細粒砂質シルト
58 灰オリーブ色（5Y4/2）極細粒砂、中粒砂、極粗粒砂（大礫混じる）
59 黒褐色（2.5Y3/1）粘土、極細粒砂混り粘土、極細粒砂
60 黒色（2.5Y2/1）粘土質極細粒～細粒砂…木製品・自然木溜まり
61 褐色（10YR4/4）粘土混り細粒砂、細粒砂混り中礫、大礫…（南東区／南西区の礫層／赤礫／最下層）

図 10 調査区アゼ土層断面図

写真 21　遺物包含層検出状況（南東から）

写真 22　河川埋土完掘状況（南東から）

写真 23　重機掘削風景（南東から）

写真 24　作業風景（南東から）

写真 25　作業風景（西から）

写真 26　南西区 41 層遺物出土状況（南東から）

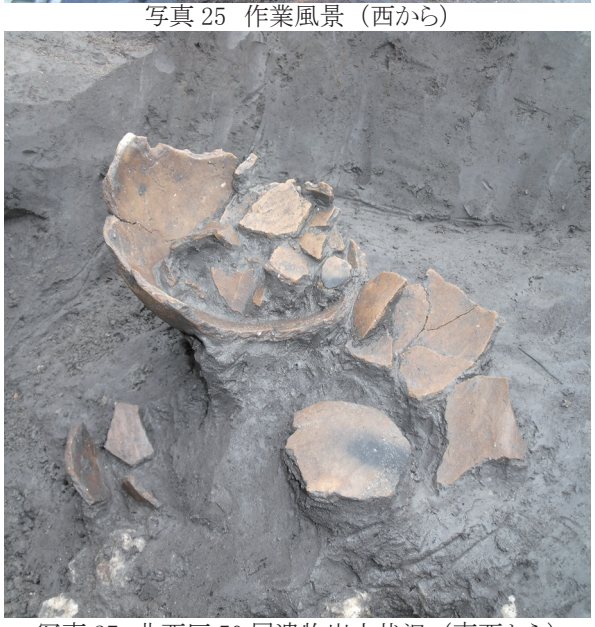


写真 27　北西区 50 層遺物出土状況（南西から）

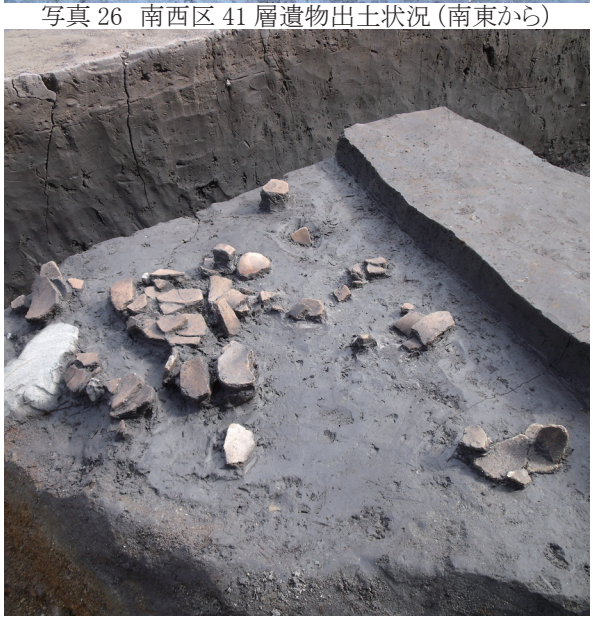


写真 28　南西区 49 層遺物出土状況（北西から）

写真 29　南北アゼ 59 層遺物出土状況（東から）

写真 30　河底遺物出土状況（南から）

写真 31　河底遺物出土状況（北西から）

写真 32　河底遺物出土状況（西から）

写真 33　河底遺物出土状況（南東から）

写真 34　河底遺物出土状況（南東から）

写真 35　調査区東壁土層断面（北西から）

写真 36　調査区南壁土層断面（北から）

写真 37　東西アゼ西側南面土層断面（南から）

写真 38　東西アゼ東側南面土層断面（南から）

写真 39　南北アゼ北側東面土層断面（東から）

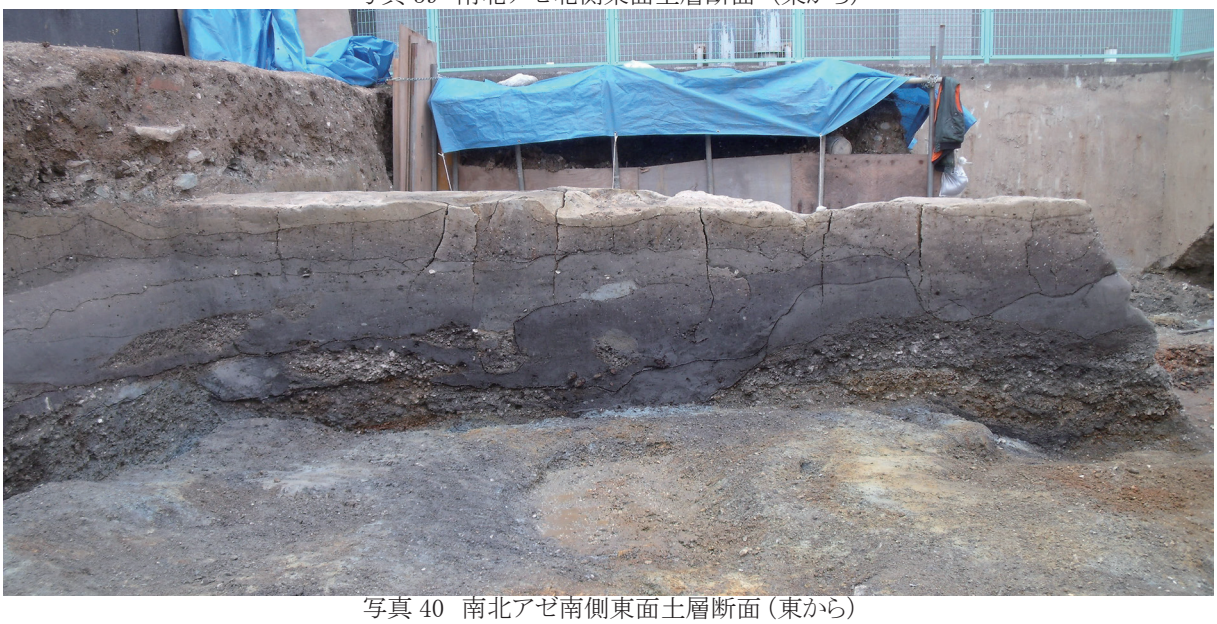


写真 40　南北アゼ南側東面土層断面（東から）

写真 41　東西アゼ西側北面土層断面（北から）

写真 42　杭列1・2（北から）

捕獲する定置漁具と推定している。

この他、調査区の北端部中央やや東よりに木が集中して検出された（図11、写真43～44）。木の多くは板材など木製品の未成品または自然木の枝で、水流で自然に集積したとは考えられない状態であった。平面的に掘り込み範囲を確認できたわけではない[註1]が、東西アゼで土層を観察すると、河川最下層の褐色粘土混じり砂礫層（61層）を切り込んで木製品集中層である黒色粘土質砂層が形成されていることから、河川の右岸（丘陵側）付近に設けられた木器溜め土壙と推測される。土壙の規模は、木製品の分布から最大で南北幅約2.5m、東西幅で約2mが推定される。当遺構の所属時期に関しては、河川最下層（61層）に13世紀～14世紀代と見られる土師器坏・皿が混ざっていることから、その上限年代を推定することが可能となっている。

【註】

1）木製品集中部は、当初東西アゼ北辺に河川堆積層確認のために入れたサブトレンチにて確認された（写真43参照）。人為的な掘り込みの存在を想定して調査を行ったが、平面的に木製品が集中する堆積層と上位の黒褐色シルト質砂層とを区別することは困難であった。また、サブトレンチで木製品を検出した10月９日以降、濡れタオルをかけ資料の保存に努めたが、河川堆積土の掘削が長期間に及んだため、遺物取り上げ時までの約1ヶ月間で劣化が進行することとなった（写真44参照）。

（5）遺物（図12～40、写真45～62、表２～６）

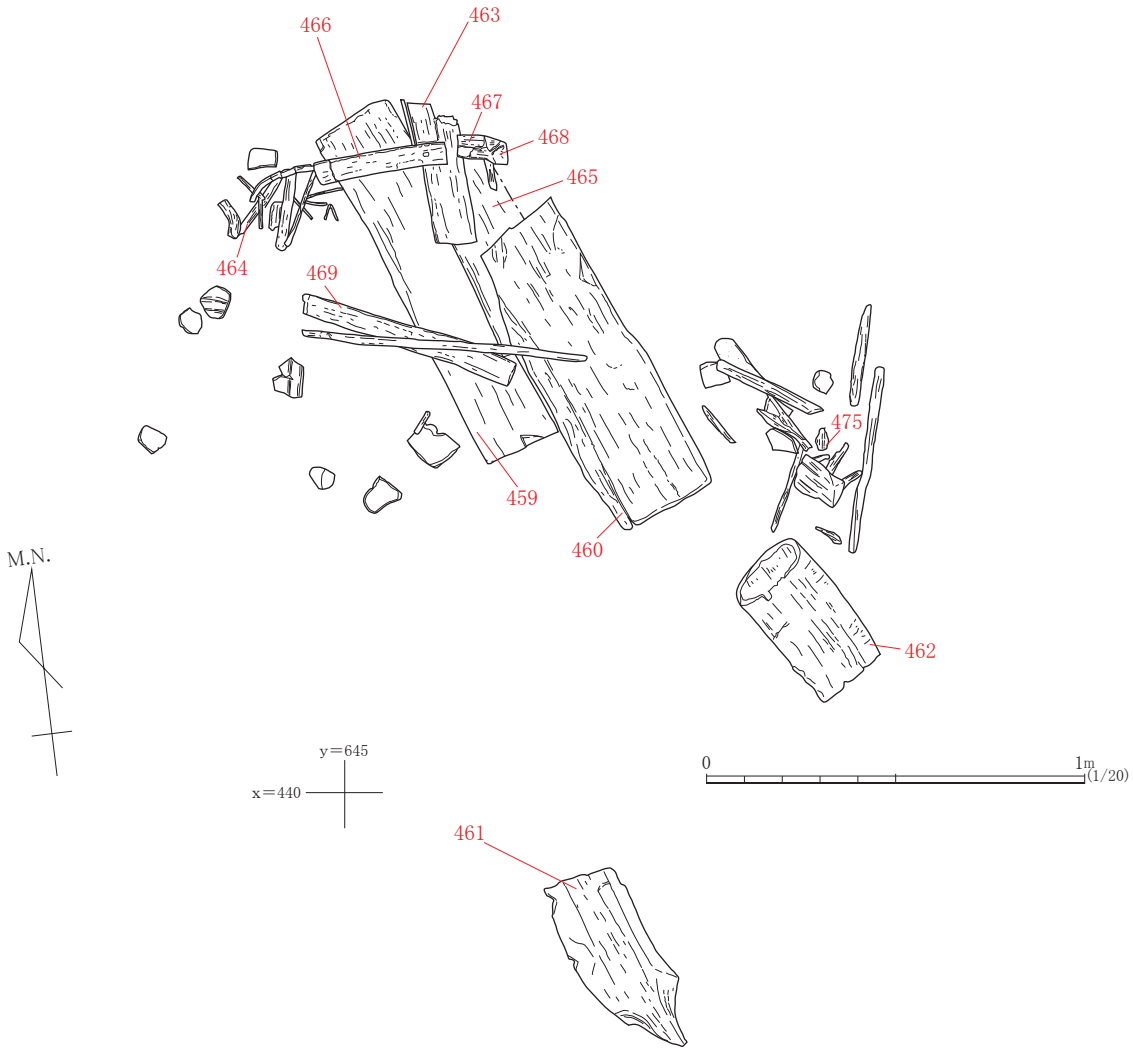
河川堆積土に包含されていた遺物は大量で、狭小な調査区であるにもかかわらず深型遺物収納コンテナ（60×37×14㎝）で20箱にのぼる。調査ではできる限り層位的な掘削を試みたが、急激な増水や出水で度重なる撹拌を受けた堆積土は複雑な様相を示しており、厳密な意味では層位的な遺物の取り上げを行えていない。取り上げ時の土層と最終的な土層断面図との照合は現地調査後に行い、各遺物の所属層を最終的に決定している。

【土器】

３層出土土器（図12～14、写真45～49）

３層は河川が完全埋没した後に堆積した遺物包含層である。大量の土器が出土しているが、細片が大多数であり、完形復元可能な資料は存在しない。遺物相の特徴として、古墳時代以前の遺物が極めて少なく、古代に所属する遺物が大多数を占める。

1は縄文時代晩期の深鉢口縁部片。今回の調査で唯一確認された縄文土器である。**6～8**は土師器の甑または甕の把手。**9**は器形不明の土師器。天地も不明。**10～69**は須恵器。確実な古墳時代の須恵器は存在しない。蓋は口縁部がほぼ垂直に下垂するタイプ、口縁が外方に屈曲して端部が鳥嘴状に下垂するタイプ、口縁端部の下垂がほぼ見られないタイプが存在する。高台付坏は断面方形の小ぶりな高台が付くタイプが主体であるが、外方に長く張り出す古手のタイプ（38）も存在する。**70～77**は緑釉陶器。70は吉田遺跡では稀な須恵質の緑釉陶器の口縁部片。今回の調査では緑釉の発色が良好な資料が複数出土している。**78・79**は内面に布目を残す六連式製塩土器体部片。**80**は黒色土器A類埦の口縁部片。**81・82**は青磁。81は龍泉窯系の碗口縁部片。**84～89**は白磁皿・碗の口縁部片。遺跡ではこれまでも当調査区北方丘陵周辺において多数出土している。**90～114**は土師器埦。高台は断面三角形の小ぶりなものが主体だが、長方形のもの（112）も存在する。多くは内面にミガキが施されており、ミガキが外面に及ぶものも存在する。**115～125**は土師器坏。底部片であり、回転糸切り痕を明瞭に残すものとナデ消しが図られるものとがある。119は焼成後人為的に底部に穿孔が行われた可能性がある。**126～128**は皿。128は高い円盤高台を有する皿で、吉田遺跡では出土数が少ない。**129**は瓦質土器羽釜の口縁部片。図



※図の遺物番号は実測図番号と対応

図 11　調査区北部木製品出土状況平面図

写真 43　調査区北壁断ち割り部木製品検出状況（北から）

写真 44　調査区北部木製品検出状況（北東から）

化した瓦質土器は1点であるが、体部片は複数存在する。

4層出土土器（図15・16、写真49・50）

3層の下位に堆積する層で、調査区の南半部にのみ確認される遺物包含層であるが、3層とは異なりシルト質の地山を取り込んでいる。3層同様古墳時代以前の遺物は極少量である。

130・131は弥生土器。130は壺の体部片で、突帯下に有軸羽状文を施文する。**132～135**は土師器。135は甑または甕の把手で、3層出土資料と同形態のものである。**136～151**は須恵器で、136～140は蓋。136はボタン状つまみが付く偏平な蓋で、内面に平行する2本のヘラ記号が見られる。137はドーム状の天井からなだらかに口縁に降下する蓋で、口縁は上端に沈線が施される。141～147は坏。141のみ古墳時代の坏身で、他は古代に所属する。高台付坏144は断面方形の高台が底部外端の内側に付くが、高台内端に一部布目が付いている（写真49-144-2）。145も高台付坏であるが貼り付け部から高台が剥離している。**152**は緑釉陶器皿の口縁部片。内外面とも緑釉が明瞭に残る。**153**は同安窯系青磁碗の体部片。**154～160**は土師器の埦と坏。160の坏底部には回転糸切り痕が残る。**161・162**は瓦質土器。161は炭素の吸着があまい土師質焼成の足鍋脚部片。162は羽釜の鍔部片。**163・164**は土師質土器。163は外面に煤が付着しており、鍋と見られる。**165**は器種不明の土師器端部。外面にタテハケが、内面には斜め方向のミガキが施されている。

5～5'・5～6層出土土器（図17、写真50）

南東部遺物包含層下位の河川堆積層で、最上層に位置付けられる。調査区南東部にある流路堆積層の上層から出土したものであるが、土器様相は上位の遺物包含層と変わらない。5層と5'層は遺物包含層3・4層直下層で、同一層である可能性が高い。

166～170は土師器。170は橙色系の土師器皿で、河川の完全埋没時期を示すものと理解している。**171～174**は須恵器。時期幅が大きく、古墳時代から平安時代までの須恵器が混在している。**175**は白磁の皿もしくは碗。

5～9層出土土器（図17、写真50）

南北アゼ西側に設けたサブトレンチから出土したもので、層位の確定ができない資料である。なお、南東流路堆積層から出土する遺物の下限は古墳時代後期であり、それ以降の遺物は見られない。

176・177はいずれも弥生時代前期の甕口縁部小片。176は口縁端部全面に、177は口縁下端に細かな刻みを施す。**178・179**は須恵器甕体部片。同一個体と見られ、外面は平行叩きが施されるが、内面の当て具痕は観察できないほど丁寧にナデ消しが図られている。初期須恵器と見られる。

6～7層出土土器（図17、写真51）

南東部流路の中位層から出土したものである。

180～182は弥生土器。180は前期中葉の有段壺口縁－頸部片。181・182は中期、終末期の甕口縁－体部片。**183～190**は土師器。183～185は甕。185はほぼ完形に復元できる古墳時代前期の甕で、球形の体部がい面にタテハケ、内面にケズリを施す。直立する頸部を有し、口縁を外反させる。187～190は古墳時代前～中期の高坏。

7～9層出土土器（図18、写真51・52）

南東部流路の中位～下層にて出土したものである。この流路は南東－北西方向に走っているようであり、9層が最下層となる。

191～194は弥生土器の甕と壺。191は中期の甕の口縁－体部片で、口縁下端に刻み、口縁下に9条の沈線を施し、下位に山形文を施している。**195～197**は土師器。196は古墳時代前期の甕。球形の体部

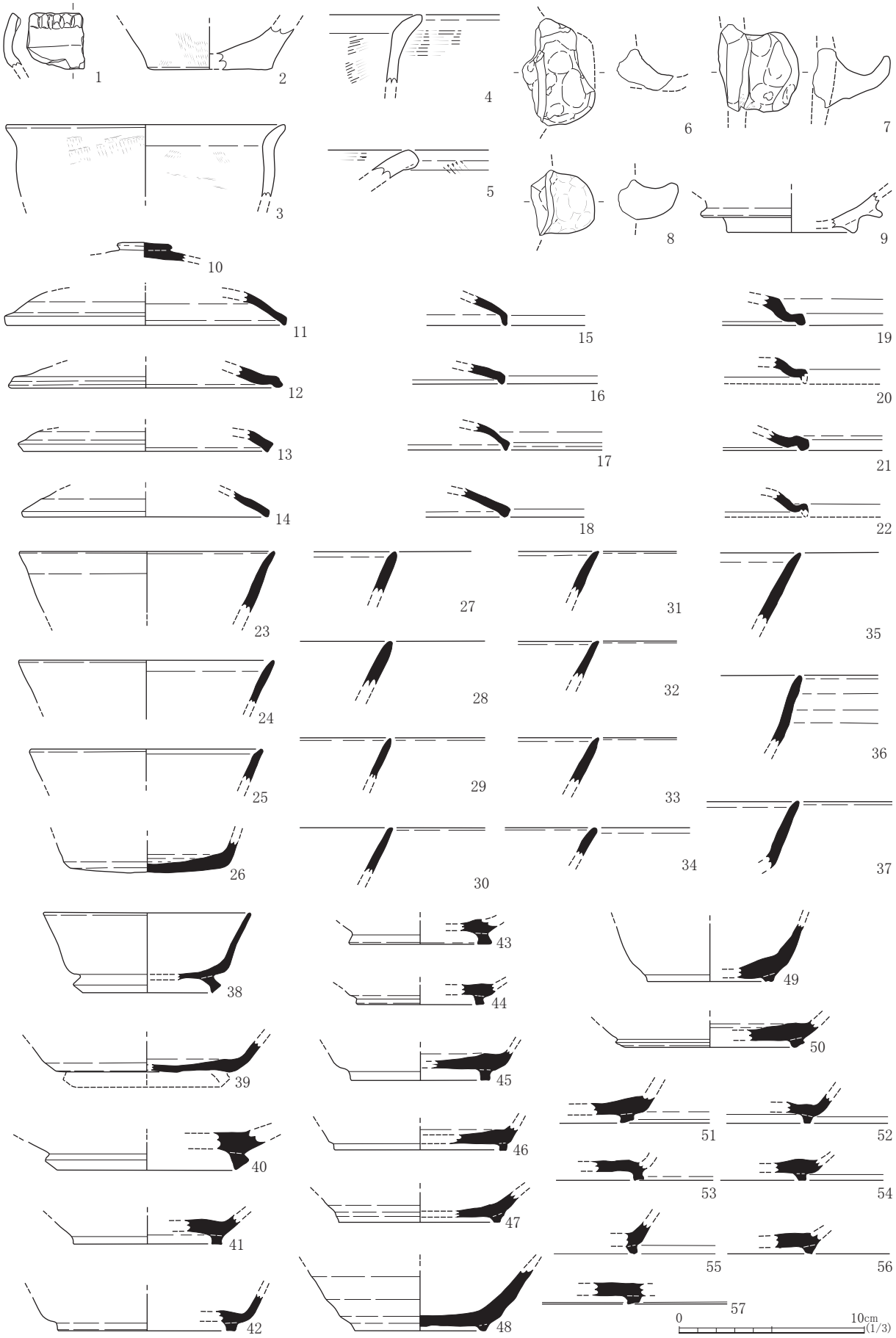


図 12　3層出土土器実測図①

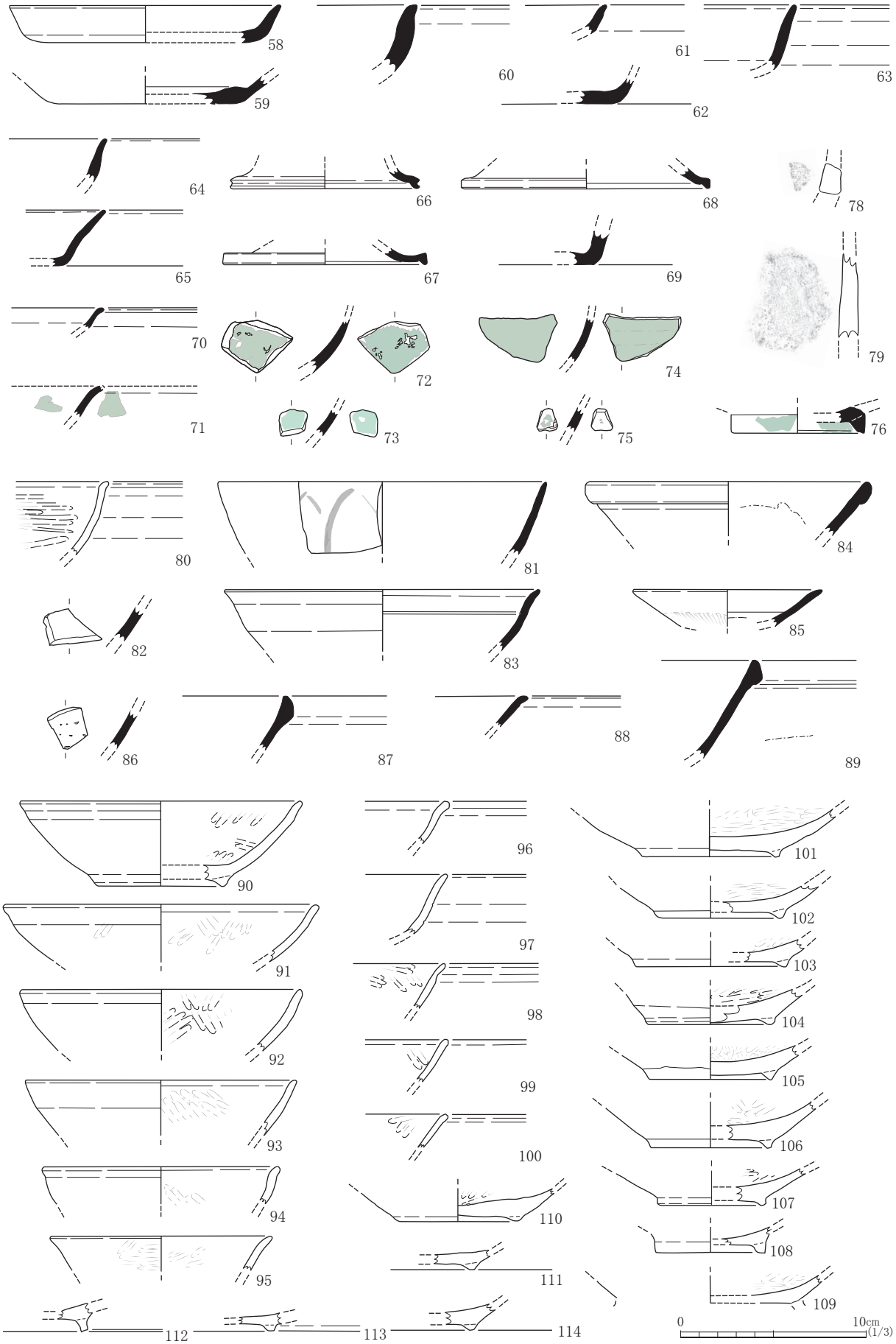


図 13　3層出土土器実測図②

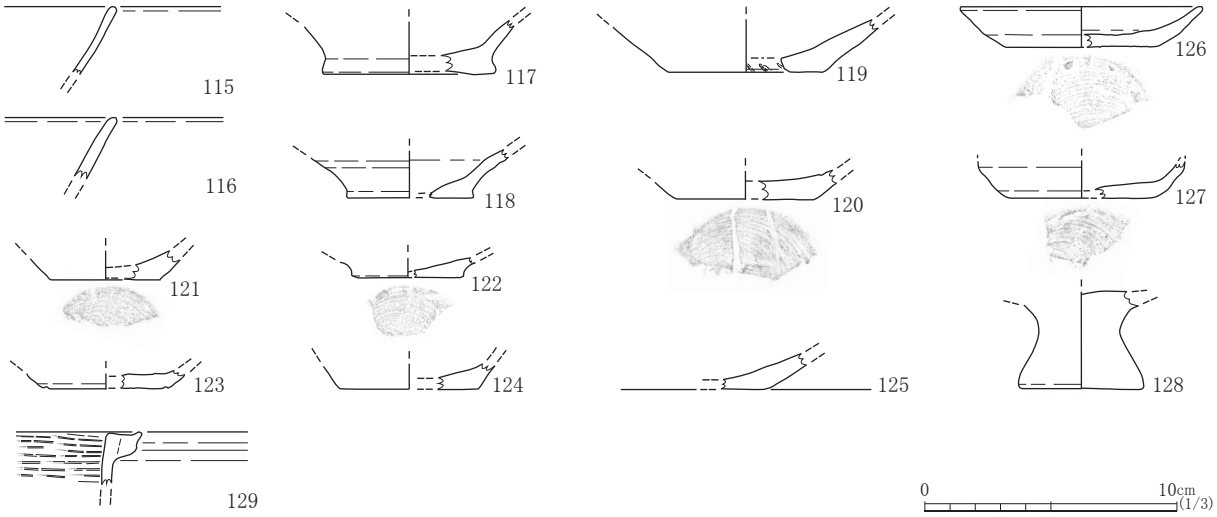


図 14　3層出土土器実測図③

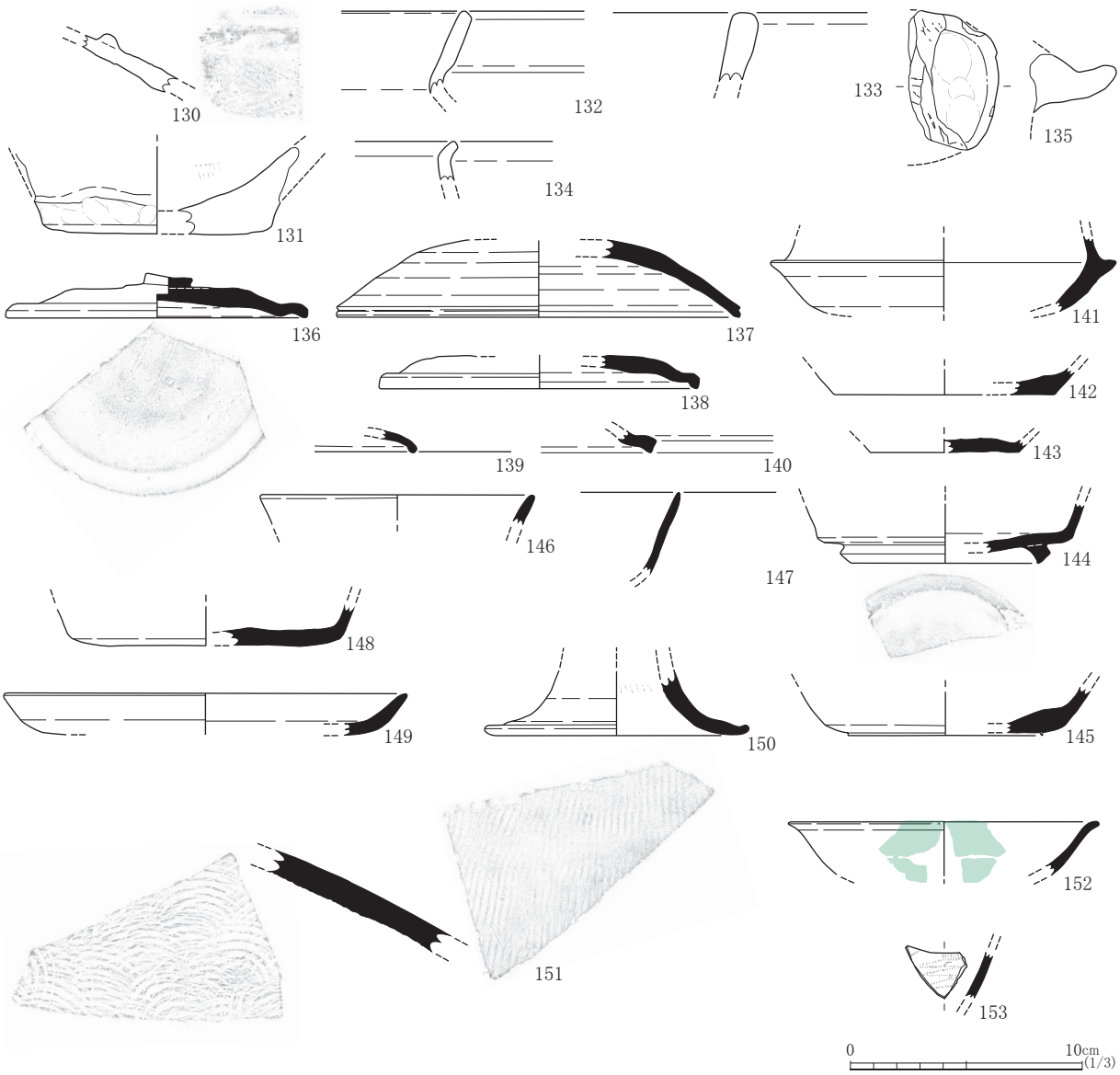


図 15　4層出土土器実測図①

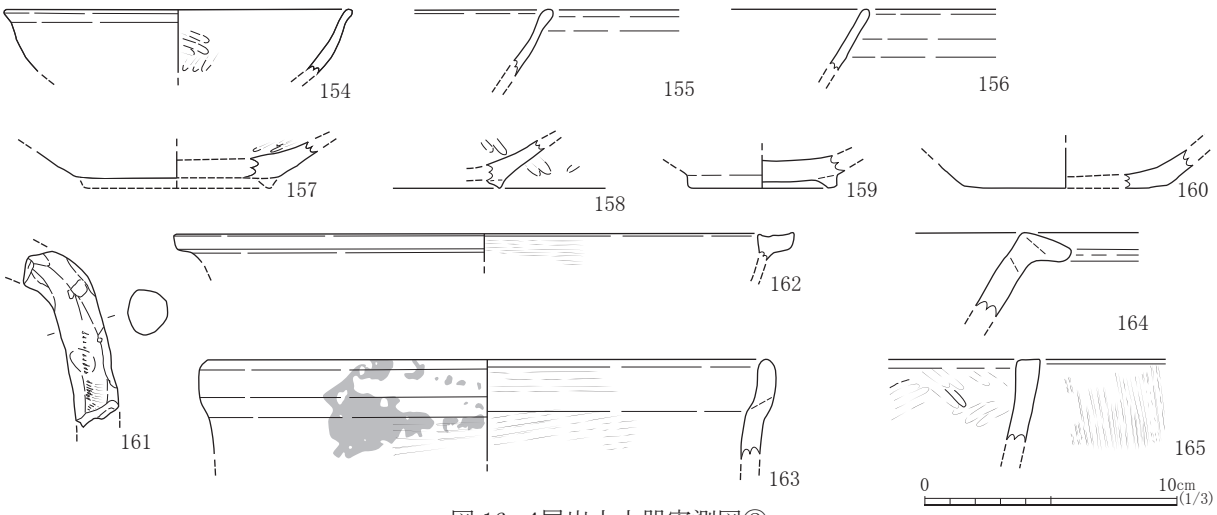


図 16　4層出土土器実測図②

外面にハケを施す。内面は剥離が著しいが、体部上位に横方向のケズリが観察される。197は古墳時代中期の高坏裾部片。198は須恵器壺体部片。外面平行叩きをヘラで間隔を開けナデ消している。内面は丁寧にナデが施されている。

9層出土土器（図18・19、写真51～53）

調査区南東流路最下層出土として取り上げたものである。層中の遺物包含量は多く、遺物の遺存状態は良好であり、器面の摩耗が少ないという特徴を持つ。

199～219は弥生土器。199～201は壺肩部片で、199は有軸、200は無軸の羽状文が、201には木の葉文が施されている。204は弥生時代中期の垂下口縁壺の口縁部片。211は弥生時代終末期の台坏鉢。内外面ともミガキが施されている。212・213は鋤先口縁の甕口縁部片。前者は内外面に丹塗りがなされ、後者は外面に丹塗りが残る。213は口縁下の突帯が剥離している。220～232は土師器。220は古墳時代前期の山陰系の複合口縁甕。図19の上下に並べた224は胎土や焼成具合から同一個体と見なした。226～231は高坏。いずれも古墳時代中期と見られる。232は吉田遺跡で初例となる移動式竈の焚き口上部片。乱雑なつくりで、ナデや指押さえで調整されているが、部分的にハケが残っている。内外面とも煤が付着している。

16・17層出土土器（図20、写真53）

調査区南東部の河川下位砂礫層から出土したものである。

233～237は弥生土器。233・234は壺の体部片で、233は多重沈線下位に重弧文が、234は多重沈線上位に無軸羽状文が背紋されている。238～241は土師器。238・239は古墳時代前期の高坏。隣接して出土し（写真34参照）、同一個体と見られるが接合しない。240も高坏の坏部であるが、古墳時代中期と見られる。241は山陰系の鼓形器台で、口縁と裾部を欠失する。

42・44・45層出土土器（図20・21、写真53・54）

調査区南西部の河川下位砂礫層から出土したものである。44・45層が42層に切られているが、平面的に見分けることは困難であった。

242～249は弥生土器。242は弥生時代中期の壺頸部片。248・249は弥生時代後期または終末期の高坏。250は土師器甕の体部片。251～253は須恵器で、251・252は杭列1横に並んで出土した古墳時代後期の坏身。253は初期須恵器の甕底部。5～9層出土の甕と同様の特徴を持ち、接合しないが器壁の厚さからも同一個体と見てよい。底部は上げ底となっている。

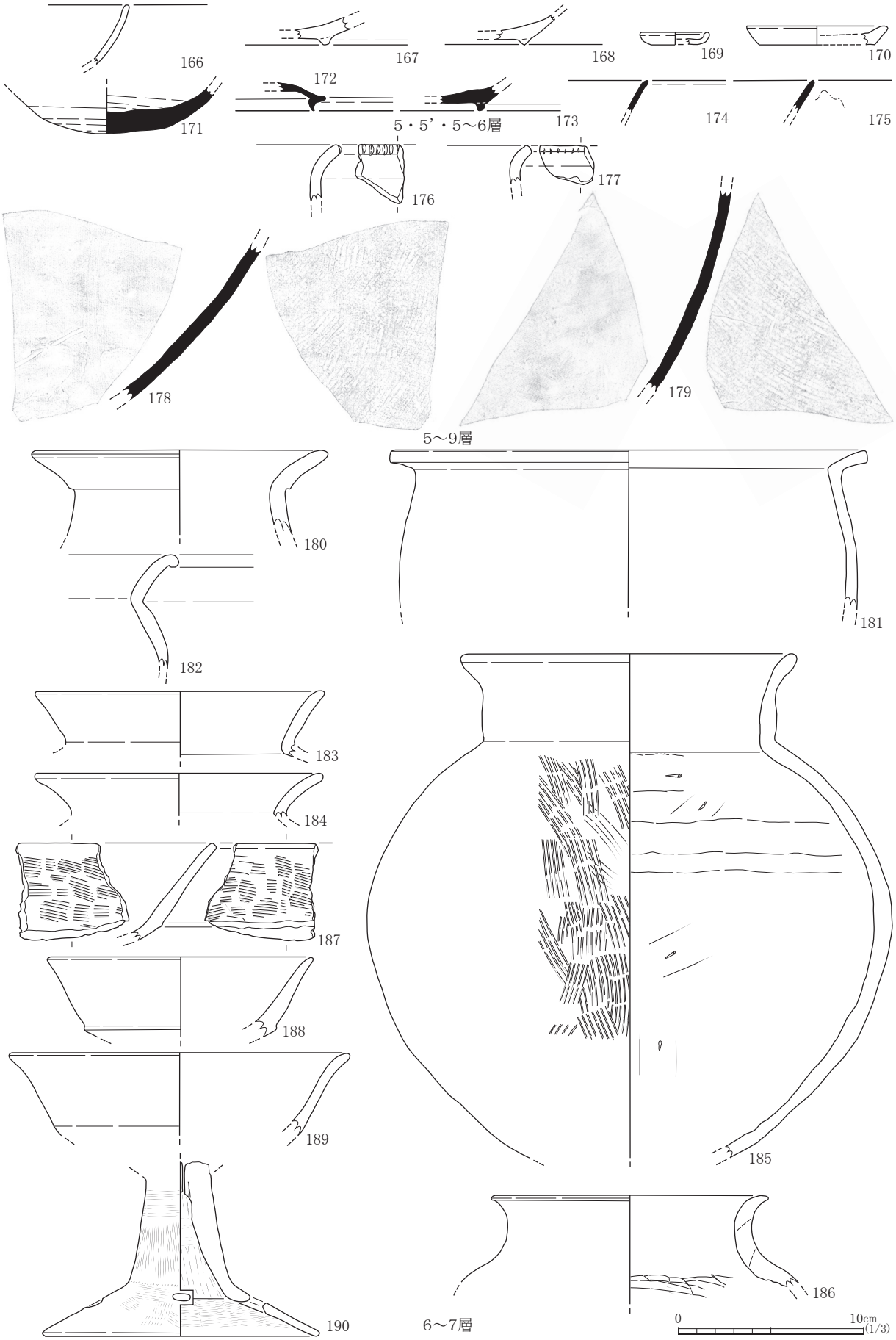


図 17　河川堆積土出土土器実測図①

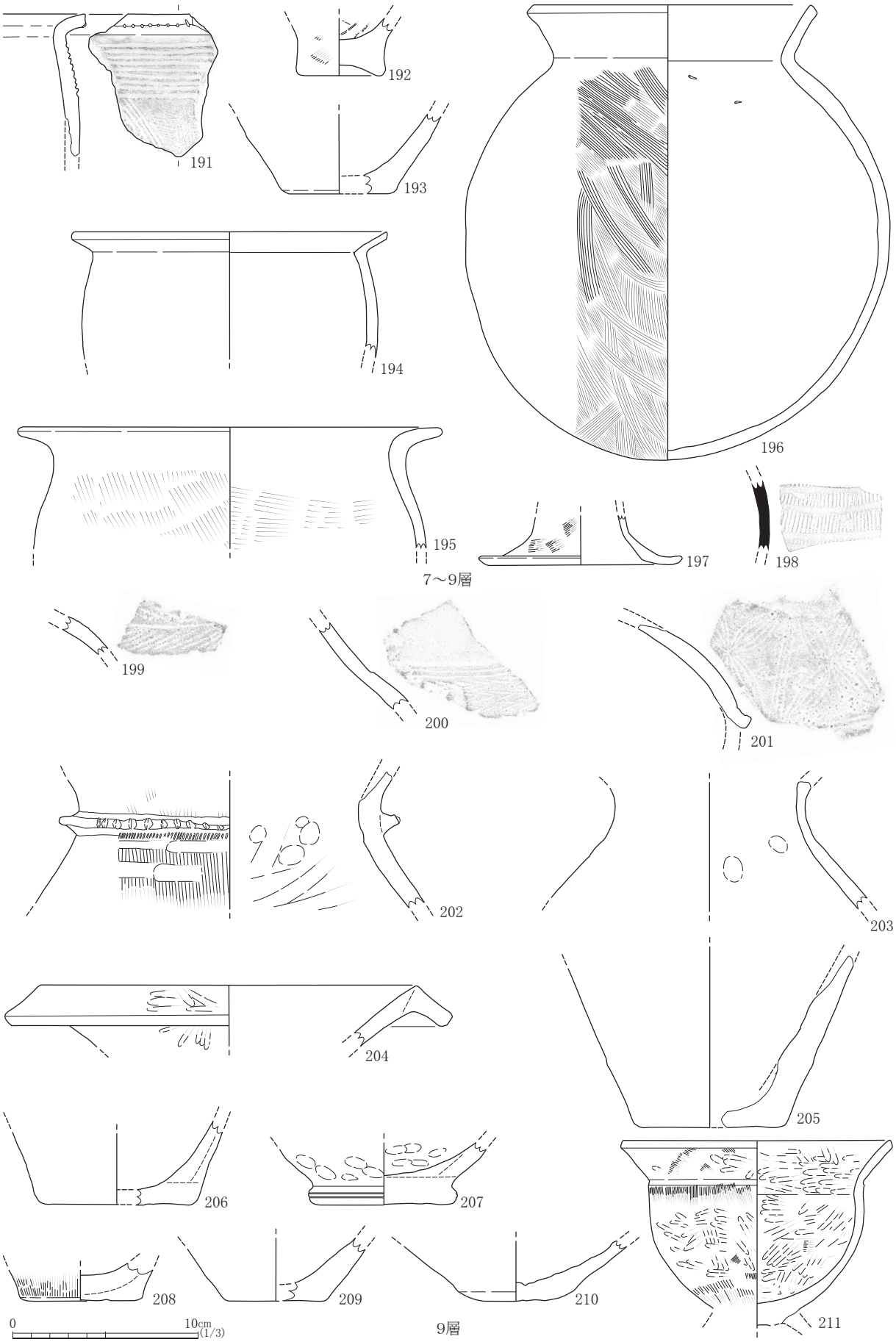


図 18　河川堆積土出土土器実測図②

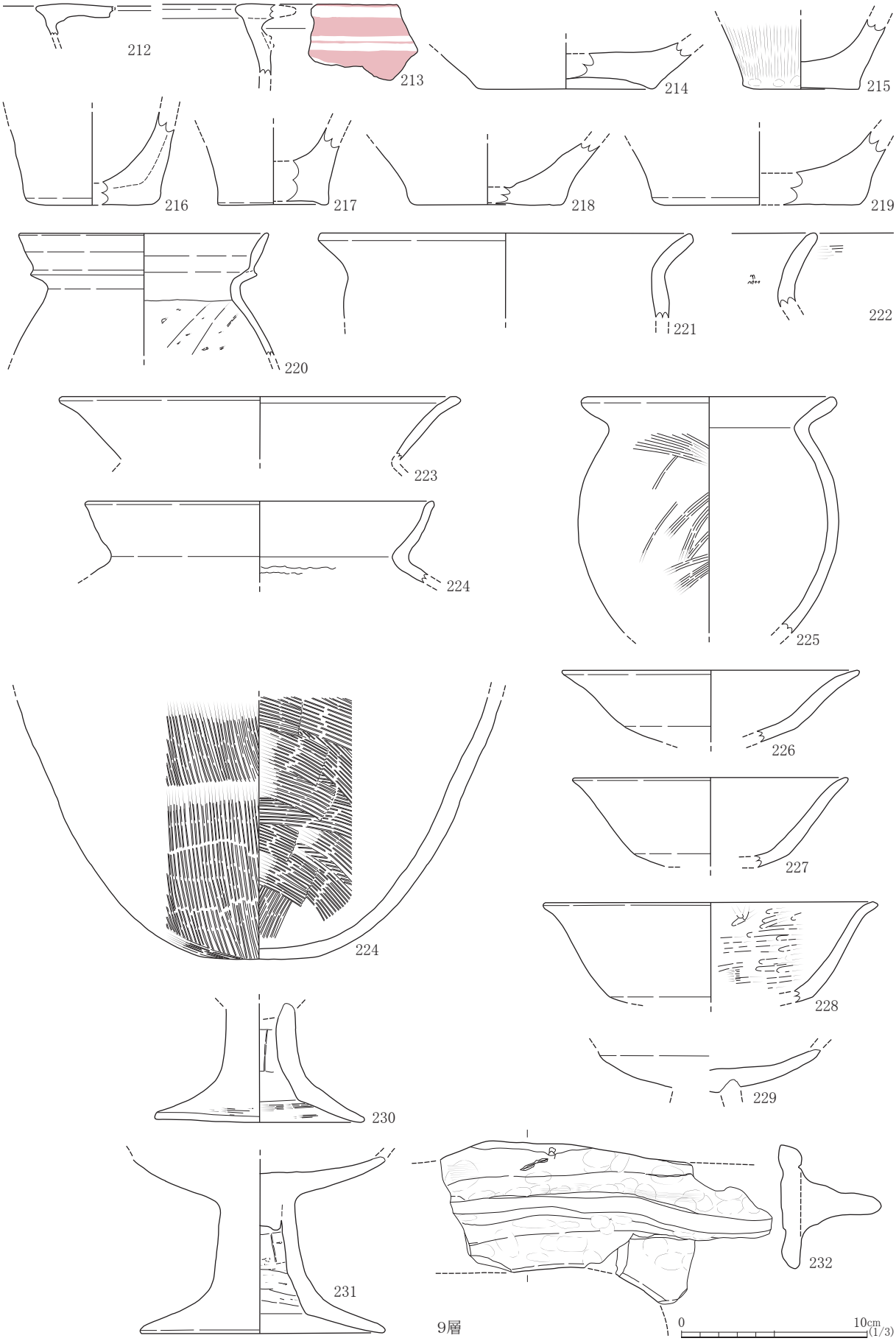


図 19　河川堆積土出土土器実測図③

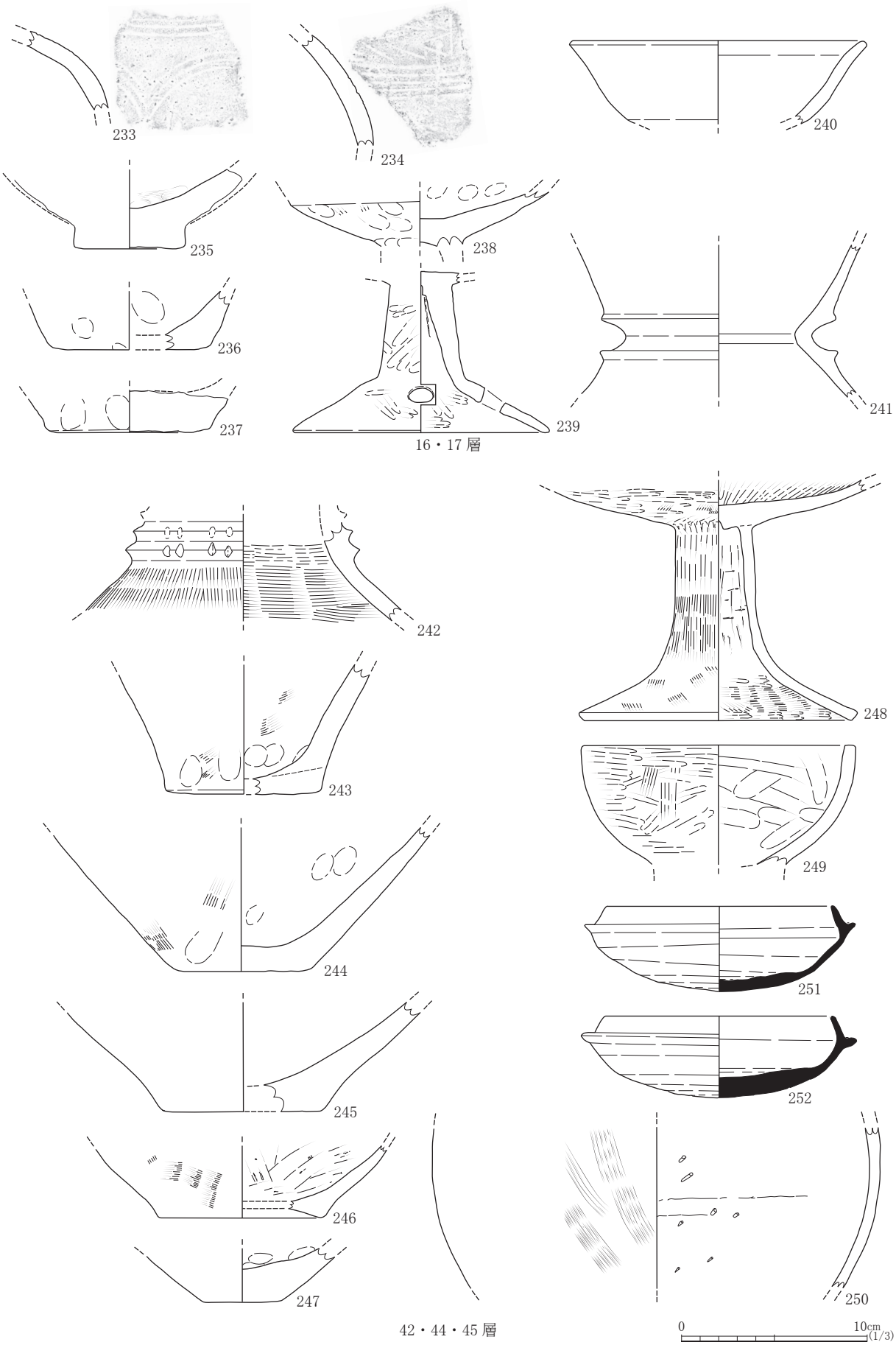


図 20　河川堆積土出土土器実測図④

図 21　河川堆積土出土土器実測図⑤

調査区北部東西アゼ・南北アゼの包含層・河川堆積上部層（図22、写真54・55）

調査最終盤に取り除いたアゼに包含されていた遺物である。時間的な制限から層ごとに遺物を回収する余裕がなく、遺物包含層（3層）と河川堆積土上部黒色シルト層が混ざっている。

254～260は弥生土器。254・255は弥生時代中期の壺口縁部片で、前者は北部九州系、後者は須玖系。256は外面に丹塗りされた壺の胴部片。突帯が貼り付けられており、内面は丁寧にミガキが施されている。260はコップ形土器。珍しい器形であり、底部の形態から弥生時代中期のものである可能性が高いと思われるが特定できない。**261～265**は須恵器。いずれも古代に所属する。**266～272**は土師器の甕、坏、埦。**273**は緑釉陶器底部片。内外面と高台畳付きに釉が遺存する。**274**は瓦器埦底部片。断面方形の低い高台が付く。和泉型と見られる。

18～30層出土土器（図22、写真55）

調査区北東部の河川堆積上部黒色シルト層出土のものである。

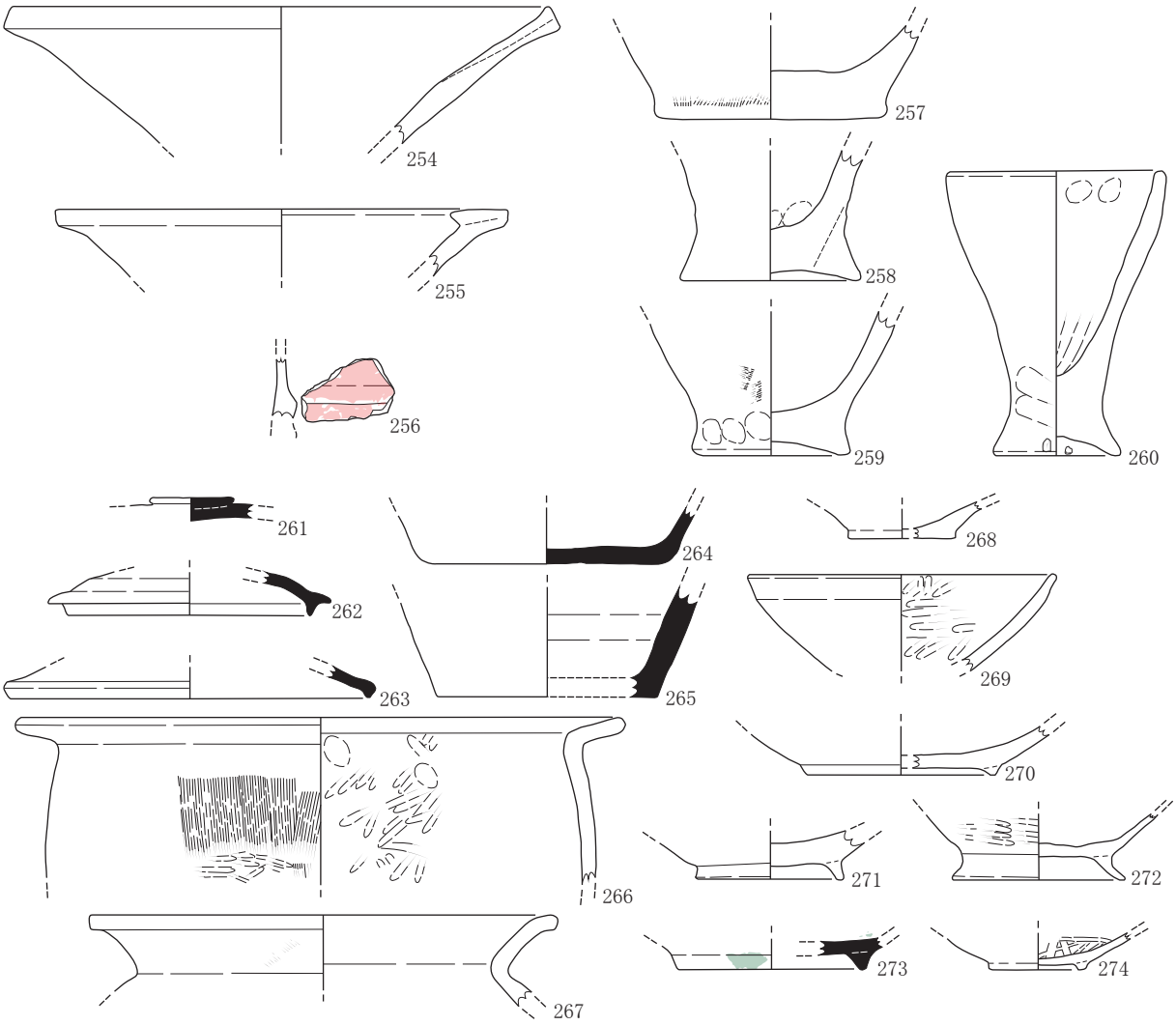
275・276は弥生土器。275の底部には、網目状の圧痕が残る。**277・278**は古墳時代の土師器。**279～282**は須恵器。282の高坏は吉田遺跡に多いタイプであるが、脚柱部の沈線がやや下位に施されている。**283～285**は土師器の埦と坏。284・285の坏底部には回転糸切り痕が残る。

31～37層出土土器（図23、写真55・56）

286～294は弥生土器。壺胴部286は二枚貝の腹部で平行沈線と無軸羽状文が施されている。287は垂下口縁壺の口縁部片。288は腹部にM字状突帯を貼り付ける壺の体部片。**295・296**は須恵器の坏底部片と高坏坏部片。**297～301**は土師器の坏または皿。300・301には回転糸切り痕が残る。

49～54・56・57層出土土器（図24～26、写真56～58）

302～330は弥生土器。調査区北東部の河川堆積上部黒色シルト層出土のものである。302～307は壺。302は胴部片で、平行沈線と無軸羽状文が施されている。303は頸部突帯に二枚貝腹部による斜格子文が施文される。304は低いM字状突帯と円形浮文が貼り付けられる。305は二枚貝の腹部で2条の平行沈線を上下に施し、内部を無軸羽状文で充填している。307は頸部を欠失しているが、須玖系の小型壺で、腹部にM字状突帯を1条貼り付ける。311～329は甕。311～318は弥生時代中期。311・312はほぼ水平に屈曲させた口縁の下端に刻みを施す。312は体部の2条平行沈線間に刺突が施される。313～317は跳ね上げ口縁の甕。318はくの字状に屈曲させた口縁端部に面を形成する甕。319・320は弥生終末期のもので、319は尖り気味の底部を有する。体部の外面調整は両者ともタテハケであるが、内面は前者はハケ後ナデ、後者はケズリが施されている。330は粗製の鉢。**331～338**は古墳時代の土師器。331はほぼ完形に復元できた古墳時代前期の甕で、やや下膨れであるがほぼ球形の体部を有し、口縁は直線的に外方に開く。口縁は内外面ともナデ、体部外面はタテハケ後乱雑なナデ、内面は下部にタテハケ、上部にヨコハケが施され、下部は丁寧にナデ消しを行うが上部のナデは乱雑である。333は古墳時代前期の高坏。334は口縁が内傾する器形で、器種を特定できないがここでは鉢としておく。336～338は古墳時代中期の高坏。**339～353**は須恵器。339だけが古墳時代のもので、他は古代に所属する。339はここでは坏身としたが、底部外面の処理が比較的丁寧であることから坏蓋の可能性もある。340・341は蓋で、前者は口縁端部を垂直に、後者は外方に下垂させる。342～350は坏。346は底部に直線のヘラ記号が施される。347～349は高台付坏底部片。いずれも底部外端に退化した低い高台が付く。350は高台付きの皿か。351・352は高坏。351は外方に開きながら内湾して立ち上がる坏部であるが、口縁は屈曲して直立気味に立ち上がる。352は坏底部と脚部が遺存する。脚部沈線が中位からやや上位に付く吉田遺跡出土高坏に通有のタイプである。353は長頸壷頸部片。**354・355**は緑釉陶器。皿と見られる355は須



調査区北部東西アゼ・南北アゼの包含層・河川堆積上部層

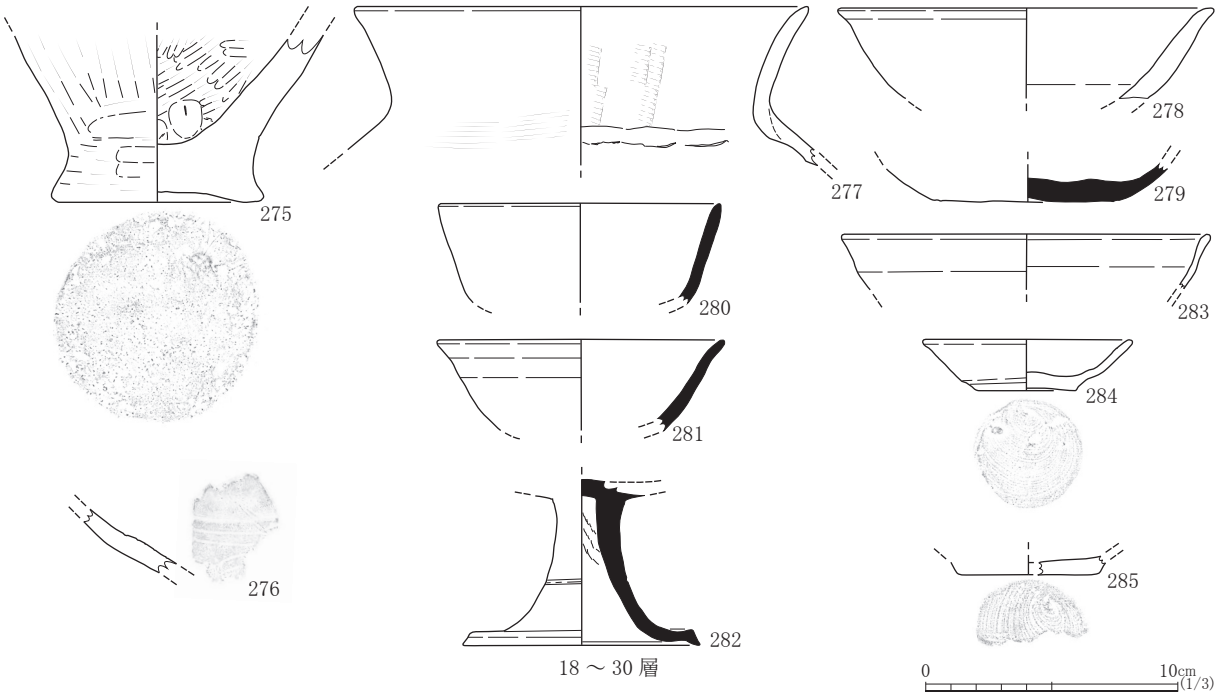


図 22　河川堆積土出土土器実測図⑥

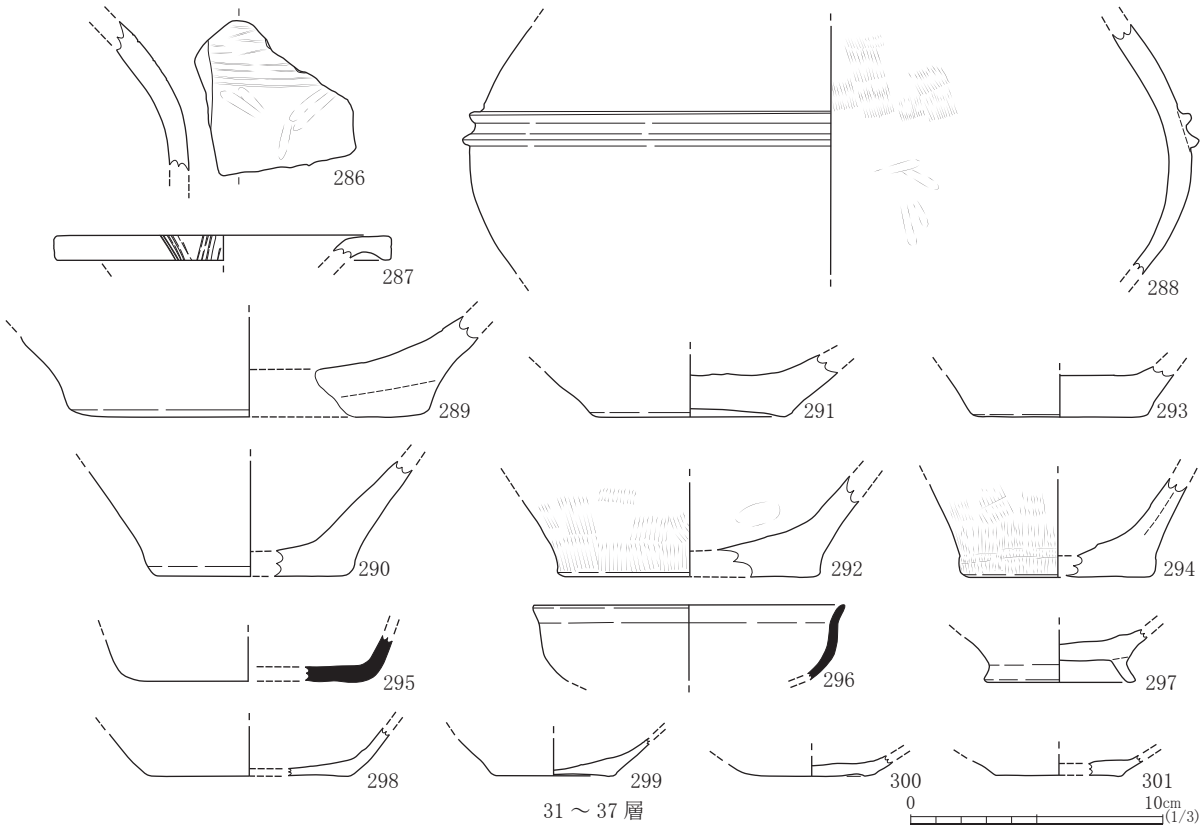


図 23　河川堆積土出土土器実測図⑦

恵質であり、釉ののりが悪い。**356**は白磁碗。**357**～**365**は土師器。457～361は埦で、断面長方形の比較的長い高台が付くもの（357・358）、断面方形の短い高台が付くもの（359）断面三角形の形骸化した高台が付くもの（360）がある。362～365は皿と坏で、いずれも回転糸切り痕が残る。

北区南北アゼ西側断ち割り46～55層出土土器（図26、写真58・59）

調査区北西部の河川堆積層の層位と地山確認のため、南北アゼ西側を深掘りした際に出土したもので、層位を特定できない資料である。

366～**368**は弥生土器。壺口縁366は垂下口縁壺と瀬戸内系壺の折衷形態で、垂下部外面に凹線と山形文が施されている。367は瀬戸内系の壺頸部片。外面はタテハケの上から残存部で9条の沈線が施されている。368は外面に丁寧なミガキが施されている壺底部片。**369**は平底無高台の須恵器坏。

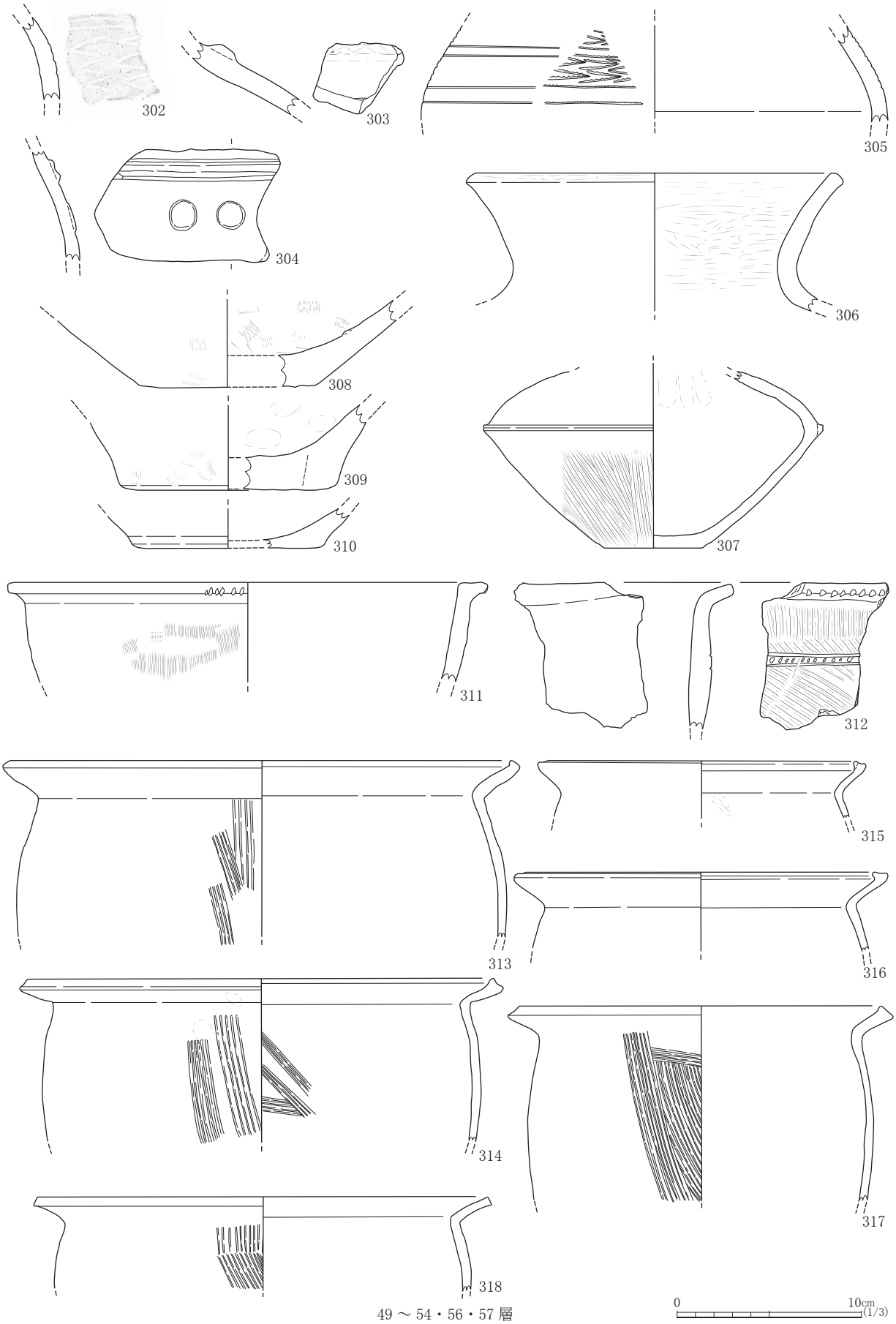
38・39層出土土器（図27、写真59）

調査区北部東端部の河川最下層（砂礫層）から出土したもの。遺物量的には少ないが、弥生時代から鎌倉時代までの遺物が混在する。

370～**375**は弥生土器。370・371は弥生時代前期の甕口縁部片で、口縁端部全面に刻みを施す。372は腹部にM字状突帯を巡らす垂下口縁壺の体部片。**375**は底部片であるが、焼成後底部中央に人為的に穿孔したかのようにも見える。**376**は古墳時代中期の土師器高坏坏底部－裾部。**377**は土師器皿。底部は回転糸切り後軽くナデが施されている。鎌倉時代（13世紀）に所属するものと思われる。

55・61層出土土器（図27、写真59）

調査区北部中央～西部の河川最下層（砂礫層）から出土したもの。基本的には51層で取り上げを行っているが、61層と判別が付かず取り上げたものもここに掲載する。詳細は遺物観察表を参照いただきたい。



49 ～ 54・56・57 層

図 24　河川堆積土出土土器実測図⑧

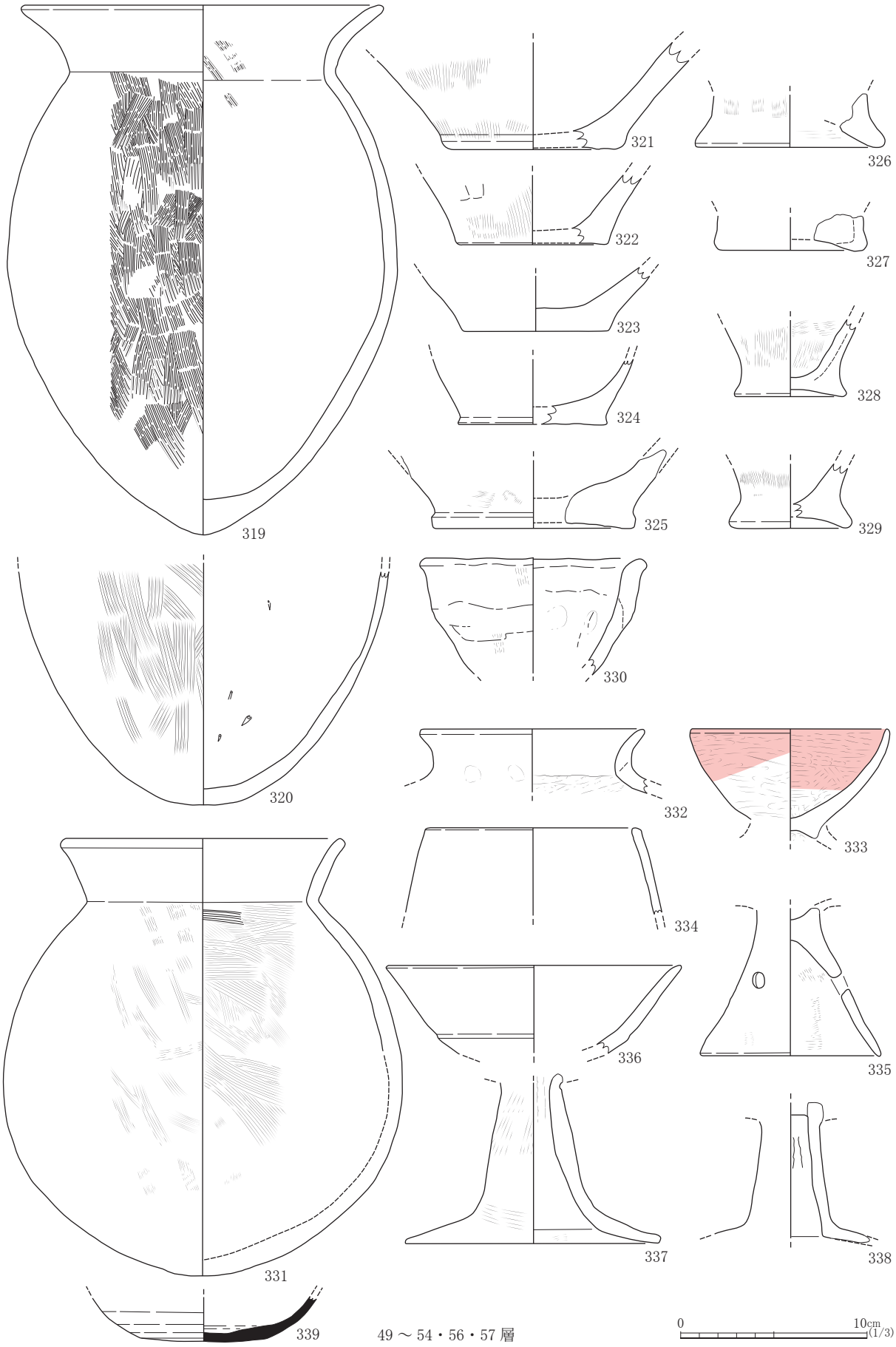
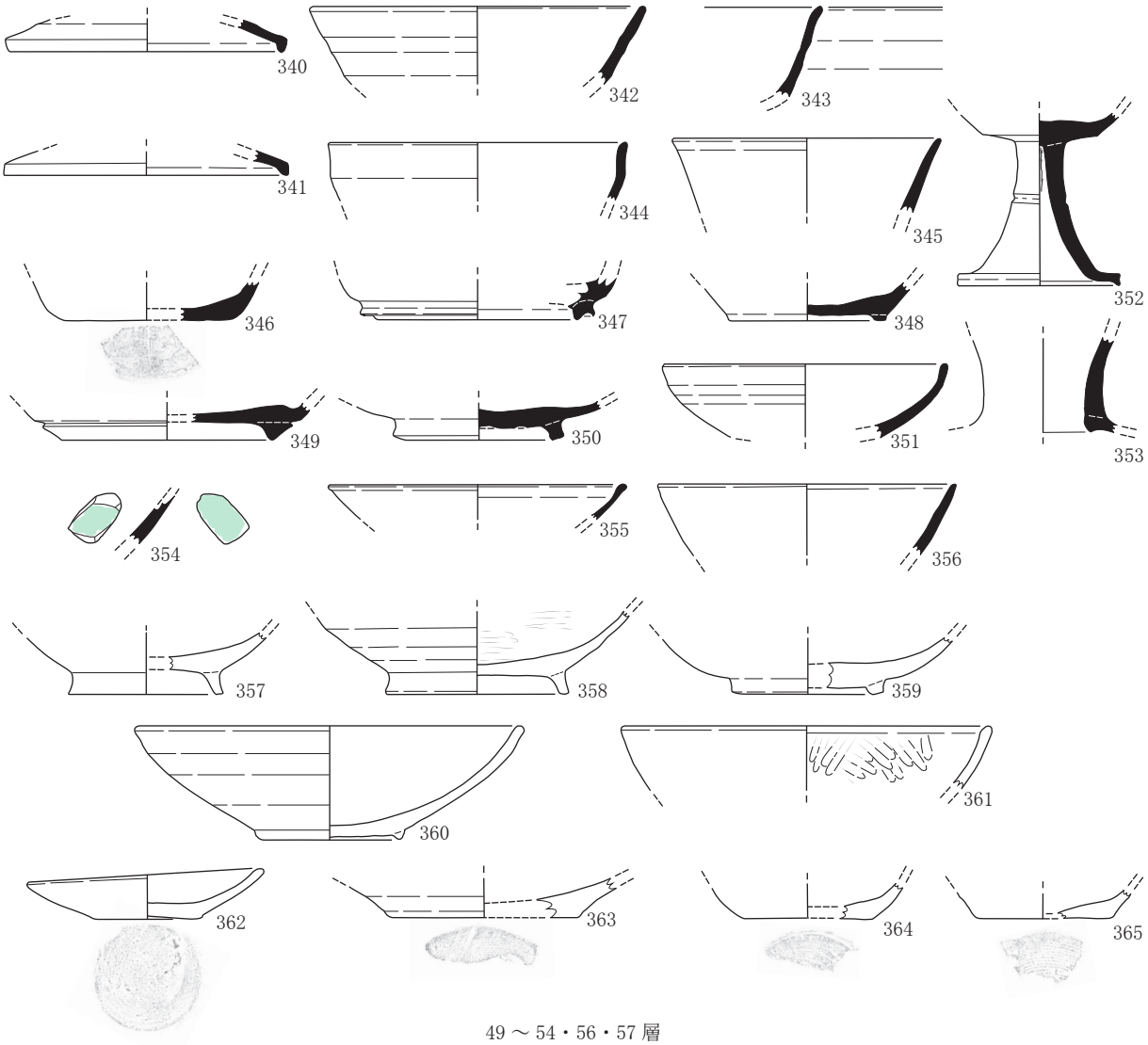
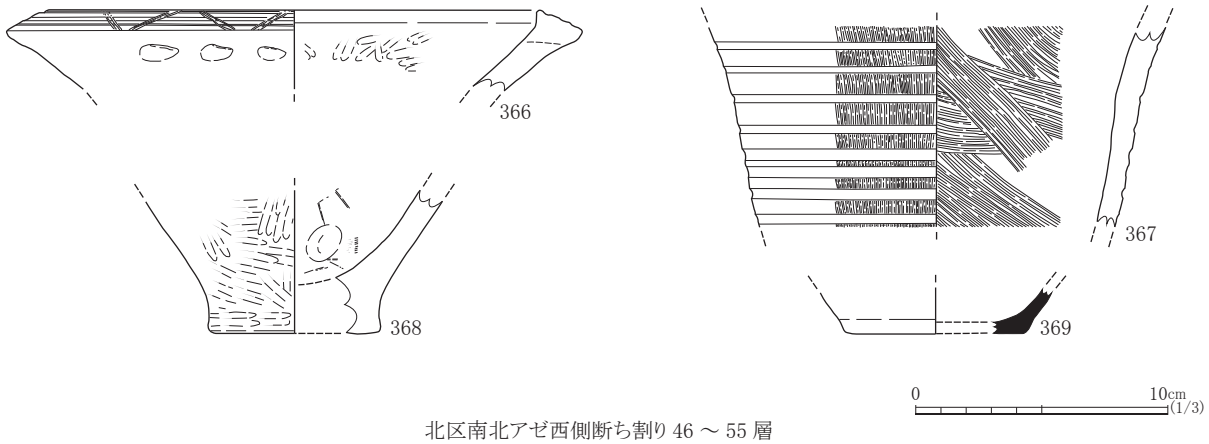


図 25　河川堆積土出土土器実測図⑨



49 ～ 54・56・57 層



北区南北アゼ西側断ち割り 46 ～ 55 層

図 26　河川堆積土出土土器実測図⑩

378～389は弥生土器。378は壺の体部片。頸部下に2条、腹部に3条の平行沈線を巡らせ、内部を無軸羽状文で充填している。施文には平行沈線、羽状文とも二枚貝の腹部を用いている。379は長径壺の口縁－頸部片。口縁は器壁を薄くしながら大きく外に開く。弥生時代中期後半と見られる。口縁端部に面を形成し、端部下に断面三角形の突帯を1条巡らせている。387・388は弥生土器高坏。387は鉢形の坏部口縁部片と見られ、388は弥生時代終末期の高坏の坏底部片。389は同じく弥生時代終末期の脚坏鉢の脚部片。390は土師器甕の口縁－体部片。口縁内外面に強くヨコナデを施す。

61層出土土器（図28・29、写真59・60）

調査区北西部の河川最下層（砂礫層）から出土したもの。弥生時代の遺物が主体であるが、やはり少量ではあるが古墳時代から鎌倉時代の遺物を含む。

391～418は弥生土器。391～409は壺。391～395は口縁部片。391は弥生時代前期の有段の口縁部で、内外面に丹塗りが残る。392は大きく外方に開く広口壺。393は垂下口縁壺で、垂下部外面に山形文を施す。394は392同様の壺で、瀬戸内系と在地系の折衷形態である。396・397は頸－腹部片で、396は平行沈線間に木の葉文が、397は無軸羽状文がほどこされている。398～403は腹部片で、398は二枚貝腹部により沈線と無軸羽状文が、399は平行沈線下に無軸羽状文、斜格子文が施されている。401は小型の須玖系壺で、突帯2条を巡らす。402も須玖系の壺で、丹塗りが残る。410～418は甕。410は多条平行沈線下に刺突文を施す。411～418は底部片であるが、417・418は底部中央に焼成後穿孔を行っているように見える。419～421は土師器。419は内面に粘土紐の巻き上げ痕が明瞭に残る甕。420は古墳時代中期高坏の坏底部－脚部片。421は高坏の坏部片。422・423は須恵器。422は瑳の口縁部片で、口縁外面に波状文を施す。423は高坏坏部片。424～426は土師器坏部片。424は高台付きの皿。坏底部425・426は底部に回転糸切り痕が残る。

旧耕作土出土・層位不明土器層出土土器（図30、写真60）

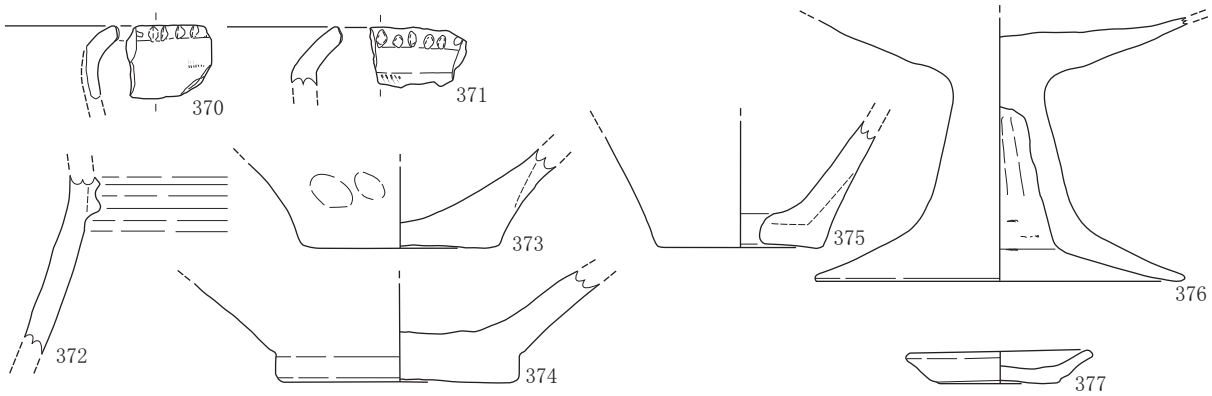
包含層（3層）上に遺存する耕作土出土遺物と、調査中に出土層が不明となってしまった遺物、排土中から出土した遺物を層位不明として掲載する。

427・428は2層出土。427は須恵器蓋で、丸い口縁端部を下垂させる。428は青磁碗口縁部片。

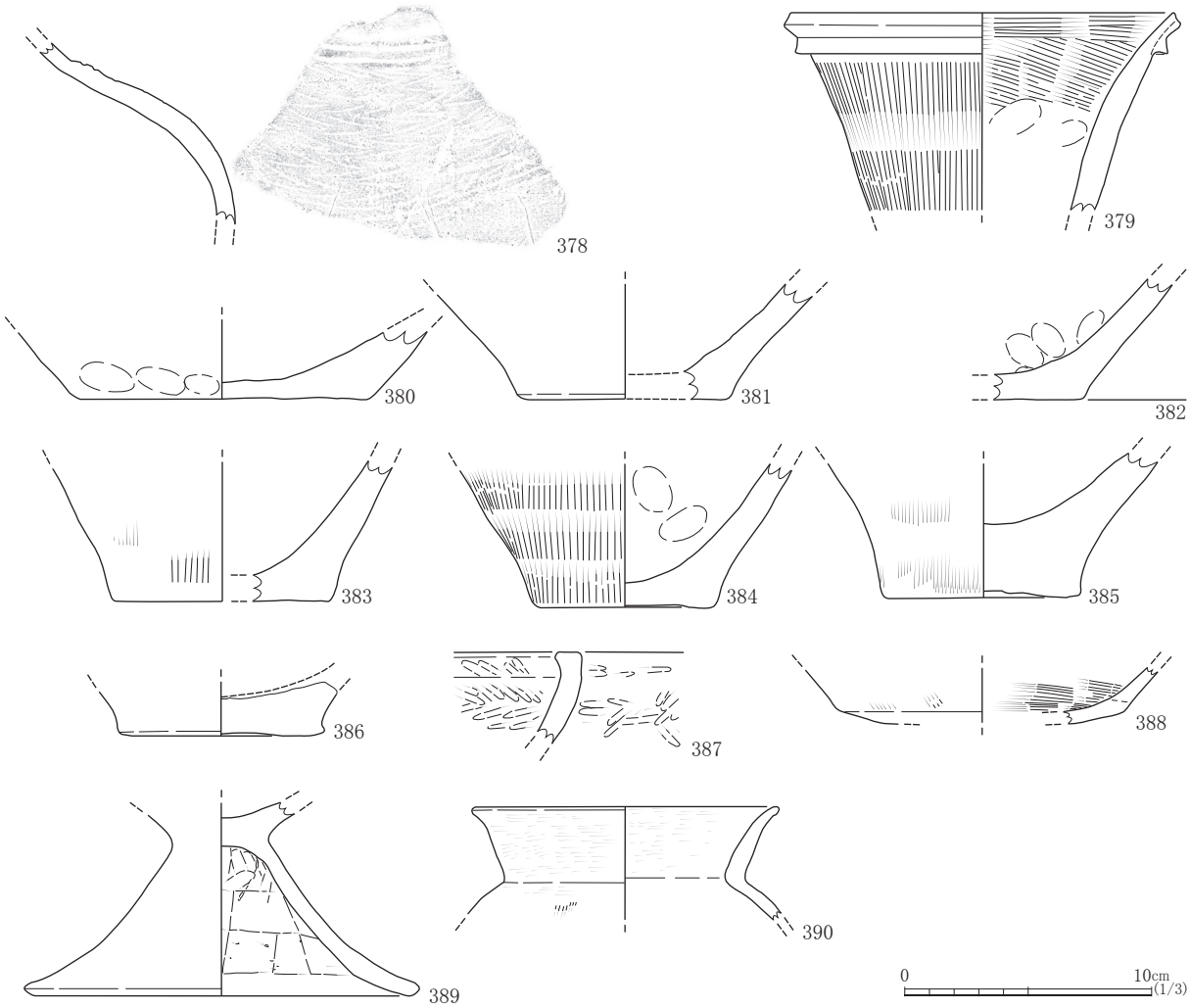
429～441は層位不明品。429は弥生土器甕底部片。内外面ともタテハケ後ナデが施されている。430は土師器甕。外面にはわずかにタテハケが残る。431は古墳時代中期の高坏。脚裾部は屈曲して短く開く。432～437は須恵器坏。平底（432～435）と高台付き（436・437）のものがある。438は土師器埦口縁部片。439は緑釉陶器口縁部片。内外面とも釉の遺存状態が良好である。440は六連式製塩土器体部片。内面の布目は極めて細かい。441は瓦質土器鍋の口縁部片。

以上が今回の調査で出土した土器の概要である。紙面の都合で個別に詳細を記すことはできなかったが、小片を含め可能な限り図化し、遺物写真を公開することを優先した。

縄文土器は少なく、1点のみの確認にとどまった。弥生土器は大量に出土している。掲載した資料では弥生時代前期から一定量の資料が存在するように思えるが、これは文様のある壺を優先して掲載した結果であり、掲載しない無文の壺体部や甕の体部片の実数を考えると、中期から遺物が増加するのが実像であろう。比べて後期は遺物が減少し、終末期に再度増加するように思える。古墳時代に関しては、前期から後期にかけて一定量の資料が存在する。高坏を見ると中期に資料が急増する。古代に関しては、概観すると飛鳥時代から平安時代にかけて徐々に遺物が増加する傾向にある。中世期の資料は実数が少なくなる。土師器の遺存状態が悪いため時期を判別し難いが、小型品を見る限りでは13世紀、少なくとも14世紀には河川は完全埋没するようである。



38・39 層



55・61 層

図 27　河川堆積土出土土器実測図⑪

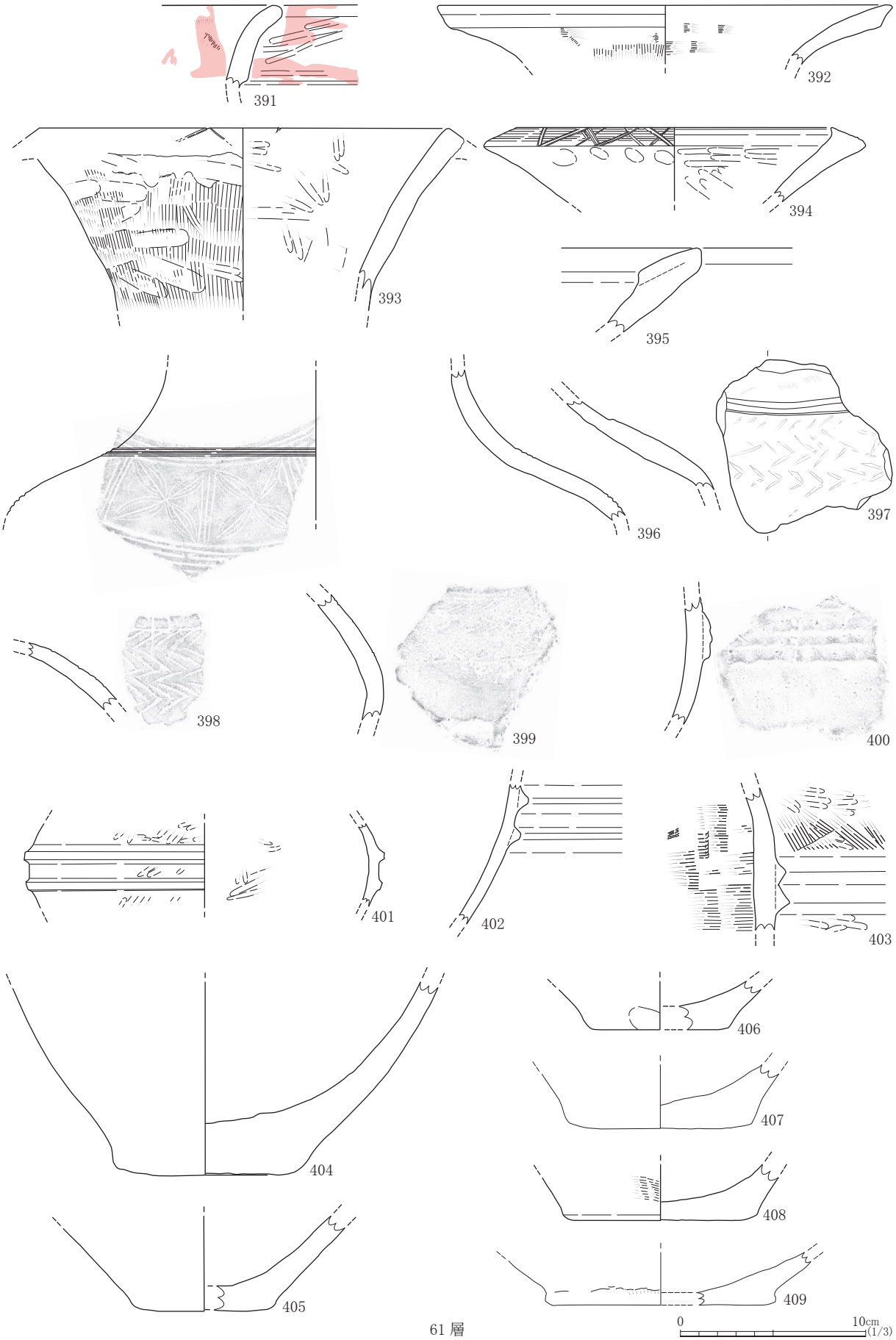
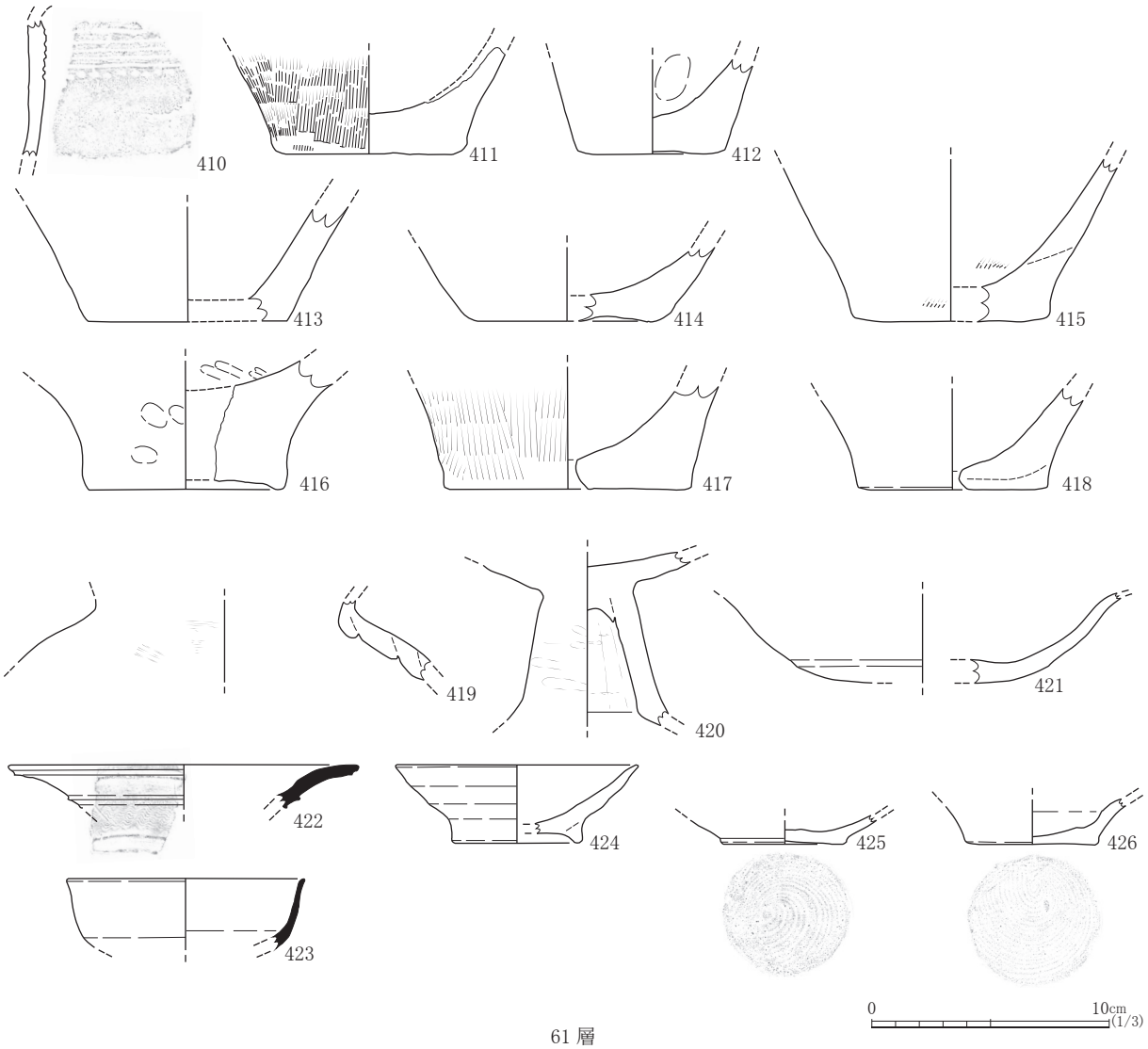


図 28　河川堆積土出土土器実測図⑫



61 層

図 29　河川堆積土出土土器実測図⑬

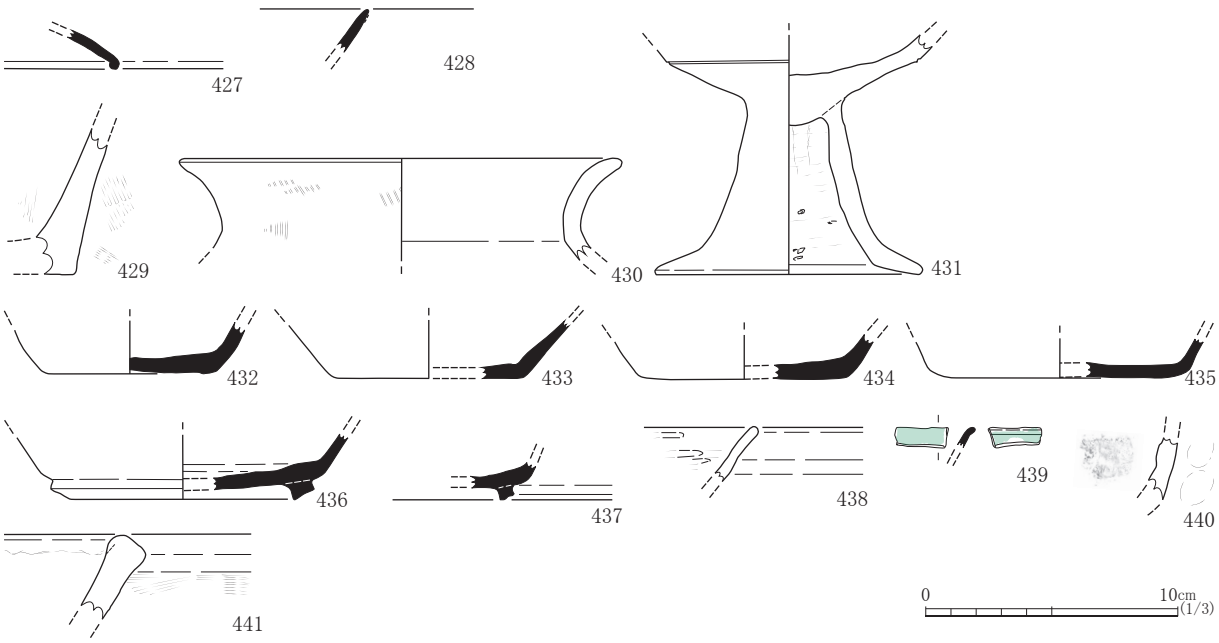


図 30　旧耕土出土・層位不明土器実測図

【土製品】（図31、61、表3）

土製品は土錘のみである。いずれも遺物包含層（3・4層）出土品で、河川堆積土からは出土していない。442は棒状土錘の半損品。443・444は管状土錘。443は両端部を欠失しており、444は長軸で半損している。胎土や土錘の最大径、孔径はほぼ同一である。

【金属器】（図32、写真61、表4）

遺物包含層（3層）から1点が出土している。445は銅製の銙帯具丸鞆。裏金具が付いた状態で出土しており、横幅3.1㎝、縦幅2.3㎝、厚さ0.65㎝、垂孔は1.55㎝×0.6㎝を測る。重量は8.4g。金具の隙間は0.14㎝ほどしかなく、当時の革帯の薄さを示している。両面とも明瞭に研磨痕が残り、3本の鋲も完全に遺存している。裏金具頂部に欠損が見られるが、これは包含層掘削時の打撃によるものである。銹は全く生じておらず、土中では全面塗布の状態で漆が遺存していたものと推測される。現状では漆は垂孔の内面にわずかに残るのみである。なお、出土後に掘削土を探したが、剥離した漆を発見することはできなかった。

遺跡における銙帯具の出土は、表金具または裏金具が単独で出土する例が大多数であるが、これは使用時に帯から脱落したためと考えられる。本例のように鋲が完全に遺存する状態で帯から脱落したとは考えがたいため、帯に付された状態で遺棄または埋められたものと思われる。表裏金具が結合した状態で出土した例は、県内では見島ジーコンボ古墳群出土例[註1]以外に存在しないことから、調査地周辺に律令官人の墓が存在した可能性すらも指摘できる。なお、吉田遺跡では当調査区北方約150mの丘陵上での調査で谷埋土から石帯具丸鞆が1点出土している[註2]。

【石器】（図33、写真61・62、表5）

446は2面で折損した花崗岩製の石器。扁平な上下面を磨いているが、用途不明。片表面（図右側）は被熱により変色している。447角閃石安山岩製の紡錘車。復元径4.6㎝、復元孔径0.7㎝、厚さ0.7～0.8㎝、重量5.06g。448はサヌカイト製の凹基打製石鏃。先端部と両翼端部を欠失する。449は花崗岩質の磨石。端部が摩耗している。以上4点は遺物包含層（3層）出土である。450は9層出土の花崗岩製敲石。全面を敲打に使用している。451は42層出土の棒状石器端部片。全面に研磨が施される、端部をより丁寧に研磨している。452～454は砥石。455は59層出土の頁岩製大型石庖丁。横幅18㎝、縦幅9.1㎝、最大厚1.1㎝、重量213.29g。刃部は両刃で緻密な研磨が施されている一方で背部の加工は粗い。紐孔は両面穿孔にて設けられている。吉田遺跡では初の完形石庖丁の出土となる。456～458は太型蛤刃石斧。いずれも河川堆積最下層の砂礫層から出土している。このうち457は刃部が摩耗しており、基部の一部を欠失するものの、こちらも遺跡で初の完形品の出土となる。

【木製品】（図36～40、表6、写真32・43）

459～469は調査区北部の木製品集中部（木器溜め：60層）出土。板材（459～461・465）や丸太加工の未成品（462）などであるが、466～469は用途不明であるものの連続して設けられた孔の周囲に使用痕が残っていることから、再利用のため水漬けにされたと思われる。466・469は片側面に長方形もしくは方形の溝を設けている。470～475は河川堆積土最下層出土の木製品。470はほぼ完形を保つ木錘。472・473は両者とも杭先状の加工が施され、被熱箇所が存在する。矢板であろうか。

【註】

1）斎藤忠・小野忠熙（1964）「考古の部」，山口県教育委員会（編）『見島総合学術調査報告』，山口

2）河村吉行・森田孝一ほか（1985）「吉田構内大学会館新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』,山口

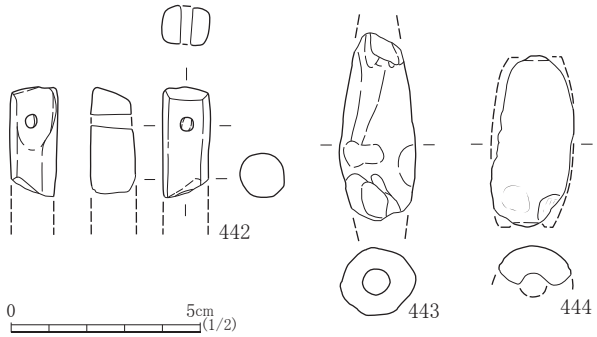


図 31　出土土製品実測図

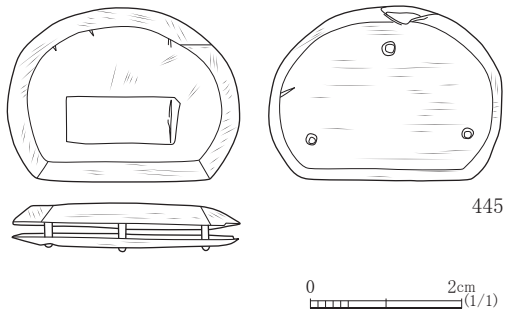


図 32　出土金属器実測図

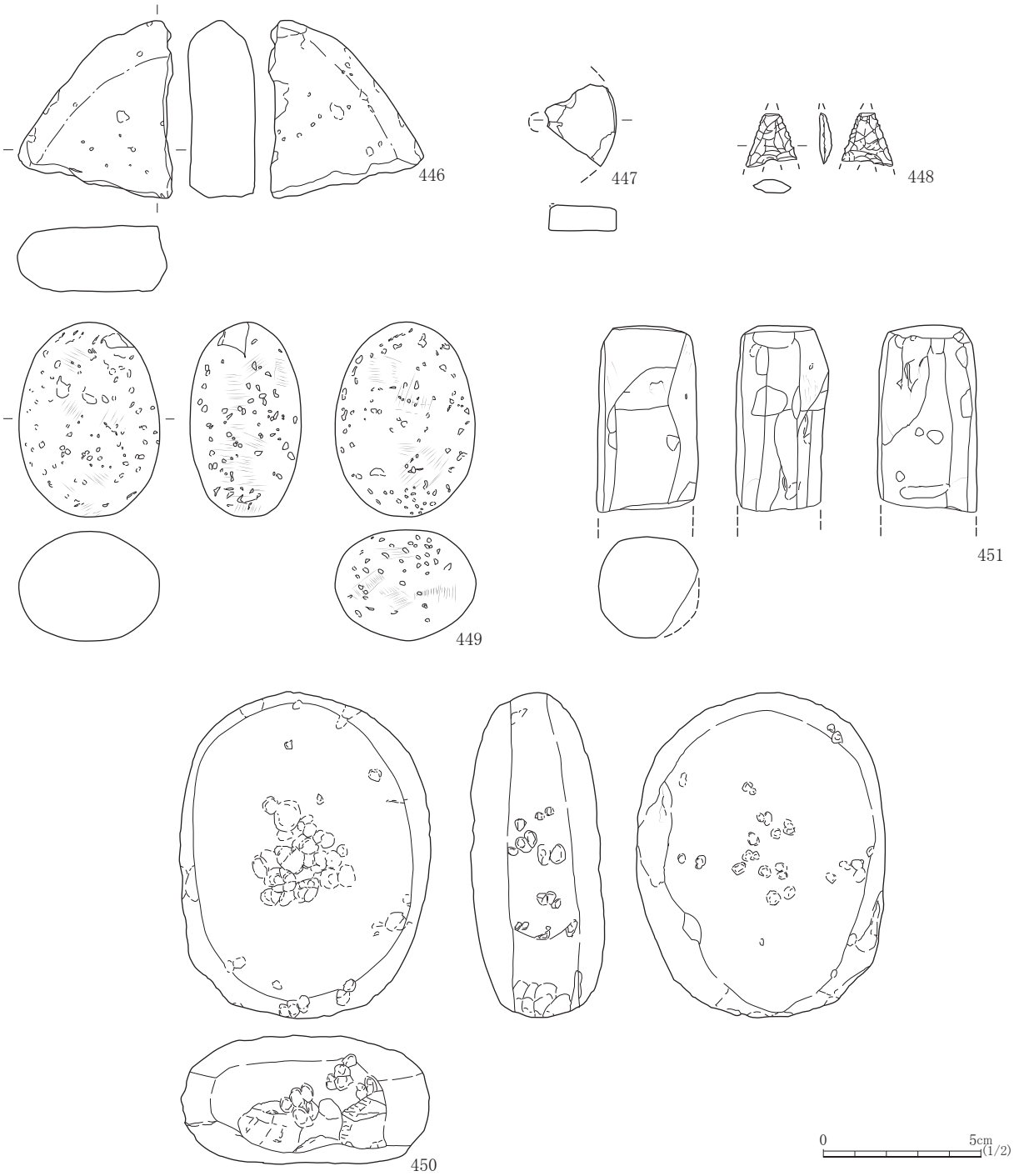


図 33　出土石器実測図①

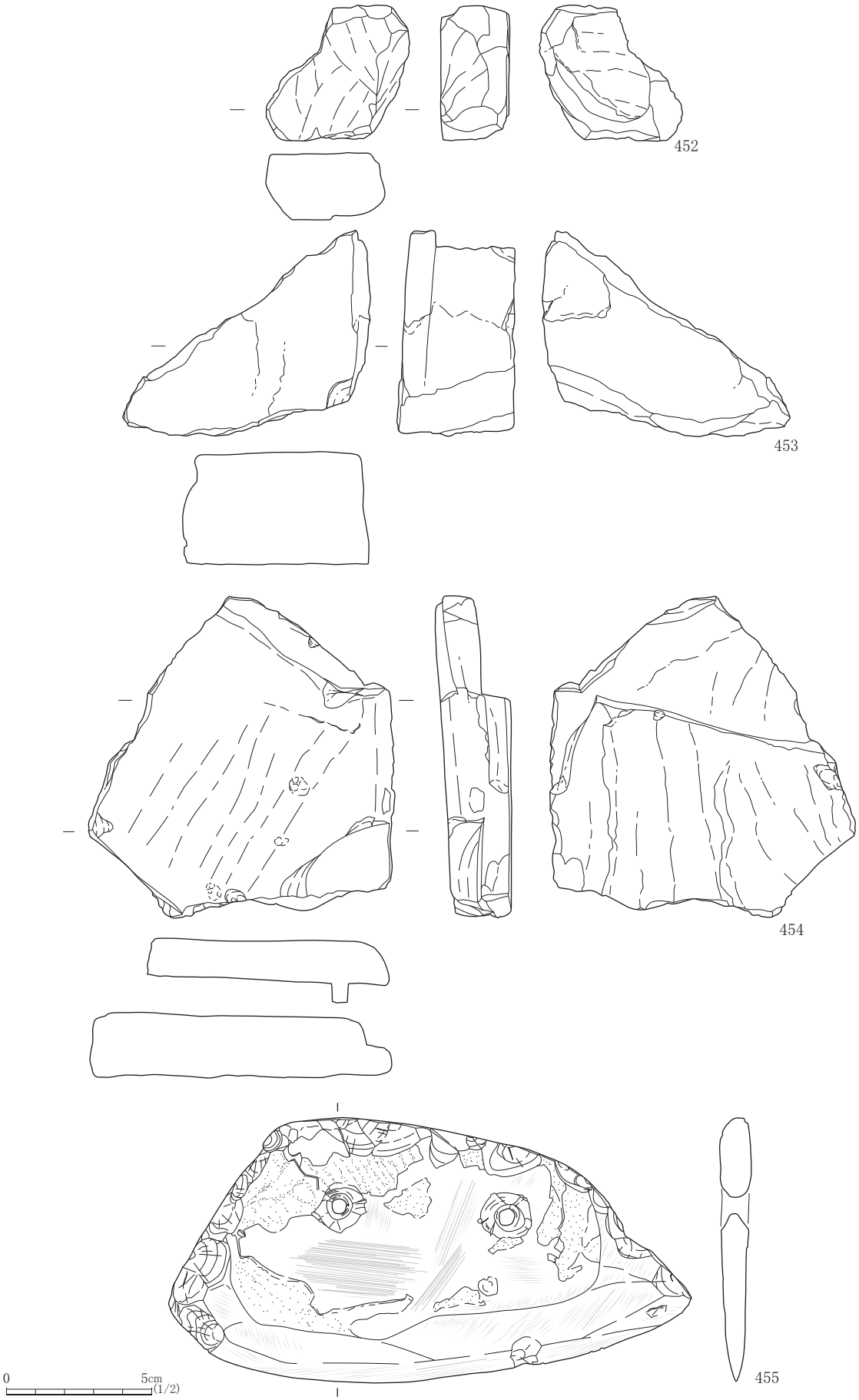


図 34　出土石器実測図②

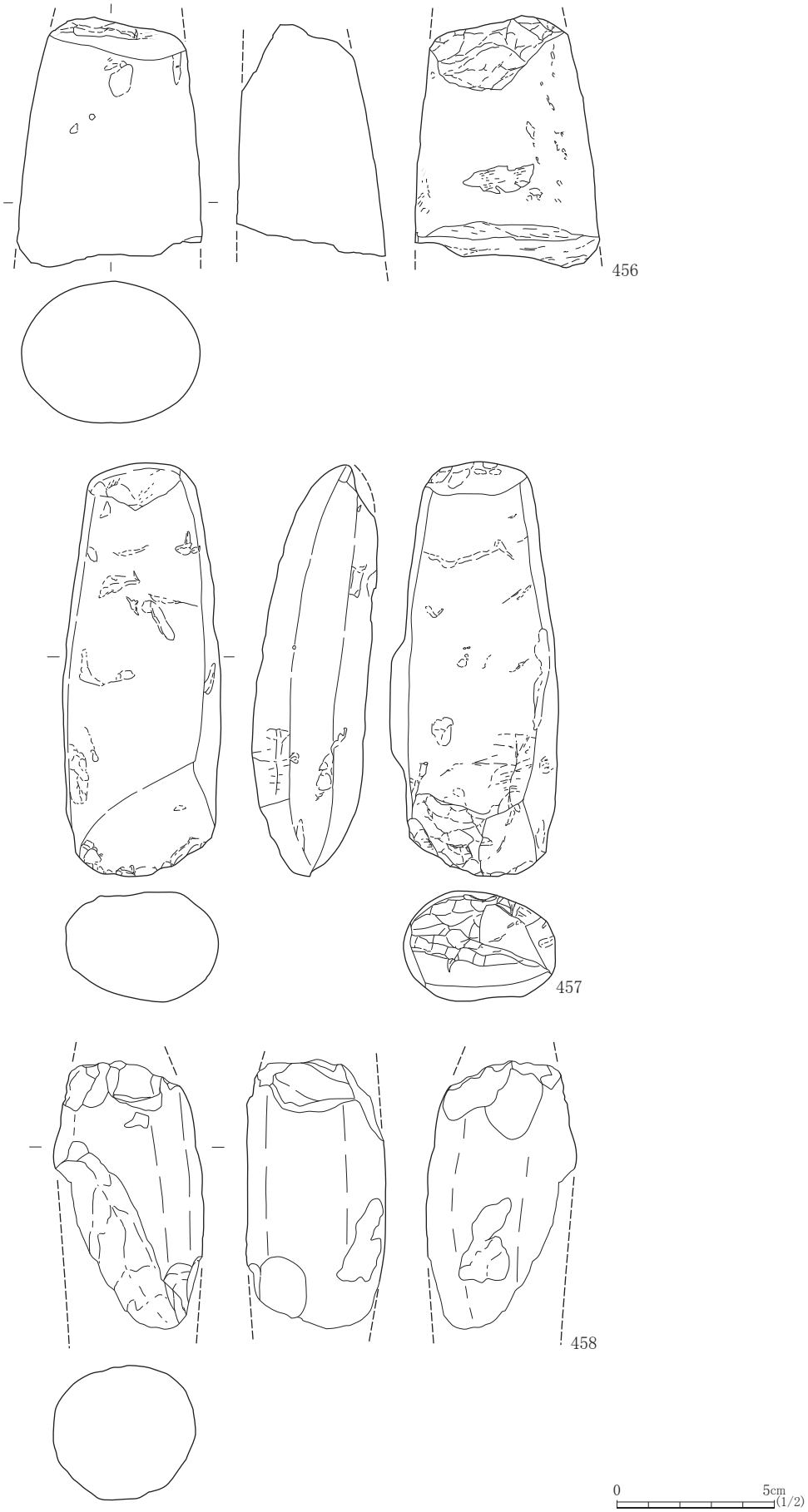


図 35　出土石器実測図③

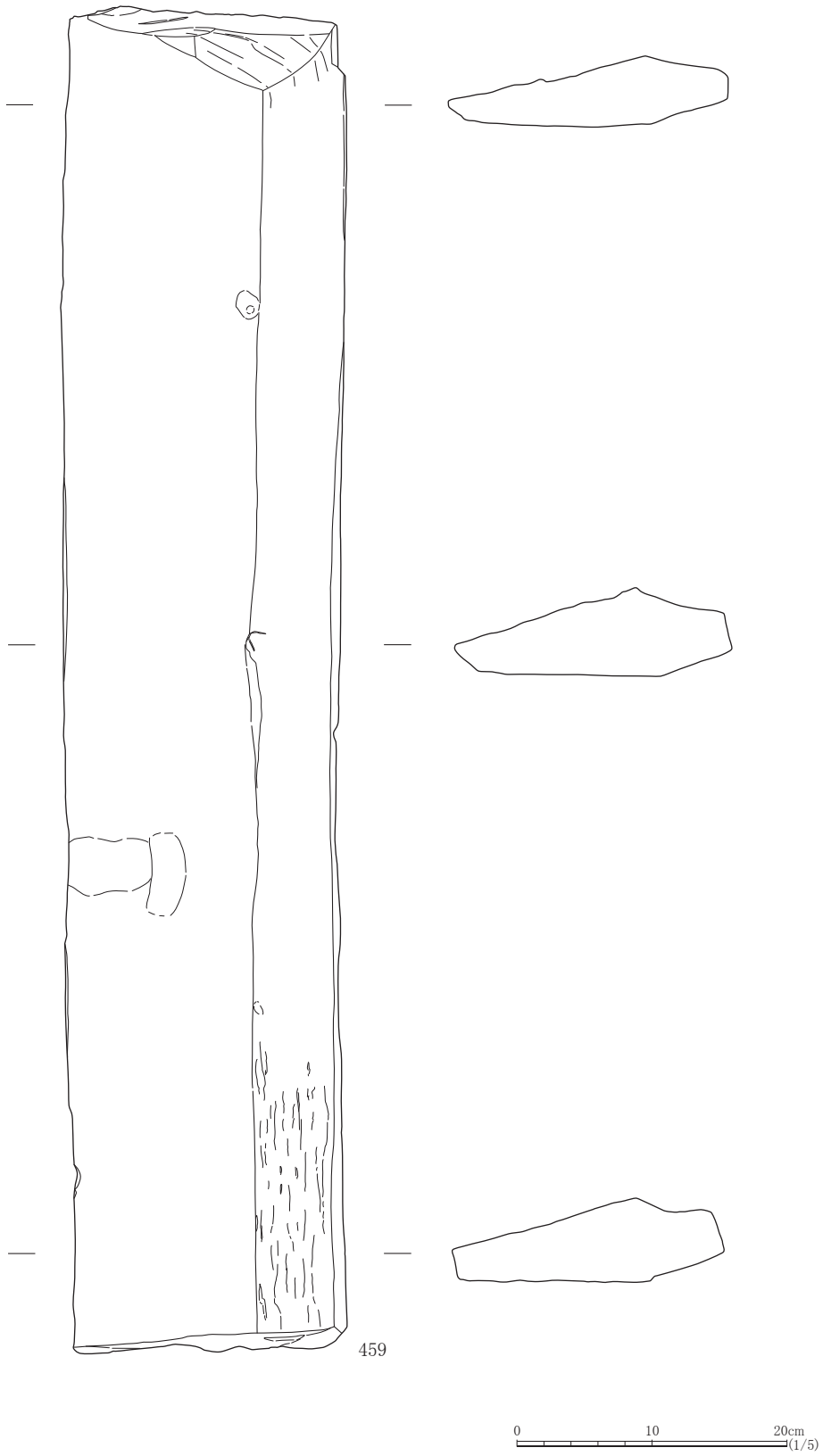


図 36　出土木製品実測図①

図 37　出土木製品実測図②

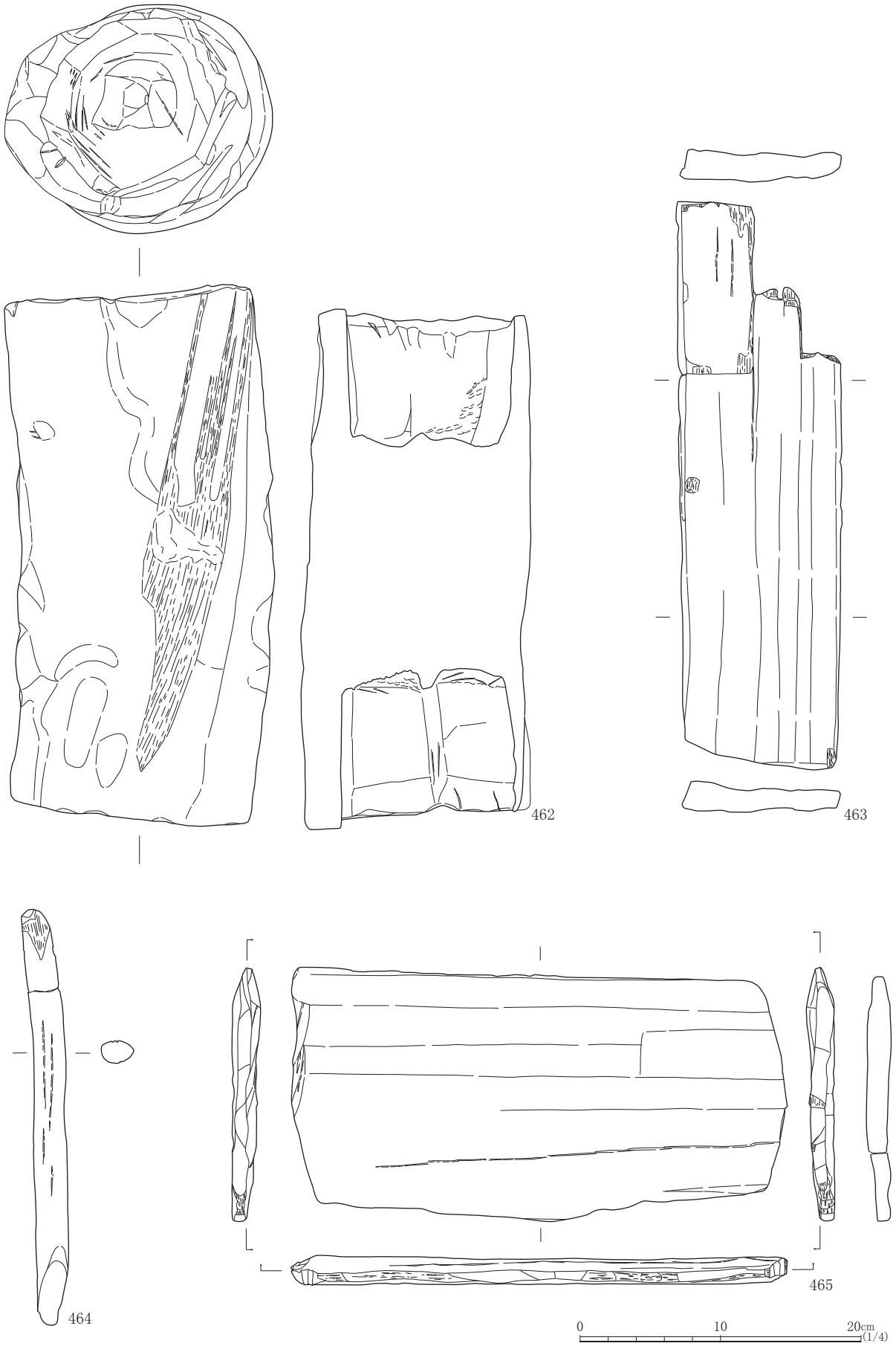
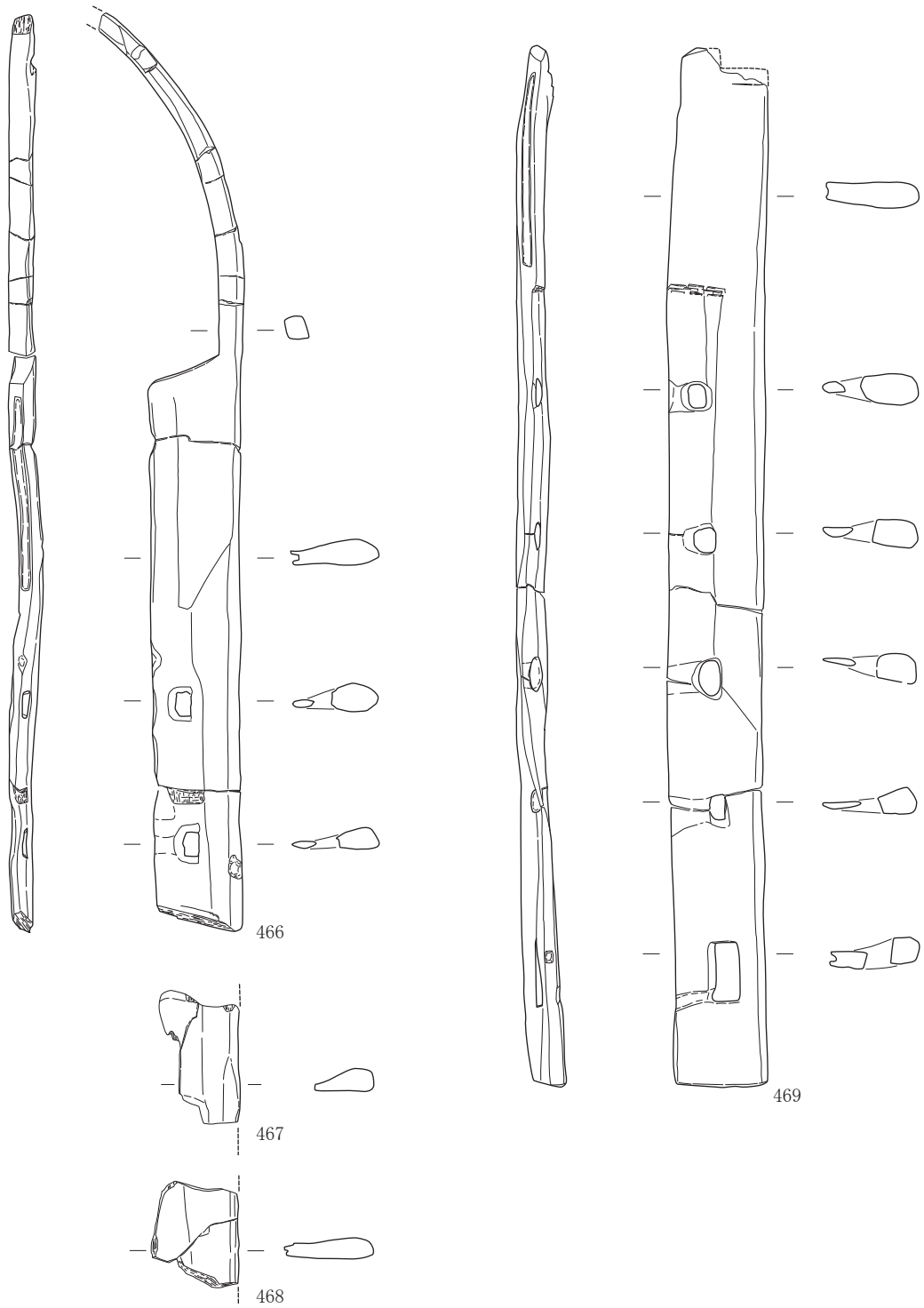


図 38　出土木製品実測図③



0　10　20cm
(1/4)

図 39　出土木製品実測図④

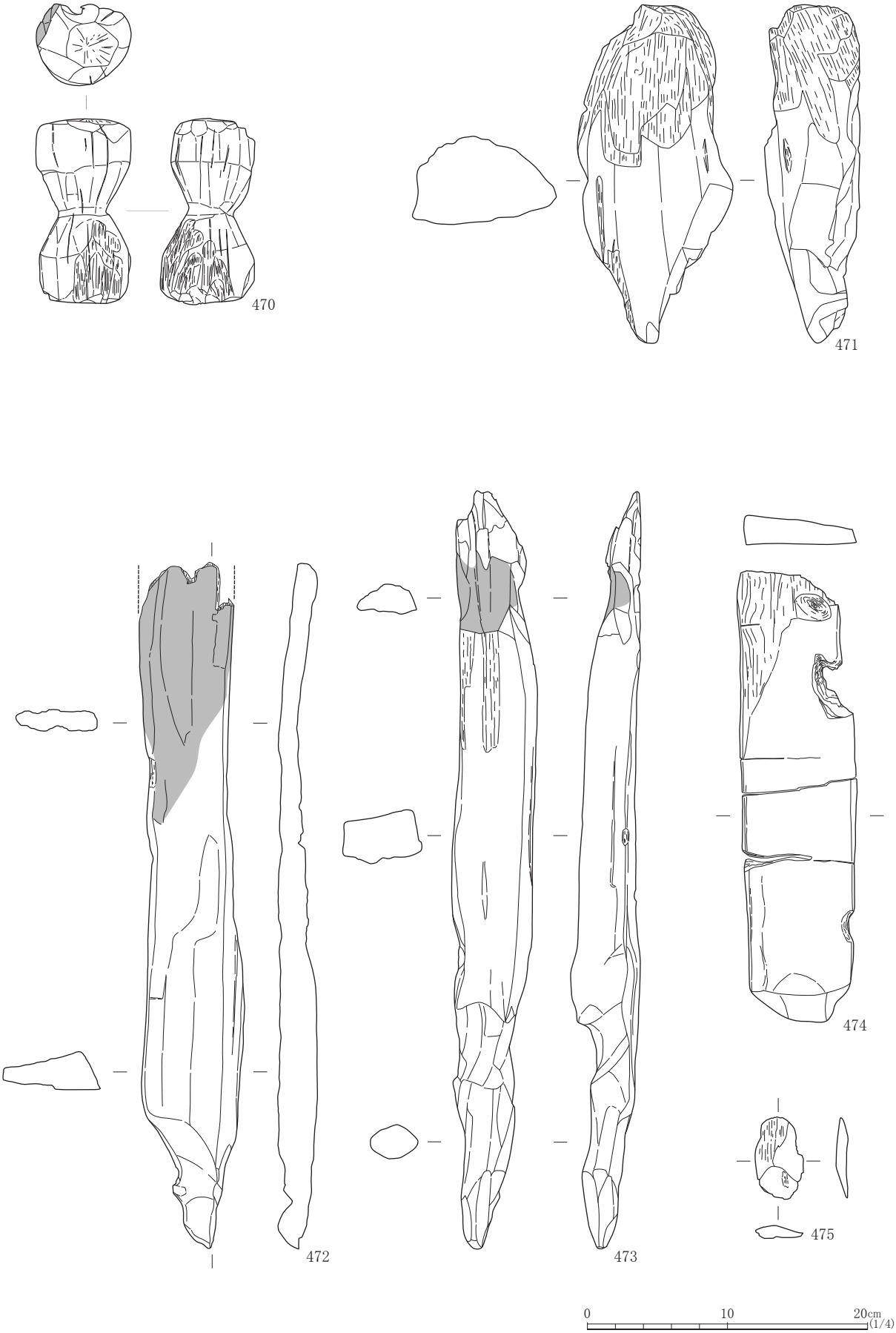


図 40　出土木製品実測図⑤

写真 45　出土遺物（土器）①

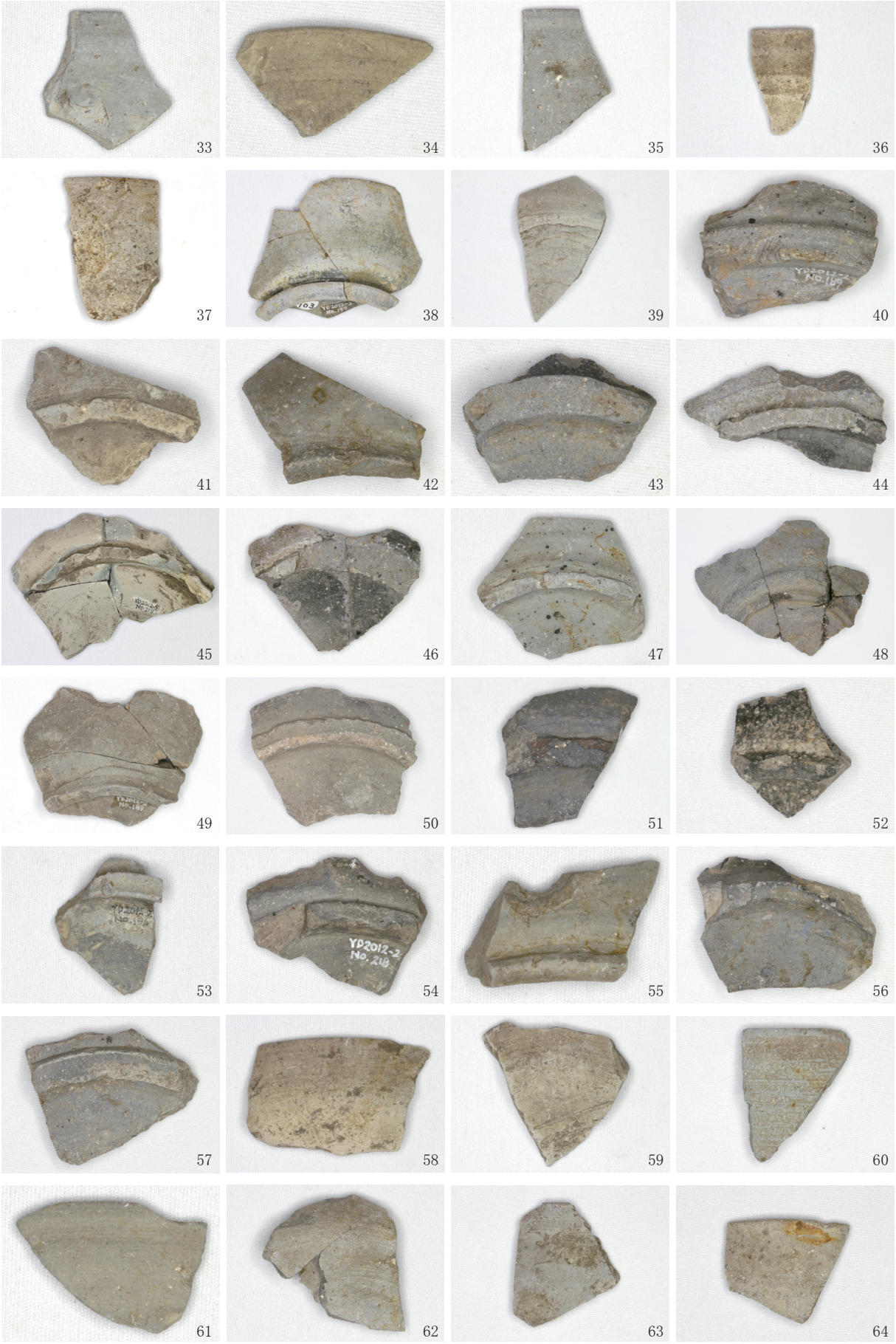


写真 46　出土遺物（土器）②

写真 47　出土遺物（土器）③

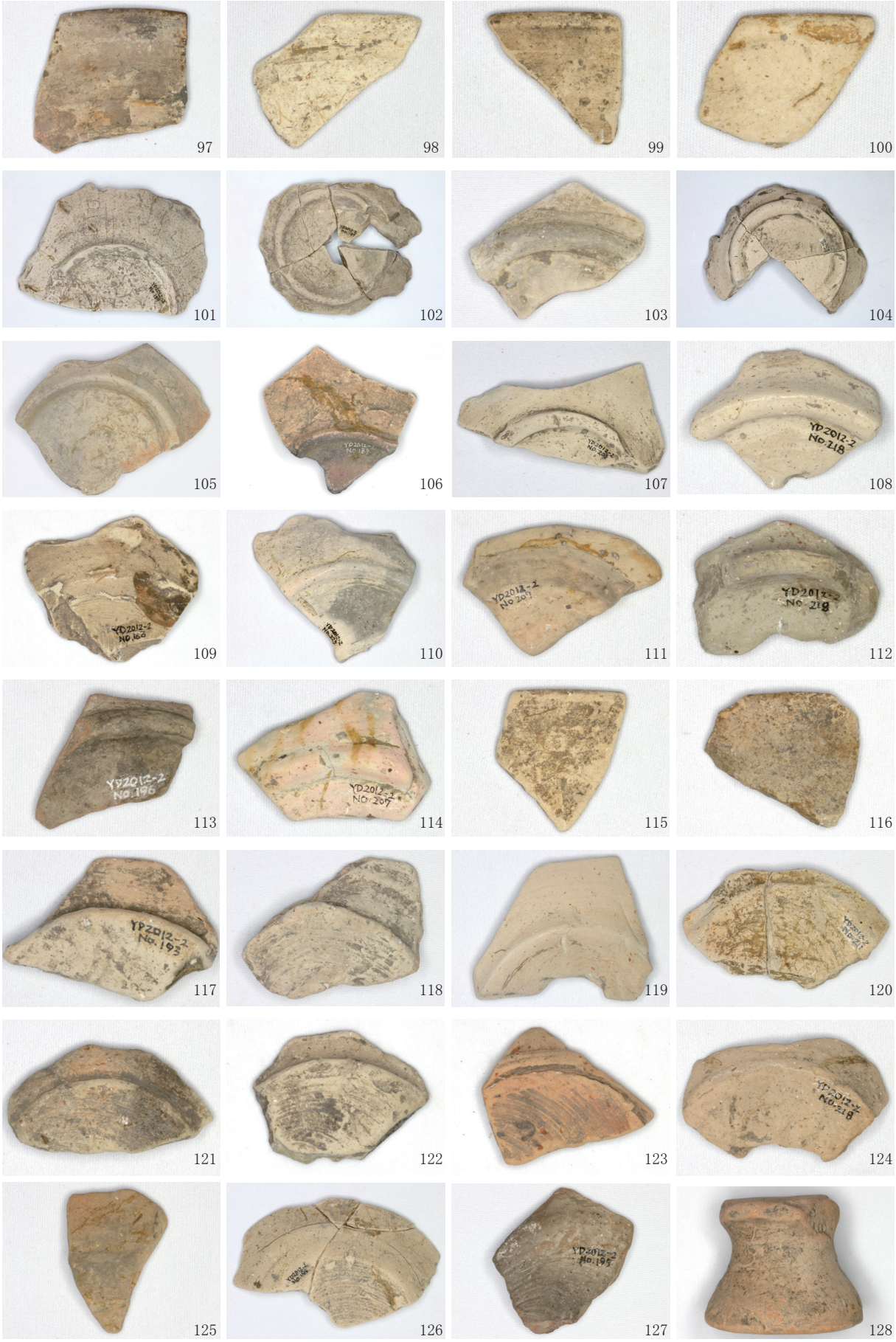


写真 48　出土遺物（土器）④

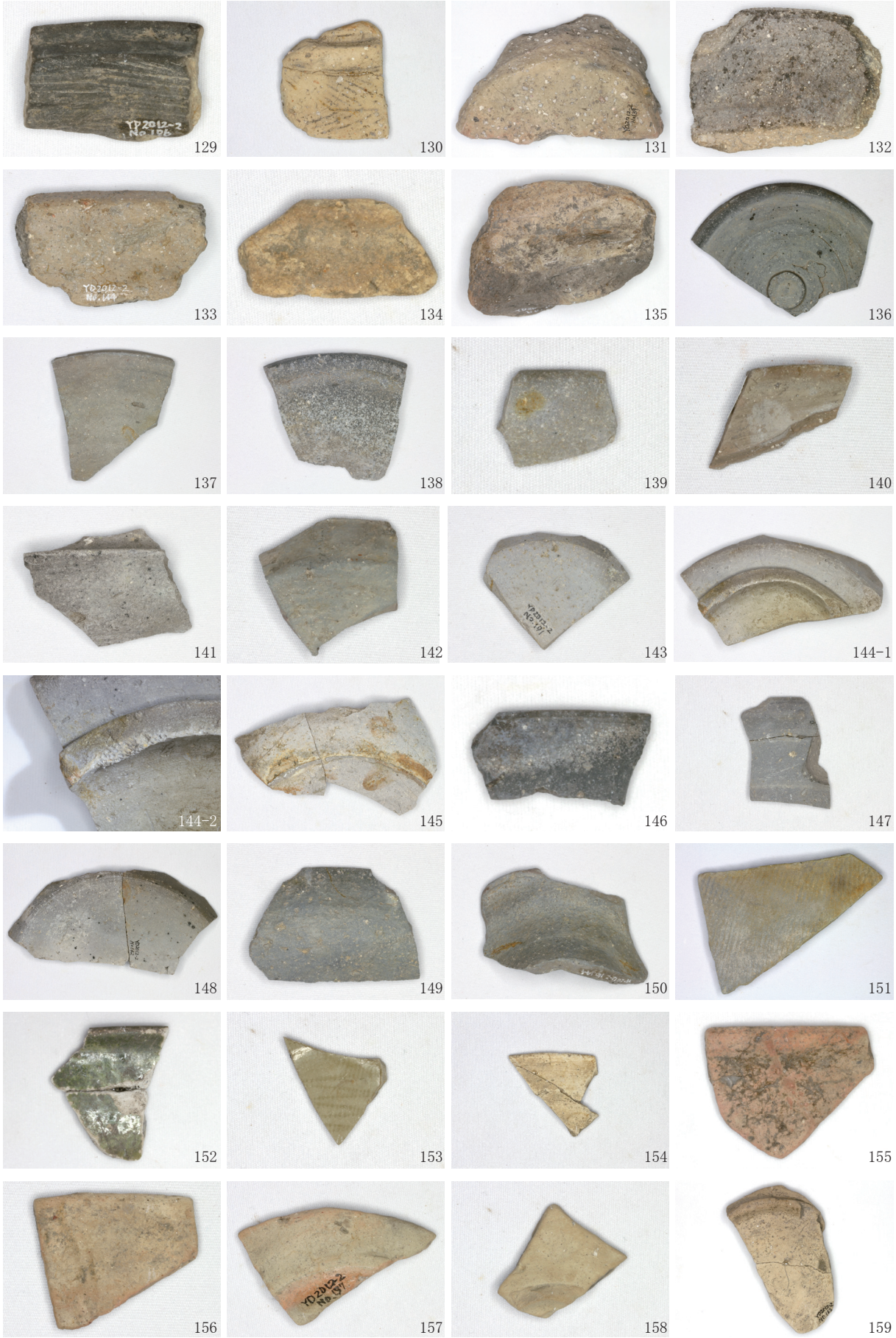


写真 49　出土遺物（土器）⑤

160

161

162

163

164

165

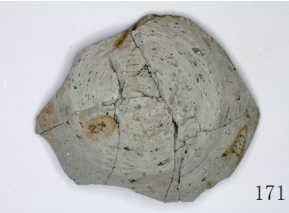
166

167

168

169

170


171

172

173

174

175

178-1

178-2

179-1

179-2

写真 50　出土遺物（土器）⑥

写真 51　出土遺物（土器）⑦

写真 52　出土遺物（土器）⑧

232-1

232-2

229

230

233

234

235

236

237

238

239

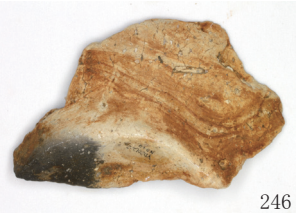
240

242

243

244

245



246

247

231

241

248

写真 53　出土遺物（土器）⑨

251

252

257

253-1

253-2

249

250

254

255

256

261

262

263

258

259

260

写真 54　出土遺物（土器）⑩

写真 55　出土遺物（土器）⑪

289

290

291

292

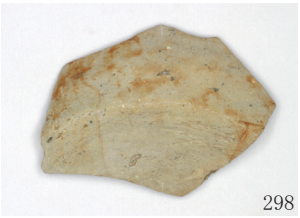
293

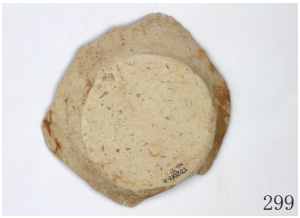
294

295

296

297


298


299

300

301

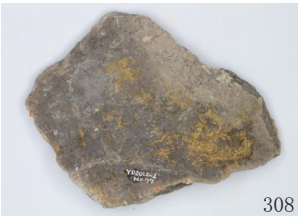
302

303

304

305

306


308

309

310

311

312

315

313

314

写真 56　出土遺物（土器）⑫

写真 57　出土遺物（土器）⑬

写真 58　出土遺物（土器）⑭

写真 59　出土遺物（土器）⑮

398

399

403

404

405

406

407

408

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

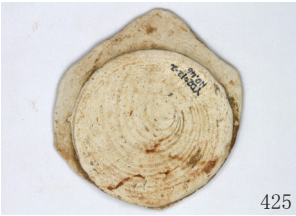
420

421

422

423

424


425

426

427

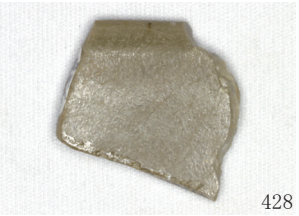

428

写真 60　出土遺物（土器）⑯

写真 61　出土遺物（土器・土製品・金属器・石器)⑰

449

452

454

450

451

456

457

453

458

455-1

455-2

写真 62　出土遺物（石器）⑱

表2　出土遺物（土器）観察表

法量（　）は復元値

遺物番号	層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	3層	縄文土器　深鉢	口縁部		①②黒褐色(2.5Y3/1)	粗：1～2mmの石英・長石を多量に含む	
2	3層	弥生土器　壺/甕	底部	②(6.6)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
3	3層	土師器　甕	口縁部	①(15.0)	①灰白色(10YR8/1) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密：0.5mmの石英・長石を少量含む	
4	3層か	土師器　甕	口縁部		①にぶい赤褐色(2.5YR4/4)　②にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	やや粗：0.5～2mmの石英・長石・角閃石を多量に含む	
5	3層	土師器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
6	3層	土師器　甕/甑	把手		上　灰白色(10YR8/2) 下　にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
7	3層	土師器　甕/甑	把手		上　浅黄色(2.5Y7/3) 下　灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗：0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
8	3層	土師器　甕/甑	把手		上　にぶい黄橙色(10YR7/2) 下　にぶい橙色(2.5YR6/3)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
9	3層	土師器			①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む 赤色土粒を少量含む	
10	3層	須恵器　蓋	撮部		①②灰色(N6/)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
11	3層	須恵器　蓋	口縁部	①(15.0)	①②灰白色(5Y7/1)	密：0.5mmの石英・長石を少量含む	
12	3層	須恵器　蓋	口縁部	①(14.8)	①②灰白色(5Y7/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
13	3層	須恵器　蓋	口縁部	①(13.3)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
14	3層	須恵器　蓋	口縁部	①(13.2)	①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6/)	やや粗：0.5mmの石英をやや多く含む	灰白色(5Y7/1)の自然釉
15	3層	須恵器　蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
16	3層	須恵器　蓋	口縁部		①②灰色(N7/)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
17	3層	須恵器　蓋	口縁部		①灰色(N6/) ②黄褐色(2.5Y5/1)	精緻：1mmの長石を少量含む	
18	3層	須恵器　蓋	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密：1mmの石英・長石を少量含む	
19	3層	須恵器　蓋	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)	精緻：0.5mmの石英を少量含む	
20	3層	須恵器　蓋	口縁部		①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/)	密：0.5mmの石英を少量含む	
21	3層	須恵器　蓋	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密：砂粒をほとんど含まない	
22	3層	須恵器　蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
23	3層	須恵器　坏	口縁部	①(13.8)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/1)	密：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
24	3層	須恵器　坏	口縁部	①(13.8)	①②灰色(10Y6/1)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
25	3層	須恵器　坏	口縁部	①(12.6)	①②灰色(7.5Y6/1)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
26	3層	須恵器　坏	底部	②(8.2)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
27	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(5Y6/1) ②灰色(7.5Y5/1)	密：0.5mmの石英をやや多く含む 1～2mmの黒色土粒を少量含む	
28	3層	須恵器　坏	口縁部		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
29	3層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
30	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
31	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
32	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
33	3層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
34	3層	須恵器　坏	口縁部		①にぶい黄橙色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む	
35	3層か	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
36	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2)灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)暗灰黄色(2.5Y5/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
37	3層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
38	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(7.0)	①灰白色(10Y7/1) ②灰白色(N7/)	精緻:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
39	3層	須恵器　高台付杯	底部		①②灰色(5Y6/1)	精緻:0.5mmの長石を少量含む	
40	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(11.0)	①②灰色(N6/)	緻密:0.5～1mmの砂粒を少量含む　1mmの黒色土粒を少量含む	
41	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(8.0)	①灰黄色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
42	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(9.6)	①②灰黄色(2.5Y5/1)	精緻:0.5mmの長石を少量含む	
43	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(7.7)	①②灰色(N6/)	密:0.5mmの長石を少量含む	
44	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(6.9)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む	
45	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(7.5)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰色(7/5Y6/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
46	3層	須恵器　高台付杯	口縁部		①灰色(N4/) ②灰白色(N7/)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む　1mmの黒色土粒をやや多く含む	
47	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(8.8)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.5mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む	
48	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(7.0)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
49	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(6.8)	①②灰色(5Y6/1)	密:0.5mmの石英をやや多く含む	
50	3層	須恵器　高台付杯	底部	②(10.2)	①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
51	3層	須恵器　高台付杯	底部		①②灰色(N6/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
52	3層	須恵器　高台付杯	底部		①灰色(5Y4/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの黒色土粒を少量含む	
53	3層	須恵器　高台付杯	底部		①灰白色(7.5Y7/1)灰色(N5/) ②灰色(5Y6/1)	密:砂粒をほとんど含まない	
54	3層	須恵器　高台付杯	底部		①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	精緻:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
55	3層	須恵器　高台付杯	底部		①②灰色(5Y6/1)	精緻:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
56	3層	須恵器　高台付杯	底部		①②灰色(N5/)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む	
57	3層	須恵器　高台付杯	底部		①灰色(N6/) ②灰色(N7/)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
58	3層	須恵器　皿	口縁部～底部	①(14.6)②(12.3)③2.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
59	3層	須恵器　皿か	底部	②(9.6)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(10YR7/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
60	3層	須恵器　皿	口縁部		①②灰色(N7/)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
61	3層	須恵器　皿	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
62	3層	須恵器　皿か	底部		①灰白色(7.5Y7/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
63	3層	須恵器　台付皿か	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密：0.5mmの長石を少量含む	
64	3層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
65	3層か	須恵器　高坏	杯部	③3.0	①②灰色(N5/) 釉　灰白色(N7/)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
66	3層	須恵器　高坏	脚部	②(10.2)	①褐灰色(7.5YR5/1) ②褐灰色(7.5YR5/2)	密：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
67	3層	須恵器　高坏	脚部	②(11.0)	①灰色(N6/) ②灰色(N7/)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
68	3層	須恵器　高坏	脚部	②(13.4)	①灰色(5Y5/1) ②灰色(7.5Y6/1)	精緻：0.5～1mmの石英・長石を極少量含む	
69	3層	須恵器　壺	底部		①灰色(10Y5/1) ②灰色(10Y6/1)	やや粗：砂粒をほとんど含まない	
70	3層	緑釉陶器　皿	口縁部	①(10.0)	①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰色(5Y6/1) 素地　灰色(5Y5/1)	精緻：砂粒をほとんど含まない	須恵質
71	3層	緑釉陶器　皿	口縁部		①浅黄色(7.5Y7/3) ②灰白色(7.5Y7/2) 素地　灰白色(7.5Y8/1)	密：砂粒を含まない	
72	3層	緑釉陶器　埦	体部		①②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地　灰白色(10YR8/1)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
73	3層	緑釉陶器　埦か	体部		①②暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) 素地　灰白色(2.5Y8/1)	密：砂粒を含まない	
74	3層	緑釉陶器　埦	体部		①浅黄色(7.5Y7/3) ②オリーブ黄色(7.5Y7/3) 素地　灰白色(5Y8/1)	やや粗：0.5～2.5mmの石英を少量含む	
75	3層	緑釉陶器	体部		①②オリーブ黄色(7.5Y6/3) 素地　灰白色(2.5Y8/2)	密：砂粒をほとんど含まない	
76	3層	緑釉陶器　埦	底部	②(7.2)	①灰オリーブ色(7.5Y6/2) ②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地　灰白色(2.5Y8/1)	密：砂粒を含まない	
77	3層	緑釉陶器の小破片			①明オリーブ灰色(2.5GY7/1) ②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地　灰白色(10YR8/1)		写真のみ
78	3層	製塩土器	体部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②橙色(7.5YR7/6)	やや粗：1～5mmの石英・長石をやや多く含む	六連式
79	3層	製塩土器	口縁部		①灰白色(7.5YR8/1) ②明褐灰色(7.5YR7/2)	密：0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	六連式
80	3層	黒色土器A類　埦	口縁部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②オリーブ黒(5Y3/1)	やや粗：0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	内面黒色処理
81	3層	青磁　埦	口縁部	①(17.7)	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰オリーブ色(5Y5/2)	密	龍泉窯系
82	3層	青磁　埦	体部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	やや粗：砂粒を含まない	
83	3層	青磁　埦	口縁部	①(17.0)	①②灰オリーブ色(5Y6/2)	密	
84	3層	白磁　埦	口縁部	①(15.0)	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗	福建省産
85	3層	白磁　皿	口縁部	①(10.2)	①灰白色(10Y7/1) ②灰白色(10Y8/1) 素地　灰白色(N8/)	密：砂粒を含まない	
86	3層	白磁　埦	体部		①②灰白色(5Y8/1)	やや粗：砂粒を含まない	
87	3層	白磁　埦	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗	
88	3層	白磁　埦	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	密：砂粒を含まない	
89	3層	白磁　埦	口縁部		①②灰白色(7.5Y8/1)	密	
90	3層	土師器　埦	口縁部～底部	①(15.2)②(7.0)③4.6	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
91	3層	土師器　埦	口縁部	①(17.0)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	密：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
92	3層	土師器　埦	口縁部	①(15.2)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7.2)	密：0.5mmの石英・長石を極少量含む	
93	3層	土師器　埦	口縁部	①(14.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：0.5mmの石英・長石を少量含む	
94	3層	土師器　埦	口縁部	①(12.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②褐灰色(10YR6/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
95	3層	土師器　埦	口縁部	①(12.0)	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(10YR8/2)	密：砂粒をほとんど含まない	
96	3層	土師器　埦	口縁部		①②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
97	3層	土師器　埦	口縁部		①灰褐色(7.5YR6/2) ②灰白色(7.5YR8/2)褐灰色(7.5YR4/1)	密：1.5mmの石英・長石を少量含む	
98	3層	土師器　埦	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密	
99	3層	土師器　埦	口縁部		①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～3mmの石英・長石を少量含む	
100	3層	土師器　埦	口縁部		①②浅黄色(2.5Y8/3)	密：砂粒をほとんど含まない	
101	3層	土師器　埦	底部	②(7.6)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)黒褐色(2.5Y3/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
102	3層	土師器　埦	底部	②7.7	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
103	3層	土師器　埦	底部	②(8.2)	①②灰白色(10YR7/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
104	3層	土師器　埦	底部	②7.0	①②灰白色(10YR8/2)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
105	3層	土師器　埦	底部	②(6.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい橙色(5YR7/3)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
106	3層	土師器　埦	底部	②(6.5)	①にぶい橙色(7.5YR7/3) ②灰黄褐色(10YR6.2) 灰色(N4/)	密：0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
107	3層	土師器　埦	底部	②(5.9)	①②灰白色(10YR8/2)	密：砂粒をほとんど含まない	
108	3層	土師器　埦	底部	②(5.9)	①灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密：0.5mmの石英・長石を多量に含む	
109	3層	土師器　埦	底部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰白色(10YR8/2)	密：砂粒をほとんど含まない	高台剥離
110	3層か	土師器　埦	底部	②(6.4)	①灰白色(10YR8/1)褐灰色(10YR6/1) ②灰白色(10YR8/1)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
111	3層	土師器　埦	底部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
112	3層	土師器　埦	底部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	密：0.5～1mmの石英・長石を多量に含む 赤色土粒を少量含む	
113	3層	土師器　埦	底部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②黒褐色(7.5YR3/1)	密：0.5mmの石英を少量含む	
114	3層	土師器　埦	底部		①明赤灰色(2.5YR7/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
115	3層	土師器　埦/坏	口縁部		①②浅黄橙色(10YR8/3)	密：砂粒をほとんど含まない	
116	3層	土師器　埦/坏	口縁部		①にぶい黄橙色(19YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
117	3層	土師器　坏	底部	②(6.9)	①にぶい橙色(7.5YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密：0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
118	3層	土師器　坏	底部	②(5.0)	①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
119	3層	土師器　坏	底部	②(6.2)	①②灰白色(10YR8/2)	密：0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	底部焼成後穿孔（孔径2.8cm）
120	3層	土師器　坏	底部	②(5.6)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗：0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	
121	3層	土師器　坏	底部	②(4.4)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：1.5～2mmの石英を少量含む	
122	3層	土師器　坏	底部	②(4.4)	①②灰白色(10YR8/2)	密：砂粒をほとんど含まない	
123	3層	土師器　皿/坏	底部	②(5.0)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密：1mmの赤色土粒をやや多く含む	
124	3層	土師器　坏	底部	②(5.5)	①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5mmの石英・長石を多量に含む	
125	3層	土師器　坏	底部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
126	3層	土師器　皿	口縁部～底部		①②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
127	3層	土師器　皿	底部	②(5.6)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②褐灰色(5YR4/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石をやや多く含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
128	3層	土師器　皿	底部	②5.0	①明褐灰色(7.5YR7/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/2)	密：0.5mmの石英・長石を少量含む	柱状高台皿
129	3層	瓦質土器　羽釜	口縁部		①黒色(N2/) ②暗灰色(N3/)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	外面煤付着
130	4層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密：0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
131	4層	弥生土器　壺/甕	底部	②9.8	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
132	4層	土師器　甕	口縁部		①褐灰色(10YR4/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
133	4層	土師器　甕	口縁部		①褐灰色(10YR5/1) ②褐灰色(10YR6/1)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
134	4層	土師器　短頸壺か	口縁部		①②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
135	4層	土師器　甑	把手		上 にぶい黄橙色(10YR7/2) 下 灰黄褐色(10YR5/2)	密：0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの赤色土粒を少量含む	
136	4層	須恵器　蓋	撮部～口縁部	①(13.0)	①②灰色(N6/)	密：0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む 黒色土粒を少量含む	
137	4層	須恵器　蓋	口縁部	①(17.4)	①灰色(5Y6/1) ②黄灰色(2.5Y6/1)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
138	4層	須恵器　蓋	口縁部	①(13.8)	①②灰色(N5/)	密：0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
139	4層	須恵器　蓋	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N7/)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
140	4層	須恵器　蓋	口縁部		①褐灰色(10YR6/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：0.5mmの長石を少量含む	
141	4層	須恵器　坏身	体部		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗：0.5～1.5mmの黒色土粒をやや多く含む	
142	4層	須恵器　坏	底部	②(9.6)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(5Y6/1)	精緻：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
143	4層	須恵器　坏	底部	②(6.4)	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密：0.5～3mmの石英・長石を少量含む	
144	4層	須恵器　高台付杯	底部	②(9.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
145	4層	須恵器　高台付杯	底部	②(8.4)	①灰白色(N7/) ②明赤灰色(2.5YR7/1)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
146	4層	須恵器　坏	口縁部	①(11.8)	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	密：砂粒をほとんど含まない	
147	4層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	精緻：0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
148	4層	須恵器　皿か	底部	②(11.6)	①灰色(N6/) ②灰白色((N7/)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む 黒色土粒を少量含む	
149	4層	須恵器　皿	口縁部～底部	①(17.4)②(13.6)③(1.8)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	精緻：0.5～1mmの長石をやや多く含む	
150	4層	須恵器　高坏	脚部	②(11.4)	①②灰色（N6/）	精緻：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む 1mmの黒色土粒を少量含む	
151	4層	須恵器　甕	体部		①灰色(10Y6/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗：1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
152	4層	緑釉陶器　皿	口縁部	①(13.4)	①オリーブ灰色(10Y5/2) ②灰色(5Y8/1) 素地　灰白色(5Y8/1)	密：砂粒を含まない	
153	4層	青磁　埦	体部		①②オリーブ黄色(5Y6/3)	やや粗	同安窯系
154	4層	土師器　埦	口縁部	①(13.8)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(10YR8/2)	密：0.5mmの石英を少量含む	
155	4層	土師器　埦	口縁部		①②にぶい橙色(7.5YR7/3)	密：0.5mmの石英を少量含む	
156	4層	土師器　埦	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
157	4層	土師器　埦	底部	②(8.0)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗：0.5mmの石英・長石を少量含む	
158	4層	土師器　埦	底部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	精緻：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
159	4層	土師器　埦	底部	②(4.9)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
160	4層	土師器　坏	底部	②(8.1)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②黒褐色(2.5Y3/1)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
161	4層	瓦質土器　足鍋	脚部		表　灰黄色(2.5Y7/2) 裏　黄灰色(2.5Y5/1)	やや粗:0.5～3mmの石英・長石を多量に含む	
162	4層	瓦質土器　羽釜	口縁部	①(24.6)	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	やや粗:砂粒をほとんど含まない	
163	4層	土師質土器　鍋	口縁部	①(22.2)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:1～1.5mmの石英・長石を少量含む	
164	4層	土師質土器　鍋	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
165	4層	不明	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	密:1mmの石英・長石を少量含む	
166	5～6層	土師器　坏	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
167	5・5'層	土師器　埦	底部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
168	5～6層	土師器　埦	底部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
169	5～6層	土師器　皿	口縁部～底部	①(3.8)②(2.4)③0.7	①②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.5mmの石英を少量含む	手塩皿か
170	5～6層	土師器　皿	口縁部～底部	①(7.1)②(6.2)③1.0	①にぶい橙色(5YR6/4) ②にぶい橙色(5YR7/4)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
171	5・5'層	須恵器　坏身	底部		①灰色(10Y6/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を少量含む 黒色土粒を多量に含む	
172	5～6層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
173	5～6層	須恵器　高台付杯	底部		①②灰色(10Y6/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む　黒色土粒を少量含む	
174	5～6層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
175	5～6層	白磁　皿か	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	密:砂粒を含まない	
176	5～9層	弥生土器　甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR4/3, 5/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
177	5～9層	弥生土器　甕	口縁部		①灰黄褐色(10YR4/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
178	5～9層	須恵器　甕	体部		①②灰色(N5/)	精緻:0.5～1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む	
179	5～9層	須恵器　甕	体部		①②灰色(N5/)	精緻:0.5～1mmの石英・長石を少量含む　0.5～1.5mmの黒色土粒を少量含む	
180	7層	弥生土器　壺	口縁部	①(16.0)	①②にぶい黄褐色(10YR5/3)	粗:1～4mmの砂粒を多く含む	
181	7層	弥生土器　甕	口縁部	①(25.8)	①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	粗:1～3mmの砂粒を多量に含む	外面一部に煤付着
182	7層	弥生土器　甕	口縁部		①②にぶい黄橙色(10YR7/4)	粗:1～2mmの石英・長石を多く含む	
183	6層	土師器　甕	口縁部	①(15.6)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
184	7層	土師器　甕	口縁部	①(15.6)	①浅黄色(2.5Y7/4) ②明黄褐色(2.5Y7/6)	密:0.3～2mmの石英・長石を多量に含む	外面一部に煤付着
185	7層	土師器　甕		①(18.2)	①②浅黄色(7.5YR8/4)	4mm以下の砂粒を含む	
186	7層	土師器　壺	口縁部	①(15.0)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.5～1.5mmの砂粒を極わずかに含む	
187	7層	土師器　高坏	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	密:0.5～2.5mmの石英・長石を含む	
188	7層	土師器　高坏	口縁部	①(14.4)	①にぶい橙色(5YR6/4) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:1～1.5mmの長石を含む	
189	7層	土師器　高坏	口縁部	①(18.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.5～1.5mmの長石を少量含む	
190	6層	土師器　高坏	脚部	②14.9	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:砂粒をほとんど含まない	
191	7～9層	弥生土器　甕	口縁部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
192	7～9層	弥生土器　甕	底部	②4.8	①にぶい橙色(2.5YR6/4) ②にぶい橙色(5YR7/3)	密:0.5～3mmの石英・長石を多量に含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
193	7～9層	弥生土器　甕	底部	②(6.2)	①灰黄色(2.5Y6/2)にぶい橙色(5YR7/4) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5～3mmの石英・長石を多量に含む 2mmの赤色土粒を少量含む	
194	7～9層	弥生土器 甕	口縁部	①(17.0)	①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
195	7・8層	土師器　甕	口縁部	①(23.0)	①にぶい黄褐色(10YR4/3) ②灰黄褐色(10YR4/2)	粗:0.5～3mmの砂粒を多量に含む	
196	7・8層	土師器　甕	口縁部～底部	①15.2③24.0	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	5mm以下の砂粒を多く含む	肩部に煤付着
197	7～9層	土師器　高坏	脚部	②(11.0)	①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1～3mmの赤色砂粒を少量含む	
198	7・8層	須恵器　壺	体部	①②灰色(N5/)		精緻:砂粒を含まない	
199	9層	弥生土器　壺	体部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
200	9層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
201	9層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
202	9層	弥生土器　壺	体部		①にぶい橙(5YR6/4) ②にぶい赤褐色(5YR5/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
203	9層	弥生土器　壺	頸部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(10YR8/2)	粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
204	9層	弥生土器　壺	口縁部	①(24.2)	①灰白色(10YR8/2) ②黄灰色(2.5Y4/1)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
205	9層	弥生土器　壺	底部	②(8.0)	①灰白色(10YR8/2) ②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
206	9層	弥生土器　壺	底部	②(4.6)	①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
207	9層	弥生土器　壺	底部	②8.0	①にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
208	9層	弥生土器　壺	底部	②(6.6)	①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
209	9層	弥生土器　壺	底部	②(5.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい褐色(7.5YR5/3)	粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
210	9層	弥生土器　壺	底部	②(6.2)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
211	9層	弥生土器　台付鉢	口縁部～体部	①(14.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～2.5mmの赤色砂粒をやや多く含む	
212	9層	弥生土器　甕	口縁部		①暗赤褐色(5YR3/6) ②赤褐色(5YR4/6)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	丹塗り
213	9層	弥生土器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	丹塗り にぶい赤褐色(2.5YR4/4)
214	9層	弥生土器　壺/甕	底部	②9.6	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②褐灰色(10YR6/1)	やや粗:1～2.5mmの石英・長石をやや多く含む	
215	9層	弥生土器　甕	底部	②6.2×6.6	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
216	9層	弥生土器　甕	底部	②(7.2)	①にぶい赤褐色(5Y5/3) ②黒色(5Y2/1)	密:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
217	9層	弥生土器　甕	底部	②(6.0)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	粗:1～5mmの石英・長石を多量に含む	
218	9層	弥生土器　甕	底部	②(8.0)	①褐灰色(10YR4/1) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
219	9層	弥生土器　甕	底部	②(11.6)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰白色(10YR6/2)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
220	9層	土師器　甕	口縁部	①(13.4)	①にぶい橙色(7.5Y7/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	山陰系 ゆがみ大
221	9層	土師器　甕	口縁部	①(20.0)	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y7/4)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
222	9層	土師器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
223	9層	土師器　甕	口縁部	①(11.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5mmの赤色砂粒を少量含む	
224	9層	土師器　甕	口縁部・底部	①(18.8)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y5/2)	密:4mm以下の角閃石などの砂粒を含む	煤付着
225	9層	土師器　甕	口縁部～体部	①(13.8)	①浅黄色(10YR8/3) ②浅黄色(10YR8/4)	密	外面煤付着

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
226	9層	土師器　高坏	口縁部	①(16.0)	①褐灰色(10YR5/1) ②褐灰色(7.5YR5/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
227	9層	土師器　高坏	口縁部	①(14.8)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:1mmの石英・赤色砂粒を少量含む	
228	9層	土師器　高坏	口縁部	①(18.0)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
229	9層	土師器　高坏	坏部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②浅黄色(7.5YR8/4)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
230	9層	土師器　高坏	脚部	②11.4	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:砂粒をほとんど含まない	
231	9層	土師器　高坏	坏部～脚部	②13.2	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
232	9層	移動式竈			①黒褐色(7.5YR3/1) ②にぶい褐色(7.5YR5/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
233	16・17層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:1～3mmの石英・長石を多量に含む	
234	16・17層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:1～2.5mmの石英・長石を多量に含む	
235	16・17層	弥生土器　壺	底部	②6.0	①②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
236	16・17層	弥生土器　甕	底部	②(8.7)	①灰褐色(7.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:1～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
237	16・17層	弥生土器　壺/甕	底部	②8.6	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(5Y4/1)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
238	16・17層	土師器　高坏	坏部		①浅黄橙色(7.5Y8/6)②浅黄橙色(7.5YR8/3)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む 赤色土粒を極少量含む	図8-6一括
239	16・17層	土師器　高坏	脚部	②(13.8)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	図8-6一括
240	16・17層	土師器　高坏	口縁部	①(16.0)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②浅黄橙色(7.5YR8/3)	密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	図8-6一括
241	16・17層	土師器　器台	体部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
242	45層	弥生土器　壺	頸部		①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-8
243	42・44・45層	弥生土器　甕	底部	②(8.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:1～2mの石英・長石を多量に含む	
244	42層	弥生土器　壺	底部	①(7.4)	①灰黄色色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-3
245	45層	弥生土器　壺	底部	②(8.6)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	図8-8
246	42・44・45層	弥生土器　壺	底部	②(8.8)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:1～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
247	42・44・45層	弥生土器　壺	底部	②4.2	①灰黄褐色(10YR6/2) ②暗灰色(N3/)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
248	45層	弥生土器　高坏	脚部	②(14.4)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	図8-7
249	45層	弥生土器　高坏	口縁部	①14.8	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-8
250	42層	土師器　甕	体部		①②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:3mm以下の砂粒を多く含む	図8-4
251	42層	須恵器　坏身	口縁部～底部	①12.1③4.6	①灰白色(N7/) ②灰色(5Y6/1)灰白色(5Y7/1)	やや粗:0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	図8-1
252	42層	須恵器　坏身	口縁部～底部	①12.2③4.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	やや粗:0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	図8-2
253	42層	須恵器　甕	底部	②(18.5)	①灰色(N4/) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む　0.5～1.5mmの黒色土粒をやや多く含む	図8-5
254	3・49～54・56・57層	弥生土器　壺	口縁部	①(22.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む	
255	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　壺	口縁部	①(18.6)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3	やや粗:0.5～1mmの石英・長石・を多量に含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
256	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　壺	体部		①赤褐色(2.5YR4/6) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	丹塗り
257	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　甕	底部	②(9.6)	①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
258	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　甕	底部	②(7.4)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②黒色(N1.5/) 底　灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
259	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　甕	底部	②(6.5)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②黄褐色(2.5Y5/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
260	3・5'・10・11・46～49・51～54層	弥生土器　鉢		①(9.0)②5.2③11.7	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
261	3・5'・10・11・46～49・51～54層	須恵器　蓋	撮部		①②灰白色(N7/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む 黒色土粒を少量含む	
262	3・5'・10・11・46～49・51～54層	須恵器　坏蓋	口縁部	①(10.0)	①灰白色(2.5Y7/1) ②黄灰色(2.5Y4/1)	緻密:砂粒を含まない	
263	3・5'・10・11・46～49・51～54層	須恵器　蓋	口縁部	①(14.8)	①②灰白色(N7/)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
264	3・5'・10・11・46～49・51～54層	須恵器　坏	底部	②10.2	①②灰白色(N7/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
265	3・5'・10・11・46～49・51～54層	須恵器　壺/瓶	底部	②(9.0)	①②灰色(N6/)	密:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
266	3・5'・10・11・46～49・51～54層	土師器　甕	口縁部	①(25.0)	①②にぶい黄橙色(10YR7/3)黒色(10YR1.7/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
267	3・5'・10・11層	土師器　甕	口縁部	①(19.2)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
268	3・18・19・49・50・52・53・56・57層	土師器　坏	底部	②(4.4)	①②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む	
269	3・5'・10・11・46～49・51～54層	土師器　埦	口縁部	①(12.8)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
270	3・5'・10・11・46～49・51～54層	土師器　埦	底部	②(7.8)	①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
271	3・5'・10・11・46～49・51～54層	土師器　埦	底部	②(6.1)	①②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない	
272	3・5'・10・11・46～49・51～54層	土師器　埦	底部	②7.1	①浅黄橙色(10YR8/3) ②橙色(5YR7/6)	密:赤色土粒を少量含む	
273	3・18・19・49・50・52・53・56・57層	緑釉陶器　埦	底部	②(7.8)	①オリーブ灰色(10Y6/2) ②灰白色(10Y7/2) 素地　灰白色(2.5Y8/2)	密:砂粒を含まない	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
274	3・5'・10・11・46～49・51～54層	瓦器　埦	底部	②(4.0)	①②灰色(N4/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
275	18～30層	弥生土器　壺	底部	②8.4	①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:1～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
276	18～30層	弥生土器　壺	体部		①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石をやや多く含む	
277	18・19層	土師器　甕	口縁部	①(18.0)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:0.5～4mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む	
278	28層	土師器　高坏	口縁部	①(15.0)	①②にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:0.3～2.5mmの石英・長石・雲母・赤色土粒を含む	
279	18～30層	須恵器　坏	底部		①灰白色(N7/) ②灰白色(10YR7/1)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
280	18～30層	須恵器　坏	口縁部	①(11.2)	①灰白色(7.5Y7/1) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
281	18～30層	須恵器　坏	口縁部	①(11.4)	①②灰白色(N7/)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
282	18～30層	須恵器　高坏	脚部	②(9.4)	①②灰白色(N7/)	密:0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	
283	18～30層	土師器　坏	口縁部	①(14.6)	①灰白色(10YR8/1) ②浅黄橙色(10YR8/3)	密:砂粒を含まない	
284	18～30層	土師器　坏	口縁部～底部	①8.3②4.0③2.1	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
285	18・19層	土師器　坏	底部	②(5.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:ほとんど含まない	
286	37層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
287	35～37層	弥生土器　壺	口縁部	①(13.4)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
288	37層	弥生土器　壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
289	37層	弥生土器　壺	底部	②(14.5)	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
290	31～37層	弥生土器　壺	底部	②(8.2)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～2.5mmの石英・長石を多量に含む	
291	37層	弥生土器　壺	底部	②(7.4)	①橙色(2.5YR6/6) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
292	37層	弥生土器　甕	底部	②(10.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(10YR8/1)	粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
293	37層	弥生土器　壺/甕	底部	②(7.0)	①にぶい橙色(2.5YR6/4) ②灰色(5Y4/1)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
294	31～37層	弥生土器　甕	底部	②(7.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～2.5mmの石英・長石を多量に含む	
295	31～37層	須恵器　坏	底部	②(9.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む 黒色土粒を少量含む	
296	37層	須恵器　高坏	口縁部	①(11.4)	①灰色(N4/) ②灰白色(N7/)	緻密:0.5mmの石英を少量含む	
297	37層	土師器　坏	底部	②6.0	①②灰白色(10YR8/2)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
298	35～37層	土師器　坏	底部	②(8.2)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
299	35～37層	土師器　坏	底部	②5.0	①灰白色(2.5Y8/2) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
300	35～37層	土師器　坏	底部	②5.0	①浅黄橙色(7.5YR8/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
301	35～37層	土師器　皿か	底部	②(5.0)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:1mmの石英を少量含む	
302	49～54層	弥生土器　壺	体部		①黒色(10YR2/1) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:1～3mmの石英・長石をやや多く含む	
303	49～54層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
304	49～54層	弥生土器　壺	体部		①にぶい橙色(5YR7/4) ②灰白色(7.5Y7/1)	密:1～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
305	50～54・56・57層	弥生土器　壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	粗:0.5～2.5mmの石英・長石・黒色砂粒・赤色土粒を含む	
306	49～54層	弥生土器　壺	口縁部	①(20.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
307	50～54・56・57層	弥生土器　壺	底部	②5.2	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②黒色(2.5Y2/1)	密：石英を少量含む	
308	49～54層	弥生土器　壺	底部	②(9.6)	①黒褐色(2.5Y3/2) ②黒色(5Y2/1)	粗：0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
309	49～54層	弥生土器　壺	底部	②(11.6)	①にぶい橙色(5YR7/4) ②にぶい橙色(7.5Y6/4)	粗：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む　1～3mmの赤色土粒をやや多く含む	
310	50～54・56・57層	弥生土器　壺	底部	②(10.6)	①黒褐色(2.5Y3/1) ②浅黄色(2.5Y7/4)	密：0.5～2.5mmの砂粒を含む	
311	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部	①(26.0)	①黄灰色(2.5Y4/1) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)	粗：0.5～5mmの石英を多量に含む	
312	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色(19YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗：4mm以下の長石・赤色土粒を多く含む	
313	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部	①(28.0)	①灰オリーブ(5Y5/2) ②灰白色(5Y7/2)	密	
314	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部	①(26.2)	①褐灰色(7.5YR4/1) ②灰褐色(7.5YR6/2)	密	
315	49～54層	弥生土器　甕	口縁部	①(17.8)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②褐灰色(7.5YR4/1)灰黄褐色(10YR6/2)	密：0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む	
316	49～54層	弥生土器　甕	口縁部	①(20.2)	①灰白色(10YR8/2) ②明褐灰色(7.5Y7/2)	やや粗：0.5～1mmの石英・長石を少量含む 1mmの赤色土粒を少量含む	
317	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部	①(20.8)	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄橙色(10YR8/4)	密	内外面煤付着
318	50～54・56・57層	弥生土器　甕	口縁部	①(24.8)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	粗：3mm以下の白色・赤色砂粒を多く含む	
319	49層	弥生土器　甕	口縁部～底部	①19.4②28.4	①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	密：3mm以下の石英などの砂粒を少量含む	
320	50層	弥生土器　甕	底部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	やや粗：3mm以下の砂粒を含む	
321	50～54・56・57層	弥生土器　甕	底部	②(10.0)	①橙色(7.5YR6/6) ②明黄褐色(10YR6/8)	粗：1.5～4mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む	
322	50～54・56・57層	弥生土器　甕	底部	②(8.2)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/2)	粗：1～3mmの石英・長石を多量に含む	
323	50～54・56・57層	弥生土器　壺	底部	②(7.5)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	粗：5mm以下の砂粒を含む	
324	50～54層	弥生土器　甕	底部	②(8.0)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(5Y4/1)	密：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
325	50～54・56・57層	弥生土器　甕	底部	②(10.7)	①にぶい橙色(2.5YR6/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
326	50～54・56・57層	弥生土器　甕か	底部	②(10.2)	①橙色(7.5YR6/6) 底部　にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
327	50～54・56・57層	弥生土器　甕	底部	②(7.8)	①にぶい橙色(2.5YR6/4) 底部　灰黄色(2.5Y6/2)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
328	49～54層	弥生土器　甕	底部	②6.0	①灰黄褐色(10YR6/2) ②褐灰色(5YR4/1)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
329	50～54・56・57層	弥生土器　甕	底部	②(6.6)	①灰白色(5Y7/2) ②灰色(7.5Y6/1)	密：0.3～2.5mmの砂粒を含む	
330	50～54・56・57層	弥生土器　鉢	口縁部	①(12.2)	①浅黄色(2.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/4)	粗：1～4mmの砂粒を多量に含む	
331	50～54・56・57層	土師器　甕	口縁部～底部	①(15.4)③23.5	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密：5mm以下の石英・長石を含む	
332	49～54層	土師器　甕	口縁部	①(12.0)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密：0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
333	50～54・56・57層	土師器　高坏	口縁部	①(10.4)	①②灰黄色(2.5Y7/2)にぶい橙色(5YR7/4)	密：0.5～1mmの石英・長石を少量含む	丹塗りか
334	49～54層	土師器　鉢	口縁部	①(11.6)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密：0.5mmの石英を少量含む	
335	49・50・52～54・56・57層	土師器　小型器台	脚部	②(9.7)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密：0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
336	49～54層	土師器　高坏	口縁部	①(15.8)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密：0.5mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む	
337	49～57層	土師器　高坏	脚部	②13.7	①橙色(5YR6/8) ②にぶい褐色(7.5Y5/4)	やや粗：0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
338	50層	土師器　高坏	脚部		①浅黄橙色(10YR8/4) ②浅黄色(10YR8/3)	密	
339	46～48層	須恵器　坏身	底部	②(6.8)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
340	50～54層	須恵器　蓋	口縁部	①(11.5)	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/1)	緻密	
341	50層	須恵器　蓋	口縁部	①(11.9)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰色(N7/)	密:砂粒をほとんど含まない	
342	50～54・56・57層	須恵器　坏	口縁部	①(14.2)	①灰色(N4/) ②オリーブ灰色(2.5GY5/1)	密:0.5～2.5mmの長石・黒色砂粒を含む	
343	49～54層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
344	50～54層	須恵器　坏	口縁部	①(12.6)	①②黄灰色2.5Y6/1)	緻密	
345	50～54・56・57層	須恵器　杯	口縁部	①(11.3)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
346	49～54層	須恵器　坏	底部	②(7.0)	①②灰白色(2.5Y7/1) 底部　灰色(N6/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
347	49・50層	須恵器　高台付杯	底部	②(9.8)	①緑灰色(5G5/1) ②灰色(N6/)	精緻:0.5～1.5mmの長石・赤色土粒をわずかに含む	
348	50～54・56・57層	須恵器　高台付杯	底部	②(6.6)	①灰色(N6/) ②灰色(N7/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
349	49～54層	須恵器　高台付杯	底部	②(10.5)	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
350	50～54・56・57層	須恵器　高台付皿	底部	②(7.2)	①灰白色(10YR7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	精緻:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
351	49～54層	須恵器　高坏	口縁部	①(12.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
352	49～54層	須恵器　高坏	坏部～脚部	②(6.8)	①②灰色(N6/)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの黒色土粒を少量含む	
353	49層	須恵器　長頸壺	頸部		①暗灰色(N3/) ②灰白色(N5/)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
354	49・50層	緑釉陶器　埦か	体部		①②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地　灰白色(7.5YR8/1)	密:砂粒を含まない	
355	49・50層	緑釉陶器　皿	口縁部	①(12.6)	釉　オリーブ黄色 素地　灰白色(7.5Y8/1)	密:砂粒を含まない	
356	49・50層	白磁　埦	口縁部	①(12.6)	①②灰白色(7.5Y8/1)	やや粗:砂粒を含まない	
357	50層	土師器　埦	底部	②(6.5)	①浅黄色(10YR8/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密	
358	49層	土師器　埦	底部	②7.7	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～3mmの石英をやや多く含む	
359	50～54・56・57層	土師器　埦	底部	②(6.4)	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:1mmの石英を少量含む	
360	49・50層	土師器　埦	口縁部～底部	①(16.4)②(6.2)③4.8	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:1～2mmの石英・長石を含む　1～2mmの赤色土粒を極わずかに含む	
361	49～54層	土師器　埦/坏	口縁部	①(15.6)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
362	50～54層	土師器　皿	口縁部～底部	①10.0②4.7③2.1	①②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
363	49・50層	土師器　坏	底部	②(8.3)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②黒褐色(2.5Y3/1)	密:0.5mmの長石・赤色土粒を含む	
364	49・50層	土師器　坏	底部	②(5.4)	①灰白色(7.5YR8/2) ②浅黄橙色(7.5YR8/3)	密:砂粒を含まない	回転糸切り
365	49・50層	土師器　坏	底部	②(5.6)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:砂粒をほとんど含まない	回転糸切り
366	46～55層	弥生土器　壺	口縁部	①(22.8)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	
367	46～55層	弥生土器　壺	頸部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:4mm以下の石英を含む	
368	46～55層	弥生土器　壺	底部	②(6.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)	密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
369	46～55層	須恵器　坏	底部	②(7.2)	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
370	38・39層	弥生土器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:1～3mmの石英・長石をやや多く含む	
371	38・39層	弥生土器　甕	口縁部		①暗褐灰色(7.5YR7/2) ②灰赤色(2.5YR4/2)	粗:0.5～4mmの石英・長石を多量に含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
372	38・39層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y) ②黒色(2.5Y2/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
373	38層	弥生土器　壺	底部	②7.8	①褐灰色(7.5YR4/1) ②明褐色(7.5YR5/8)	密:1～2.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-17
374	38・39層	弥生土器　壺	底部	②9.6	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
375	38・39層	弥生土器　甕	底部	②(6.6)	①浅黄色(2.5YR7/3) ②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
376	38層	土師器　高坏	脚部	②(14.6)	①にぶい橙色(7.5YR7/3) ②浅黄橙色(7.5YR8/4)	密:1～1.5mmの石英・長石を少量含む	図8-18
377	38層	土師器　皿	口縁部～底部	②(7.4)③1.3	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	図8-19
378	55層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
379	55・61層	弥生土器　壺	口縁部	①(15.6)	①明灰褐色(7.5YR7/1) ②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-13
380	55・61層	弥生土器　壺	底部	②(11.6)	①にぶい赤橙色(10R6/4) ②浅黄橙(10YR8/3)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-14
381	55層	弥生土器　壺	底部	②(8.6)	①浅黄橙色(10YR8/4) ②灰白色(10YR8/2)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
382	55層	弥生土器　壺	底部		①灰白色(2.5Y8/2) ②黒色(N21)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	図8-22
383	55・61層	弥生土器　甕	底部	②(8.8)	①にぶい橙色(5YR6/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石をやや多く含む	図8-15
384	55・61層	弥生土器　甕	底部	②7.2	①灰白色(10YR7/1) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-11
385	55層	弥生土器　壺	底部	②7.8	①にぶい橙色(5YR6/4) ②オリーブ黒色(5Y3/1)	密:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-21
386	55層	弥生土器　壺/甕	底部	②8.4	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(5Y8/1)	粗:1mmの石英・長石を多量に含む	
387	55層	土師器　高坏	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
388	55層	弥生土器　高坏	坏部		①橙色(5YR6/8) ②橙色(5YR6/6)	密:0.5～1.5mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	図8-10
389	55層	弥生土器　脚付鉢	脚部	②(16.0)	①にぶい橙色(7.5YR7/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	図8-10
390	55層	土師器　甕	口縁部	①(12.4)	①浅黄橙色(10YR8/3) ②浅黄橙色(10YR7/4)	密:1mmの石英・長石を少量含む	
391	61層	弥生土器　壺	口縁部		①浅黄色(2.5YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	丹塗り(10R4/6)
392	61層	弥生土器　壺	口縁部	①(24.6)	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
393	61層	弥生土器　壺	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
394	61層	弥生土器　壺	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	図8-25
395	61層	弥生土器　壺	口縁部		①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	やや粗:0.5～2.5mmの石英・長石をやや多く含む	
396	61層	弥生土器　壺	頸部		①灰白色(10YR7/2) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:1～2mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	
397	61層	弥生土器　壺	体部		①黄灰色(2.5Y4/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5～3mmの石英・長石を多量に含む	
398	61層	弥生土器　壺	体部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:1～1.5mmの石英・長石を少量含む	
399	61層	弥生土器　壺	体部		①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1mmの石英・長石を少量含む	
400	61層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:1～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
401	61層	弥生土器　壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
402	61層	弥生土器　壺	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
403	61層	弥生土器　壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	密:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
404	61層	弥生土器　壺	底部	②9.6	①褐灰色(10YR4/1) ②にぶい黄橙色(10YR4/1)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-24

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
405	61層	弥生土器　壺	底部	②(7.6)	①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:1～3mmの石英・長石をやや多く含む	
406	61層	弥生土器　壺	底部	②(7.6)	①灰白色(10YR7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
407	61層	弥生土器　壺	底部	②(10.0)	①にぶい赤橙色(10YR6/4) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
408	61層	弥生土器　壺	底部	②(10.4)	①浅黄色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y8/2) 底　にぶい橙色(2.5YR6/4)	密:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
409	61層	弥生土器　壺	底部	②(12.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
410	61層	弥生土器　甕	体部		①灰黄褐色(10YR4/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
411	61層	弥生土器　甕	底部	②(8.2)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②黒色(7.5YR2/1)	やや粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
412	61層	弥生土器　甕	底部	②6.2	①にぶい橙色(5YR6/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
413	61層	弥生土器　甕	底部	②(8.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)	やや粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
414	61層	弥生土器　甕	底部	②(8.0)	①褐灰色(10YR4/1) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	密:1～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
415	61層	弥生土器　壺	底部	②(4.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	やや粗:1～4mmの石英・長石を多量に含む	
416	61層	弥生土器　壺/甕	底部	②8.2	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:1～4mmの石英・長石を多量に含む	
417	61層	弥生土器　甕	底部	②(10.4)	①褐灰色(7.5YR6/1) ②明褐灰色(7.5Y7/2)	密:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-25
418	61層	弥生土器　甕	底部	②(8.0)	①橙色(5YR6/6) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
419	61層	土師器　甕	頸部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②浅黄橙色(10YR8/4)	密:0.5～4.5mmの石英・長石をやや多く含む	
420	61層	土師器　高坏	脚部		①②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
421	61層	土師器　高坏	坏部		①②浅黄橙色(10YR7/3)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
422	61層	須恵器　瑕	口縁部	①(14.7)	①暗赤灰色(10R4/1) ②灰色(7.5Y5/1)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
423	61層	須恵器　高坏	口縁部	①(10.0)	①灰白色(N8/) ②灰色(N4/)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
424	61層	土師器　皿	口縁部～底部	①(10.2)②(5.6)③3.2	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:砂粒を含まない	
425	61層	土師器　坏	底部	②5.4	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
426	61層	土師器　坏	底部	②5.6	①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
427	2層	須恵器　蓋	口縁部		①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰白色(N7/)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
428	2層	青磁　埦	口縁部		①灰オリーブ色(7.5Y4/2) ②灰オリーブ色(7.5Y5/2)	やや粗:砂粒を含まない	
429	不明	弥生土器　甕	底部		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
430	不明	土師器　甕	口縁部	①(17.6)	①明黄褐色(10YR6/6) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	やや粗:1～4mmの砂粒を多く含む	
431	不明	土師器　高坏	脚部	②(10.6)	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR4/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
432	不明	須恵器　坏	底部	②(7.0)	①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石を多量に含む 黒色土粒を少量含む	
433	不明	須恵器　坏	底部	②(7.6)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5～2.5mmの石英・長石を大量に含む	
434	不明	須恵器　坏	底部	②(8.2)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英を少量含む	
435	不明	須恵器　坏	底部	②(10.4)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.5～1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む	
436	不明	須恵器　高台付坏	底部	②(10.4)	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
437	不明	須恵器　高台付杯	底部		①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6/)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
438	不明	土師器　埦	口縁部		①②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
439	不明	緑釉陶器　皿か	口縁部		①灰オリーブ色(7.5Y5/3) ②オリーブ黄色(7.5Y6/3) 素地　灰白色(5Y8/1)	密:砂粒をほとんど含まない	釉は内面不透明、外面透明
440	不明	製塩土器	体部		①②明赤褐色(5YR5/6)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	六連式
441	不明	土師質土器　鍋か	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む 赤色土粒を少量含む	

表3　出土遺物(土製品)観察表

法量(　)は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm)①長さ②幅③厚④重量(g)	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
442	3層	棒状土錘	①(2.89)　②1.22　③1.16 ④(5.09) 孔径0.35×0.25	上面　浅黄色(2.5Y7/3) 下面　灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
443	3層	管状土錘	①(4.9)　④(12.52) 最大径　(2.0)　孔径(0.7)	①浅黄色(2.5Y7/3) 黄灰色(2.5Y6/1)	密:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
444	4層	管状土錘	①4.5　④(9.15) 最大径　(2.1)　孔径(0.6)	①黄灰色(2.5Y4/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	

表4　出土遺物(金属器)観察表

法量(　)は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm)①長さ②幅③厚④重量(g)	備考
445	3層	銅製丸鞆	①2.3　②3.1　③0.65　④8.4 垂孔1.55×0.6　金具の隙間0.14cm	烏油腰帯

表5　出土遺物(石器)観察表

法量(　)は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
446	3層	不明	①(5.6)　②(4.9)　③2.0　④(71.74)	花崗岩	被熱痕
447	3層	紡錘車	径(4.6)　③(0.8)　④(5.09)	角閃石安山岩	
448	3層	凹基鏃	①1.63　②(1.58)　③0.38　④(0.89)	サヌカイト	
449	3層	磨石	①6.2　②4.4　③3.5　④127.47	花崗岩か	
450	9層	敲石	①10.3　②7.9　③4.1　④515.83	花崗岩	
451	42層	石棒か	①(5.9)　②(3.2)　③(3.2)　④(99.81)	安山岩	
452	18～30層 46～54層	砥石	①(4.56)　②(0.58)　③(2.40)　④(70.20)	砂岩か	
453	50～54層	砥石	①(7.1)　②(8.45)　③(3.98)　④(245.26)	安山岩か	
454	50～54層	砥石	①(11.1)　②(10.5)　③(2.6)　④(347.73)	安山岩か	
455	59層	石包丁	①18.0　②9.1　③1.1　④213.29	頁岩	
456	55・61層	太型蛤刃石斧	①(8.0)　②(5.9)　③(4.7)　④(327.42)	結晶片岩	図8-26
457	61層	太型蛤刃石斧	①13.2　②5.0　③3.5　④363.77	玄武岩	表採
458	61層	太型蛤刃石斧	①(8.63)　②(4.77)　③4.36　④(210.02)	結晶片岩	

表6　出土遺物(木器)観察表

法量(　)は復元値

遺物番号	層位	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
459	61層	板材	①(99.55)　②20.95　③6.6	図11
460	61層	板材	①(86.2)　②25.5　③5.2	図11
461	61層	不明	①(66.0)　②20.0　③7.8	図11
462	61層	不明	①(37.8)　②18.1　③15.8	図11
463	61層	板材	①(40.6)　②11.6　③2.1	図11
464	61層	不明	①(29.5)　②2.4　③1.7	棒状　両端部に加工痕　図11
465	61層	板材	①(35.5)　②17.4　③1.7	図11
466	61層	不明	①(54.6)　②5.5　③1.5	469と同種の製品　孔を2箇所に施し、一側面に溝・窪みを有する　ゆがみあり　図11
467	61層	不明	①(8.0)　②4.7　③1.4	両端部折損　図11

遺物番号	層位	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
468	61層	不明	①(6.4) ②5.2 ③1.35	467と同一個体か 図11
469	61層	不明	①(61.7) ②5.9 ③1.8	ねじれの強い板状製品で5ヶ所に孔を施し、凹みを2ヶ所設ける 一側面に溝・凹みを有する 図11
470	17層	木錘	①13.1 ②6.8 ③6.9	くびれ部最大幅3.3cm 図8-27
471	55層	杭	①(24.1) ②10.7 ③6.8	先端部 図8-34
472	55層	矢板または杭か	①(49.1) ②7.0 ③2.8	図8-32
473	55層	矢板または杭か	①(54.3) ②5.8 ③3.4	図8-33
474	61層	板材か	①(32.1) ②8.2 ③2.1	
475	61層	不明	①(5.85) ②3.4 ③0.8	表面に2方向に削り痕あり 図11

（6）小結（図41・42、写真63）

当調査では、東北東－西南西方向に走ると見られる自然河川が検出され、河川堆積土およびその上位を覆う遺物包含層から多量の遺物が出土した。遺物は弥生時代～古代のものが主体であり、河川は鎌倉時代に埋没を終えたと推定される。この河川は、本学吉田構内統合移転前から存在し、調査区の北側、吉田構内循環道北縁を現在も流れる用水路にその姿を変えている可能性が高い。

吉田遺跡の既往の調査成果により、鎌倉時代の遺構の欠落は室町期に大規模な土地改変が行われた結果と推定される。鎌倉時代まで生活や農耕のための取水は自然河川に依存していたが、室町時代以降、耕地の拡大および居住域の整備が行われ、同時に溜池[註1]や用水路等の水利設備が拡充したのであろう。

多量の遺物の由来地は、調査区北に隣接する丘陵に求められる。現在大学本部1号館および2号館、大学会館、第2学生食堂が建設されているが、遺構の分布が密であることから一部を「遺跡保存地区」に指定している。既往の調査成果では、遺跡保存地区では弥生時代中期後半の土壙[註2]や後期後半から終末期の竪穴住居、土壙[註3]が検出されており、古墳時代では第2学生食堂敷地にて古墳時代中期の竪穴住居跡が6棟確認されている[註4]。その他、第2学生食堂増築・改修に伴う調査では平安時代の大溝と2棟の掘立柱建物跡が検出されるなど、断片的ではあるが生活痕跡を見いだすことが可能である。これまでの調査報告においても、丘陵縁辺部の遺物包含層から当該時期の遺物が多量に出土することから長期に及ぶ集落形成が指摘されてきたが、当調査における遺物の多量出土も、弥生時代以降、丘陵上に集落を営んだ人々が不要物を河川に投棄し続けた結果と見なして良い。

遺物に関しては、河川堆積土中より弥生時代から古墳時代の良好な資料を得るに至った。在地系土器に混ざり北部九州系、瀬戸内系、山陰系の土器が出土する状況はこの地域の土器様相をよく示す事例となる。古代以降の遺物に関しては、須恵器、土師器の他に緑釉陶器、白磁、青磁、製塩土器などが多量に出土しており、奈良時代以降この地に地方官衙が設けられ、鎌倉時代にも地域の有力者が居住していたことを暗示しているものの、主として遺物包含層から出土であるため、遺存状況は良好とは言い難い。一方で表裏金具が結合した銙帯具丸鞆は、塗布されていたであろう漆を失ってしまったものの、極めて稀少な資料と言える。その他、河川右岸付近に設けられた鎌倉時代と推定される木器溜め土壙の確認は、当時の木工文化を知る上でも貴重な成果と言える。

最後に、当調査区の西に隣接する地点で実施された図書館2号館（以下「2号館」と標記）増築に伴う発掘調査との関係に触れておく。昭和57年（1982）5月31日から同年9月11日にかけて、増築予定地の約600㎡について当館が発掘調査を実施した。報告[註6]によると、調査区の北部および南部西半は後世の削平が遺構面まで及んでいたが、残存部については弥生時代から鎌倉時代の3層の遺物包含層、土壙5基、溝7条、旧河川跡、柱穴を検出したとされる。

座標から今回調査区と2号館調査区とを合成したのが図41である。2号館調査区が現存する2号館敷地の南側に及んでいないことが気にかかるが、調査区北側の共同溝埋設による攪乱部にあまり齟齬を来していないため、測量に誤りがあったとしても大きなものではないと推測される。報告書に掲載された断面図（図42）を見ると、東西に走る溝であるSD3はSK3により切られており、SK3は南東から北西に走る河川（NR）に切られている。各遺構からの出土遺物は、SD3が弥生時代～鎌倉時代、SK3も弥生時代～鎌倉時代、河川も弥生時代～鎌倉時代と、量の差こそあれ相違が見出せない。これらの遺構のうちSD3は今回調査区でも延長部が検出されるであろう位置にあるが、確認できていない。

2号館調査で問題となるのが、3枚の包含層と地山の認識である。2号館調査の基本層序は、第1層：表土、第2層：暗灰褐色砂質土、第3層：灰褐色粘質土、第4層：黒褐色粘質土とされ、調査区東端部に確認される第5層は明るい灰色砂質土、地山はy＝605付近以西は黄褐色粘質土、以東は暗青灰色砂質土と記述されている。各層の性質に関しては、第2層が耕作土、第3・4層は弥生時代から鎌倉時代の遺物を包含する遺物包含層、さらに第5層も弥生時代から鎌倉時代の遺物を包含するとの記述があり、各層出土の遺物実測図も掲載されている。遺構と各層との関係を見ると、河川は第4層を削り込んでおり、SD3は5層を掘り込んでいる。

今回調査区の層序と照合[註7]すると、第3層＝3層と見て間違いはなく、第4層＝河川堆積土上層の黒色シルト層、第5層と調査区西部の地山（暗青灰色砂質土）＝河川堆積土下層の砂礫層ということになる。写真63を見ると、溝とされるSD3の底面に真の地山である黄色シルト層が顔を覗かせていることから、2号館調査では河川のある時期の流路（今回調査の49層など）を溝（SD3）と認識したと考えられ、河川堆積最下層のほぼ全てを掘り残した可能性が高い。また測量図が正確であるならば、調査区の南側約5mの範囲は未調査のまま開発工事が行われたと解釈せざるを得ない。

30年以上前の調査・開発であり、埋蔵文化財資料館に人員が配置されて5年目、本学において埋蔵文化財保護に関する認識および理解が確立する途上にある時期とは言え、大量の遺物を喪失した可能性は極めて高く、当館の責任は重い。これを過去の問題とすることなく、本学各部局との綿密な連携の下、慎重な埋蔵文化財保護対応と正確な遺跡情報の取得、適切な調査方法を心がけたい。

【註】

1）農学部附属農場の溜池の成立は古く、18世紀前半から中頃にかけて作成されたと見られる「地下上申絵図　吉田村清図」（山口県文書館所蔵）にはすでに描かれている。

2）豆谷和之（1993）「吉田遺跡第Ⅰ地区A区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅠ』,山口

3）森田孝一・河村吉行ほか（1986）「吉田構内大学会館環境整備に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』,山口

4）豆谷和之（1994）「吉田遺跡第Ⅰ地区E区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅡ』,山口

5）田畑直彦（2004）「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅥ・ＸⅦ』,山口

6）河村吉行（1985）「中央図書館増築予定地M－16区の発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』,山口

7）今回調査区において作製した断面図と2号館調査で作製された断面図では、今回調査区の西端部、2号館調査の東端部において約1mもの齟齬が生じているが、これは2号館調査の測量の誤りである。

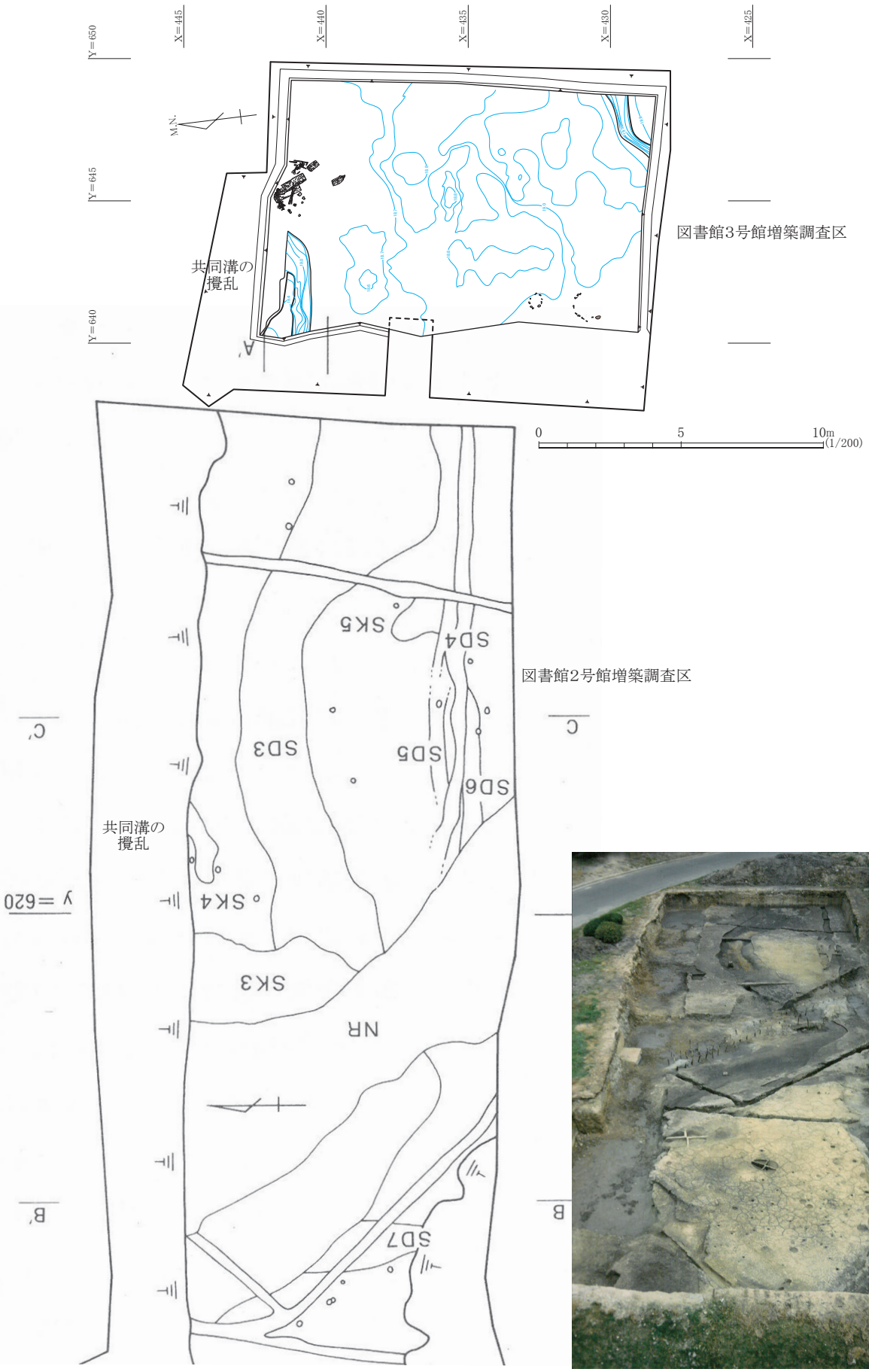
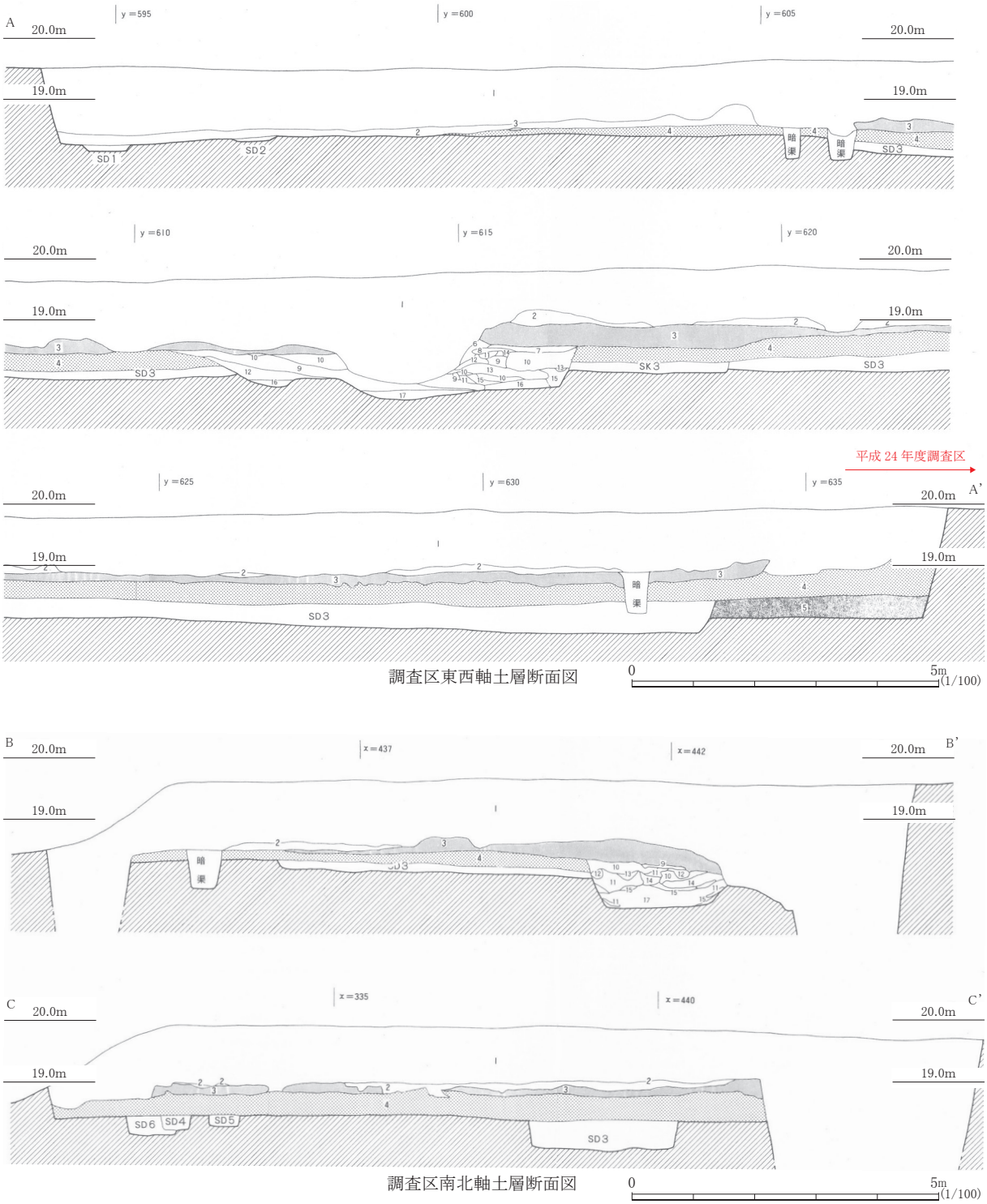


図 41　図書館調査区の位置関係

写真 63　図書館2号館増築調査区全景（西から）



1 表土（腐蝕土、構内造成時等の置土）
2 暗灰褐色砂質土（水田耕作土）
3 灰褐色粘質土
4 黒褐色粘質土
5 明灰色砂質土　　※土質注記は図のキャプションではなく報告文を採用

河村吉行（1985）「中央図書館増築予定地 M－16 区の発掘調査」，
山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡発掘調査年報Ⅱ』
の Fig.2 および Fig.3を転載・加筆

図 42　図書館2号館増築調査区土層断面

山口県吉田遺跡出土金属製品の成分分析調査
－蛍光X線分析－

株式会社　吉田生物研究所

1．はじめに

山口県に所在する吉田遺跡で出土した金属製品1点について、以下の通り成分分析を行ったのでその結果を報告する。

2．資料

調査した資料は、丸鞆（図32－445、写真61－445）1点である。

3．方法

資料を用いて蛍光X線分析を行い、金属元素を同定した。装置はRIGACK製の波長分散型蛍光X線分析装置ZSX－PRIMUSⅡを用いた。

4．分析結果

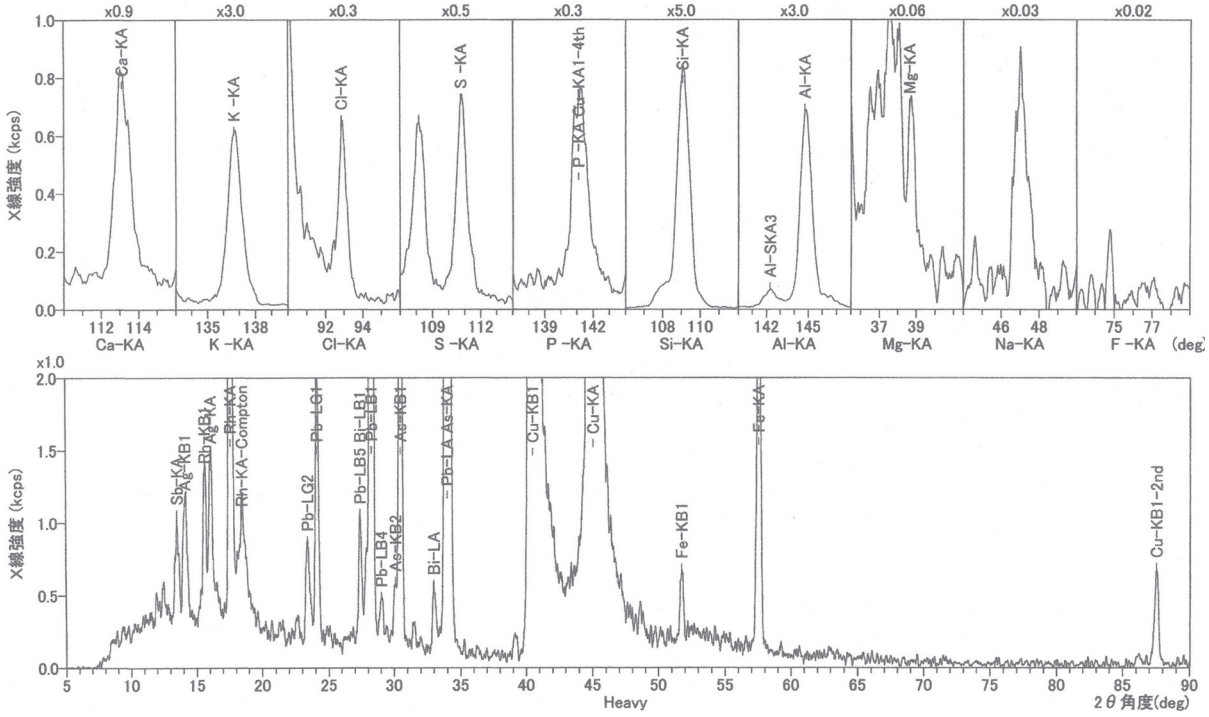
成分分析結果のスペクトルを付し（下図）、その結果を以下に示す。分析値から、丸鞆は銅（Cu）が主成分であり、次いで砒素（As）、鉛（Pb）が多く、微量成分として銀（Ag）、アンチモン（Sb）、ビスマス（Bi）が検出された。その他の元素は土中成分（Al～Fe）である。また、数値は参考である。

元素（wt％）　Al（1.68）　Si（3.37）　S（0.11）　Cl（0.22）　K（0.50）　Ca（0.18）　Fe（0.37）
Cu（85.86）　As（3.51）　Pb（3.40）　Ag（0.25）　Sb（0.230）　Bi（0.18）

5．考察

丸鞆は検出された成分から銅製品である。その他の成分の砒素については銅の製錬過程で残留する割合（～数％）の範囲内なので、添加されたものでなく残留したものと考えられる。鉛については銅製品を造る際の湯通りを良くする事や銅の融点を下げる為に添加されたものと考えられる。微量成分の銀、アンチモン、ビスマスは銅の製錬過程で製錬しきれずに残留したものと考えられる。

参考文献：成瀬正和（1999）：正倉院鏡を中心とした唐式鏡の化学的調査.日本の美術2　No.393　至文堂　p87-98



3. 椹野寮新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区　吉田構内O-21・22区、P－22区

調査面積　48㎡

調査期間　平成24年11月16日～11月28日

調査担当　横山成己　松浦暢昌

調査結果

（1）調査の経緯（図43、写真64・65）

吉田構内南端部に位置する椹野寮（女子学生寮）南方空閑地に新たな女子学生寮を建設する計画が確定したことを受け、開発予定地を対象に予備発掘調査を実施する運びとなった（平成24年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会メール審議（9月10日～12日）にて承認）。

既設の椹野寮は、本学において埋蔵文化財保護業務が開始された昭和41年(1966)には既に建設工事が実施されていたため、敷地の地下の状況確認が行われていない。現況地形を見る限りでは、敷地の東端部において東側から西に延びる丘陵が深度約3m程カットされているようであるが、削平範囲が不明確である。また、敷地の東に隣接する牧草地では、平安時代から鎌倉時代の集落跡と推察される柱穴群や溝が密に確認されている[註1]ことから、新寮建設予定地内に東西37m、南北11.8mのL字形トレンチを設定し、地下の様相を確認することとなった。

【註】

1）山口大学吉田遺跡調査団（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』,小野忠熙（編）,山口

横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報3－平成17年度－』,山口

（2）調査の経過（写真66）

図書館改修工事及び環境整備工事に伴う本発掘調査が11月14日に終了したため、翌15日に発掘機材等の搬出入を行い。16日（金）より調査に着手した。

重機掘削を実施すると同時に遺構検出、調査区断面精査を並行して進め、20日までに重機掘削お

図 43　調査区位置図

写真 64　調査地遠景（南から）

写真 65　調査前全景（西から）

よび遺構掘削まで終了した。21・22・26日の3日間は諸記録作業に当て、27・28日の2日間で埋め戻しを完了し、調査終了となった。

（3）基本層序（図44・45、写真69・70）

事前の推測どおり、東西トレンチの東部（丘陵高所側）は表土および造成土直下が地山であり、大きく削平を受けていることが判明した。東西トレンチ西部および南北トレンチにおいては、造成土下に本学吉田地区統合移転前に存在した棚田の耕作土を確認した。耕作土下は地山であった。

（4）遺構（図44・45、写真67・68）

地山を遺構面検出面として、溝を7条検出した。溝1・2・5は北東－南西方向の溝で、位置関係から溝2は溝5に繋がるものと思われる。また、溝1の南東に接して畦畔が確認された。溝3・4は上記の溝に直行する方向で設けられており、両者は本学移転前の水田区画を示すものと思われる。溝6・7はやや方向を違えており、北北西－南南東に走る。前述の溝より時期が遡ると見られ、溝6埋土からは須恵器の出土も見たが、土質としては新しく、旧の水田区画に伴うものと思われる。

この他、東西トレンチ東端部付近に土壙状の凹みを1箇所確認した。埋土の土質から土地の削平に伴うものである可能性が高い。

（5）遺物（図46、写真72、表7）

溝6および旧耕土から須恵器・土師器が出土しているが、極めて少量である。なお、溝6出土須恵器は前述のように2次的な混入と考えられる。

1は溝6出土の須恵器甕体部片。外面にはほぼ垂直の平行叩き後カキ目が施される。内面の同心円当て具痕は明瞭に残る。**2**は須恵器蓋口縁部片。小片のため口径復元不能である。扁平な坏蓋と見られ、天井部から屈曲して口縁が降下し、端部をわずかに外反させる。全面に回転ナデが施される。胎土および焼成は堅緻である。**3**は須恵器壺肩部片。こちらも小片であり正確に径を復元できないが、肩部が正円であるとすると、器壁が厚いものの9㎝程度の小型品になると思われる。内外面とも丁寧にナデが施されており、他の成形・調整痕は観察されない。外面肩部直上に沈線状の凹みが存在する。**4**は須恵器甕の肩部片と思われる。頸部付近の破片と見られ、外面下位に右上がりの平行叩きが施され、内面下位には同心円当て具痕が残る。内外面とも上位はナデが施されている。

（6）小結（写真71）

本学の吉田地区統合移転では、昭和41年（1966）に移転を完了させた農学部を皮切りに、昭和48年（1973）に移転が終了するまで、学部校舎を始めとする建築物やライフラインの整備など、急ピッチで開発工事が実施された。工事中に発見される埋蔵文化財の保護対応のため、本学では昭和41年より、当時教育学部の教官であった小野忠熙氏が学生を率い発掘調査に当たった。翌昭和42年には市川禎治学長を団長とする山口大学吉田遺跡調査団が結成され、遺跡保護のための発掘調査が実施される事となるが、すでに工事が終了した場所、工事が進行中である場所、また予察調査で本発掘調査は必要ないと判断された場所では地下の様相が不明となってしまった。吉田構内の椹野寮もその事例の一つであり、昭和41年10月のものと見られる吉田第Ⅱ地区の調査写真[註1]には、建物本体工事中の椹野寮が映り込んでいる。

写真 66　調査風景（西から）

写真 67　南北トレンチ完掘状況（南から）

写真 68　東西トレンチ完掘状況（西から）

写真 69　南北トレンチ西壁土層断面（南東から）

写真 70　東西トレンチ北壁土層断面（南西から）

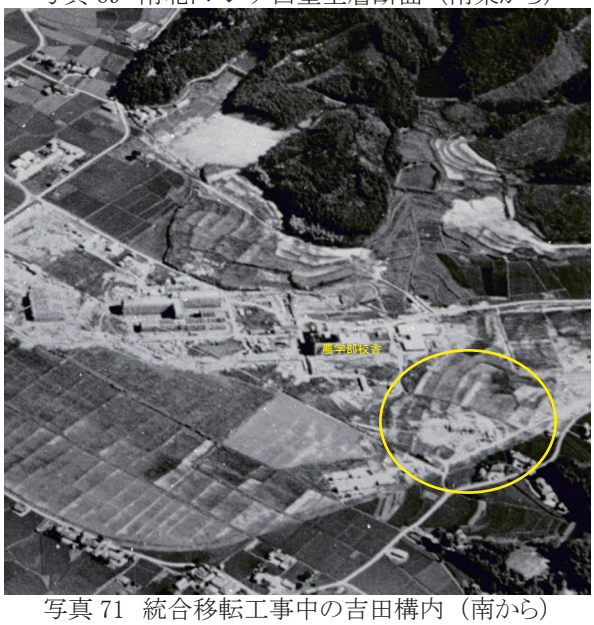
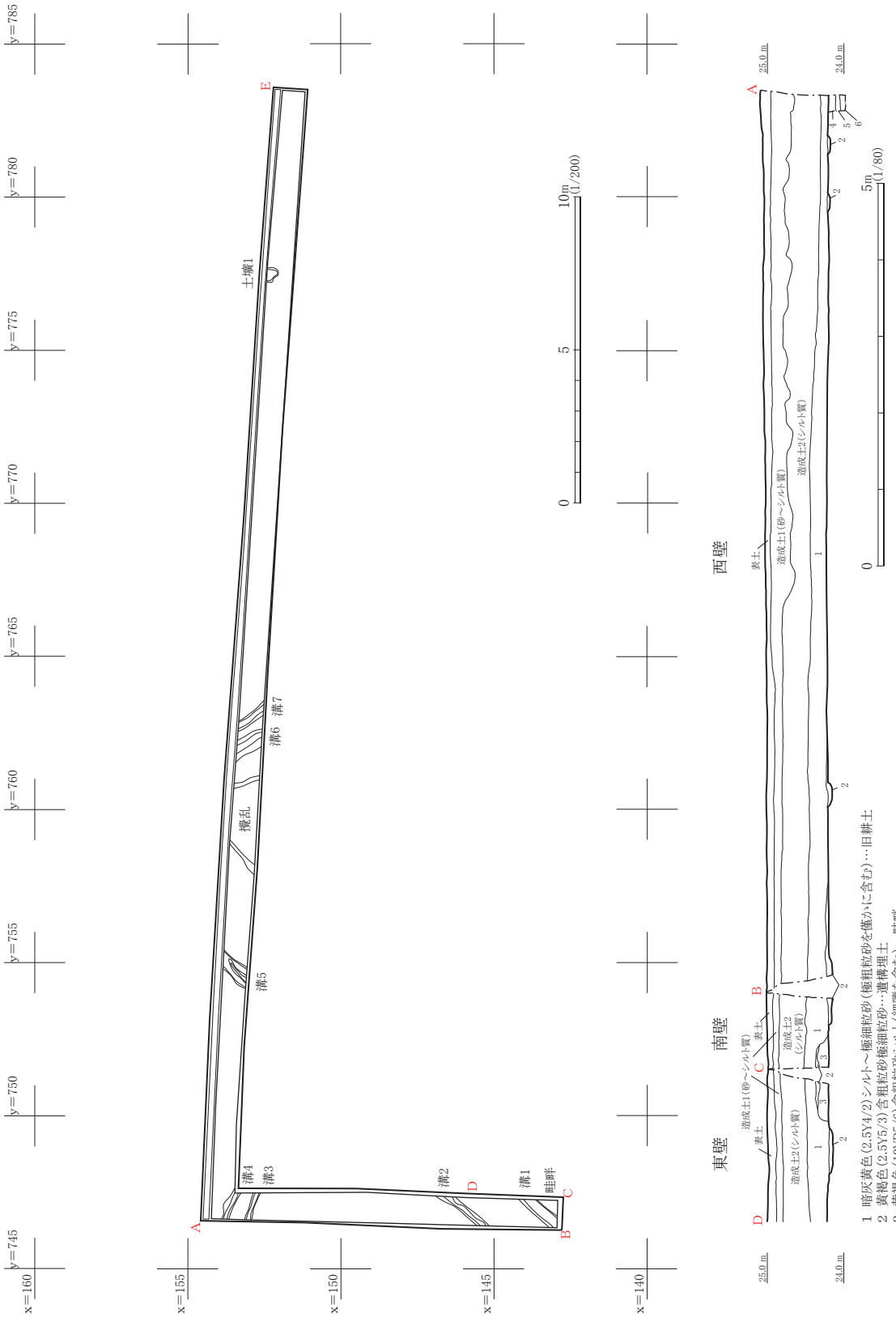
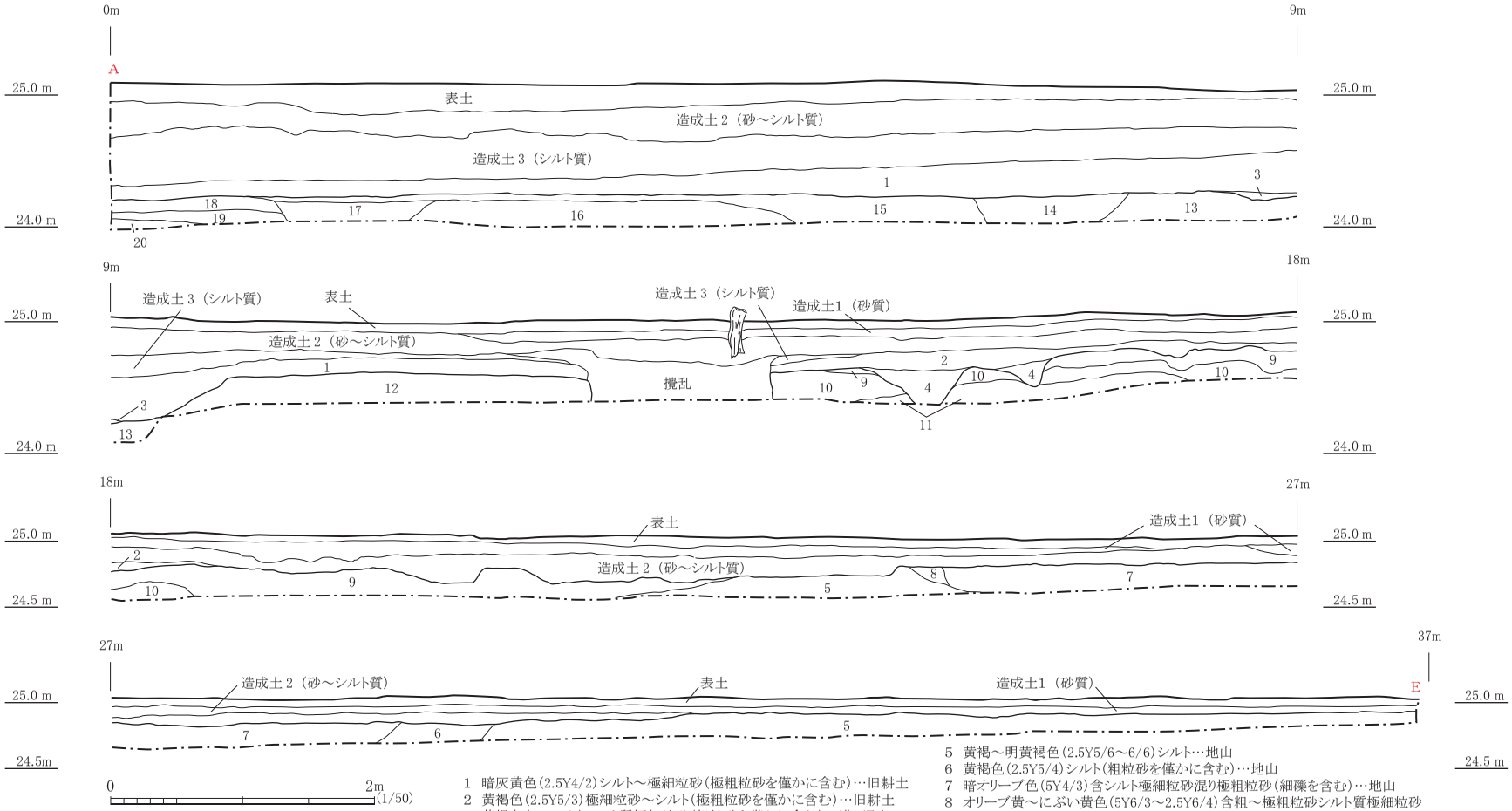


写真 71　統合移転工事中の吉田構内（南から）



南北トレンチ断面

図44　調査区平面図・断面図



1 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～極細粒砂(極粗粒砂を僅かに含む)…旧耕土
2 黄褐色(2.5Y5/3)極細粒砂～シルト(極粗粒砂を僅かに含む)…旧耕土
3 黄褐色(2.5Y5/3)シルト質極細粒砂(粗粒砂を僅かに含む)…溝5埋土
4 灰色(10Y6/1)細礫混り極細粒砂質シルト…溝6・溝7埋土
5 黄褐～明黄褐色(2.5Y5/6～6/6)シルト…地山
6 黄褐色(2.5Y5/4)シルト(粗粒砂を僅かに含む)…地山
7 暗オリーブ色(5Y4/3)含シルト極細粒砂混り極粗粒砂(細礫を含む)…地山
8 オリーブ黄～にぶい黄色(5Y6/3～2.5Y6/4)含粗～極粗粒砂シルト質極細粒砂
9 黄褐色(2.5Y5/4～6)極細～細粒砂(粗粒砂を少量含む)…地山
10 オリーブ褐色(2.5Y4/4)細礫混り極細～極粗粒砂…地山
11 黄褐色(10YR5/6)粗粒砂混りシルト質極細粒砂…地山
12 黄褐色(10YR5/6)極細粒砂～シルト(中～極粗粒砂を含む)…地山
13 黄褐色(10YR5/6)シルト…地山
14 黄褐色(10YR5/6)シルト混り細粒砂質極粗粒砂…地山
15 黄褐色(10YR5/8)粘土混り粗～極粗粒砂(細礫を含む)…地山
16 黄褐色(2.5Y5/4)粘土混り粗～細粒砂(細～中礫を含む)…地山
17 にぶい黄色(2.5Y6/4)極細粒砂…地山
18 黄褐色(10YR5/6)シルト混り細粒砂質極粗粒砂…地山
19 にぶい黄褐色(10YR5/4)含シルト細礫混り極細粒砂…地山
20 にぶい黄橙色(10YR7/4)シルト…地山

図45 東西トレンチ北壁断面図

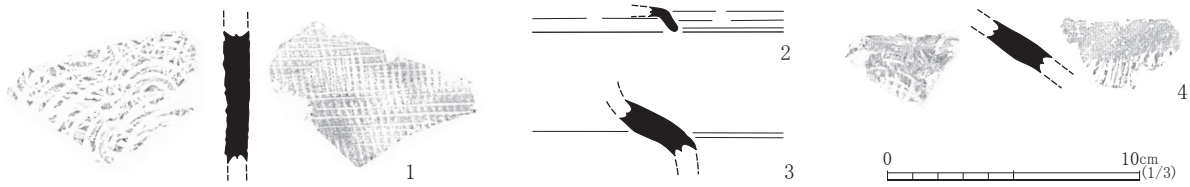


図 46　出土遺物実測図

写真 72　出土遺物

表7　出土遺物（土器）観察表

法量（　）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	溝6 埋土	須恵器　甕	体部		①②灰白色(N7/)	精緻	
2	旧耕土	須恵器　蓋	口縁部	③残高1.0	①②灰白色(N7/)	精緻	
3	旧耕土	須恵器　壺	肩部		①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	
4	旧耕土	須恵器　甕	肩部		①　灰白色(7.5Y7/1) ②　灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒極少量混ざる	

今回の調査は、工事立会を除けば椹野寮敷地における初めての発掘調査である。調査の結果、敷地の東部は大きく削平を受けた状況で、遺構が遺存している可能性は極めて低く、敷地の西部も棚田の構築により削平を受けていることが明らかとなった。今回の調査により、当地において統合移転前の棚田が南東から北西方向に設けられていることが判明したが、明瞭ではないものの昭和41年に撮影されたと思われる吉田構内の航空写真（写真71）においても棚田の状況が確認できる。

新営される椹野寮の建設範囲においては本発掘調査の必要はなく、当工事計画の今後の埋蔵文化財保護対応は、配管等設備工事や既設椹野寮の食堂解体工事において立会調査を実施する事が平成24年度第7回埋蔵文化財資料館専門委員会メール審議（12月5日～6日）にて承認された。

【註】

1）横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報3－平成17年度－』,山口　の77頁写真91参照。

4. 第1学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査

調査地区　吉田構内I-19・20、J-20区

調査面積　約66.1㎡（A調査区49.8㎡、B調査区4.4㎡、C調査区5.9㎡、D調査区6㎡）

調査期間　平成25年2月4日～3月4日

調査担当　田畑直彦・松浦暢昌

調査結果

（1）調査の経緯（図47・48、写真73・74）

第1学生食堂では長年昼食時の狭隘状態が問題となっていたため、解消を目的として、建物南西側の7.6m×36mの範囲に建物の増築が計画された。また、工事計画地には既設管類が多数存在するため、増築部の東側に配管類を移設する工事も合わせて計画された。

平成23年度末において工事内容が未定であったため、埋蔵文化財保護対応も未定であったが、平成24年度に工事概要が決定した。未定の事案には埋蔵文化財資料館館員と協議の上、館長裁量で対応を決定することとなっているが、計画地が遺跡保存公園[註1]に隣接すること、平成5年度の立会調査の際、B調査区北西側で統合移転前の水田床土が検出され、その直下に遺構が存在する可能性があること[註2]、第1学生食堂の建物南東側では統合移転時に発掘調査が行われ、流路（弥生時代河川か）が検出されていることから[註3]、予備発掘調査を実施することになった。

工事計画地内には多数の既設管と大学生協本部（仮設プレハブ）が存在していたため、調査にあたっては、これらを避けてA～Dの調査区を設定した。

【註】

1）河村吉行（1991）「付篇Ⅱ　吉田構内遺跡保存地区の発掘調査（総括）」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』,山口

2）豆谷和之（1995）「第4章10　環境整備（遺跡保存地区）に伴う立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅢ』,山口

3）山口大学吉田遺跡調査団（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』,山口

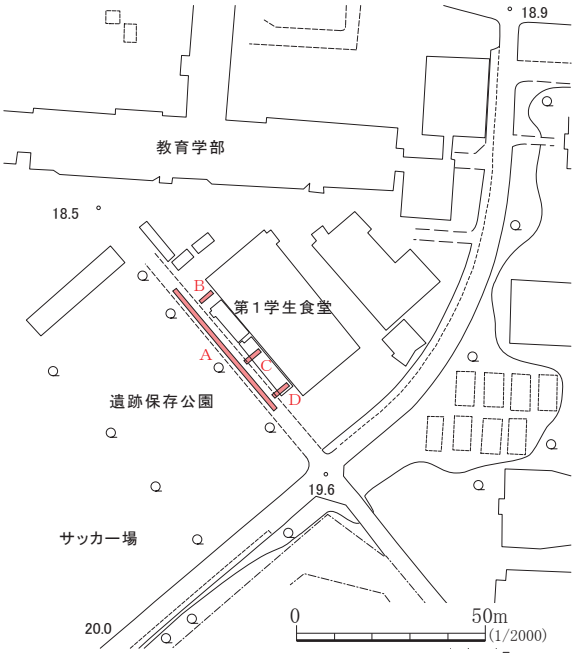


図 47　調査区位置図

写真 73　A・C・D調査区調査前全景（南から）

写真 74　B調査区調査前全景（北西から）

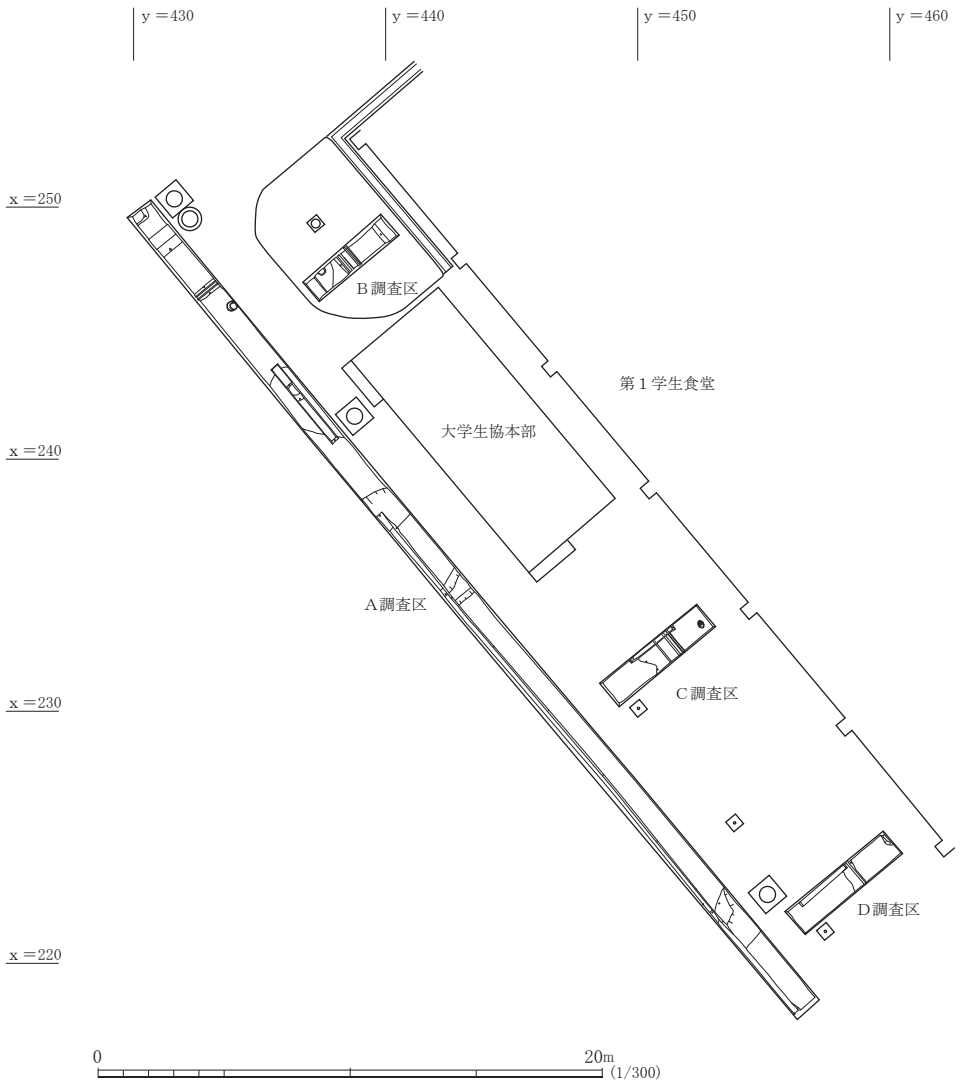


図 48　調査区詳細図

（2）基本層序

基本層序は下記の通りである。

第1層：表土（層厚5～10㎝）

第2層：造成土（層厚20～70㎝）

第3層：旧水田耕土（層厚2～7㎝　B調査区のみ）

第4層：旧水田床土（層厚2～8㎝　B・C調査区のみ）

第5層：遺物包含層か（層厚6㎝）B・C調査区のみ。

第6層：地山（弥生時代以降の遺構面　層厚64㎝以上）

（3）層序・遺構

a.A調査区

大規模な削平を受けていたため第3～5層はなく、現地表下約50～80㎝までが第1・2層で、その直下で第6層を検出した。第6層の検出標高は南部で約18.6m、北部で約18.3mである。なお、遺跡保存公園最南端の第21号竪穴住居[註1]の検出標高は約19.4m、A調査区北部西側に位置する第13号竪穴住居[註2]の検出標高は約19.2mである。旧地形は東側にかけて落ち込むことを考慮しても、第6層は大規模な削平

を受けたと考えられる。

遺構は第6層上面で河川3条、ピット1基を検出した。調査区南端部で検出した河川1は幅4.8m以上、最深部は約60㎝である。埋土は上層が黄灰色粗砂、下層が灰色粘土で自然木を含み湧水が顕著であった。下層からは弥生土器片が少量出土した。河川2は幅約4.4m、最深部は約66㎝である。埋土は上層が灰オリーブ色粗砂、下層が黄褐色粗砂で湧水が顕著であった。遺物は出土しなかった。河川3は幅3.5m、最深部約45㎝である。埋土は上層から黄灰色シルト、灰色粗砂、暗褐色粗砂、灰色礫である。埋土の中～下位から土器片（弥生土器か）が少量出土した。Pit1は直径40㎝、深さ9㎝である。埋土は黒褐色シルトである。遺物が出土しなかったため、時期は不明であるが、埋土の色調から弥生～古墳時代の遺構である可能性が高い。

b.B調査区

現地表下約30～50㎝までが第1・2層で、以下約50～55㎝で第3層、約55～60㎝で第4層、約60～66㎝で第5層、約65㎝以下で第6層を検出した。第6層上面の検出標高は約18.8mである。A調査区と異なり、第3～5層が残存していた。遺物は出土しなかったが、第5－1層は遺物包含層の可能性がある。

第5－1層上面では河川を検出した。埋土は灰色粗砂に灰オリーブ色の礫を含む。ただし、南西側が攪乱を受けていたため、ごく一部の検出にとどまり、遺物も出土しなかった。位置関係から、河川はA調査区河川3と同一である可能性が高い。また、河川埋土直下の第6－1層上面で直径22㎝、深さ33㎝のピット1を検出した。遺物が出土しなかったため、時期は不明であるが、埋土の色調から弥生～古墳時代の遺構である可能性が高い。

c.C調査区

調査区の大半は既設管等の攪乱を受けており、現地表下約55㎝までが第1・2層で、その直下で第6層を検出した。調査区東部は現地表下約25㎝までが第1・2層で、約25～34㎝で第4層、約34～38㎝で第5層、約38㎝以下で第6層を検出した。第5－1層はB調査区検出層と同一とみられるが、遺物は出土しなかった。第6層の検出標高は約19.0mである。

北西壁では第5層から掘り込まれた径17㎝、深さ7㎝のピットを検出し、北東壁では杭跡2箇所（径4㎝・深さ10㎝と径2㎝・深さ5㎝）を検出した。また、第6層上面でも直径32㎝、深さ29㎝のピット1を検出した。第5－1層と遺構埋土が近似していたことから、このピットも第5－1層から掘り込まれていた可能性がある。以上の遺構から遺物は出土しなかったため時期は不明であるが、埋土の色調から弥生～古墳時代の遺構である可能性が高い。

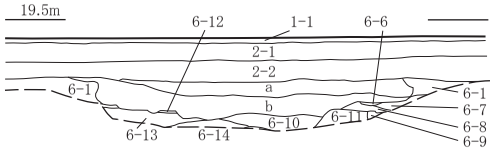
d.D調査区

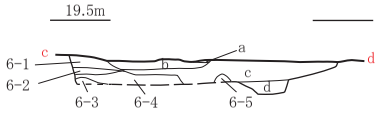
C調査区同様、調査区の大半は既設管等の攪乱を受けていた。現地表下約60㎝までが第1・2層で、以下約60～114㎝で河川埋土、約74～120㎝で第6層を検出した。河川は最深部が約54㎝で、埋土は暗赤褐色の粗砂・礫である。下部は湧水が顕著であり、弥生土器片が少量出土した。位置関係から、河川はA調査区河川1と同一と考えられる。

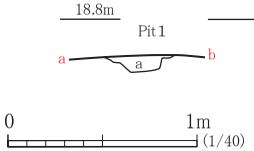
【註】

1）河村吉行（1990）「付篇Ⅰ　吉田構内遺跡保存地区の発掘調査（昭和60・61年度）」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅷ』,山口

2）河村吉行（1987）「付篇Ⅰ　吉田構内遺跡保存地区の発掘調査（昭和59年度）」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』,山口

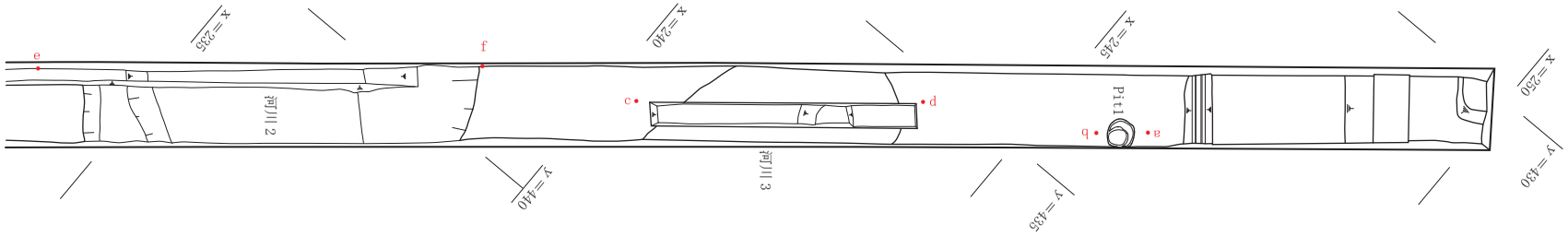






a　黒褐色（2.5Y3/1）シルト
遺構面形成層のオリーブ黄色
（5Y6/3）シルトをブロック状に含む

図 50　A調査区 Pit1断面図



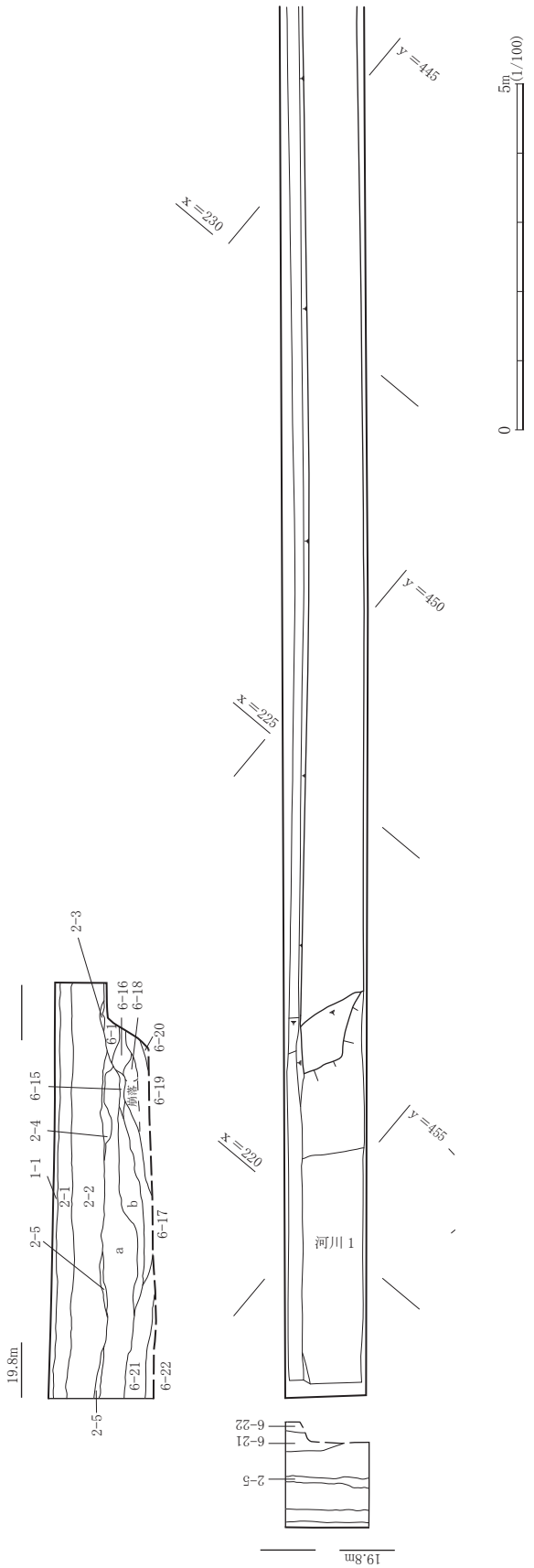
e－f間土層

1-1　表土（アスファルト）
2-1 バラス
2-2　バラス・暗褐色（10YR3/3）粗砂のブロック土
a　河川2埋土　灰オリーブ色（7.5Y5/2）粗砂　0.5 ～ 14 cm大礫を含む
b　河川2埋土　黄褐色（2.5Y5/6）粗砂　0.5 ～6cm大礫を含む
6-1　オリーブ黄色（5Y6/3）シルト
6-6 灰色（10Y6/1）シルト
6-7 灰色（10Y6/1）細砂
6-8 黄褐色（2.5Y5/3）粗砂　0.5 ～ 3 cm大礫含む
　　黄褐色（2.5Y5/6）粗砂を斑状に含む
6-9 6-1と同じ
6-10 灰オリーブ色（7.5Y6/2）粗砂　0.5 ～ 10 cm大礫を含む
6-11 灰褐色（7.5YR5/2）礫　0.5 ～ 8 cm大
6-12 緑灰色（7.5GY6/1）シルト
6-13 黒褐色（10YR3/1）シルト
6-14 オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト
河川２埋土
a 灰オリーブ色（7.5Y5/2）粗砂　0.5 ～ 14 cm大礫含む
b 黄褐色（2.5Y5/6）粗砂　0.5 ～ 6 cm大礫含む

c－d間土層

6-1　オリーブ黄色（5Y6/3）シルト
6-2　青灰色（5BG6/1）シルト
6-3　灰白色（10Y7/1）粗砂　0.5 ～ 5 cm大礫含む
6-4　黒褐色（10YR3/1）シルト　上面は青灰色を帯びる
6-5　6-1と同じ
河川３埋土
a　黄灰色（2.5Y4/1）シルト
b　灰色（7.5Y4/1、4/2）粗砂
c　暗褐色（10YR3/3）粗砂
d　灰色（N5/0）礫（３～５cm大）

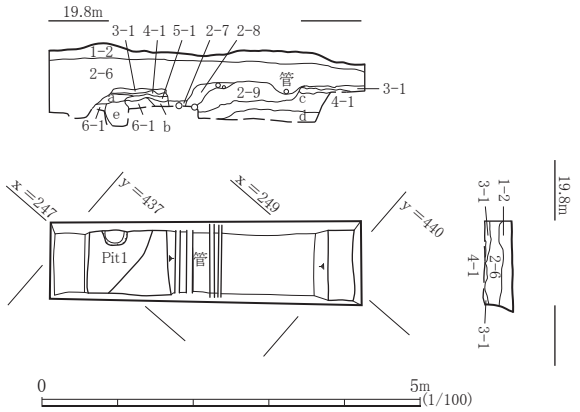
図 49　A調査区北西部平面図・土層断面図



1-1 表土（アスファルト）
2-1 バラス
2-2 バラス・暗褐色（10YR3/3）粗砂のブロック土 2-3 マサ・6－1のブロック土
2-4 マサ・6－1、青灰色（5BG6/1）シルトのブロック土
2-5 灰色（7.5Y5/1）シルト
6-15 オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト
6-16 オリーブ灰色（5GY6/1）シルト
6-17 緑灰色（7.5GY6/1）シルト
6-18 オリーブ灰色（2.5GY6/1）粗砂
6-19 オリーブ灰色（5GY6/1）粗砂 0.5～3㎝大礫含む
6-20 灰色（7.5Y4/1）シルト
6-21 灰色（N6/0）粗砂 0.5～3㎝大の礫含む
6-22 6-1と同じ

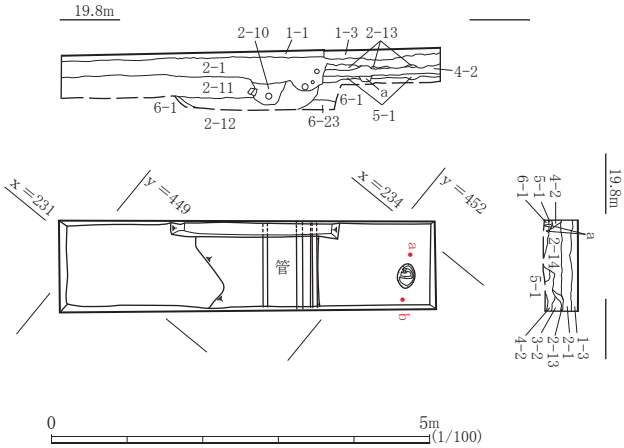
河川1埋土
a 黄灰色（2.5Y5/1）粗砂（0.5～10㎝大礫含む）
b 灰色（N4/0）粘土 黒褐色（10YR3/1）粘土・自然木を含む

図51 A調査区南東部平面図・土層断面図

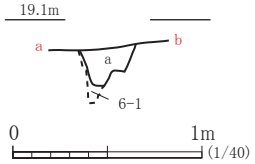


1-2 オリーブ黒色（7.5Y3/1）土
2-6 灰オリーブ色（7.5Y4/2）土
2-7 灰色（N6/0）粗砂
2-8 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト オリーブ黄色 5Y6/4）シルト、褐色（10YR4/6）シルトを斑状に含む
2-9 3－1・4－1 のブロック土
3-1 灰色（7.5Y5/1）シルト
4-1 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト
5-1 6－1 に暗灰黄色（2.5Y4/2）シルトを斑状に含む
6-1 オリーブ黄色（5Y6/3）シルト
a 河川埋土 灰色（7.5Y5/1）粗砂に灰オリーブ色（7.5Y5/3）粗砂・0.5 ～ 3 ㎝大礫を含む
b 河川埋土 オリーブ灰色（10Y5/2）シルト
c 河川埋土 灰色（N5/0）粗砂 0.5 ～ 10 ㎝大の礫を多く含む
d 河川埋土 オリーブ色（5Y5/6）粗砂 0.5 ～ 5 ㎝大の礫を含む
e Pit1埋土 黒褐色（2.5Y3/1）シルト

図 52 B調査区平面図・土層断面図

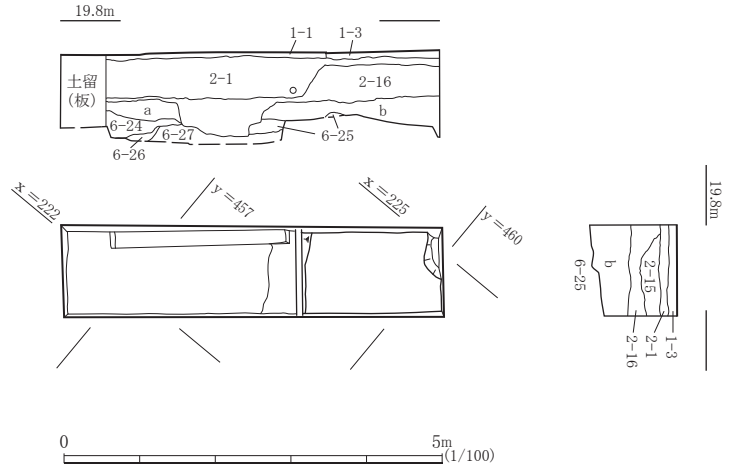


1-1 アスファルト
1-3 コンクリート
2-1 バラス
2-10 灰色（N5/0）粗砂
2-11 バラスと 2－12 のブロック土
2-12 オリーブ灰色（2.5Y5/1）シルト・黄灰色（2.5Y4/1）のブロック土
2-13 4-2 と暗灰黄色（2.5Y4/2）シルトのブロック土
2-14 2-10・4－2 とマサのブロック土
3-2 暗青灰色（5B5/1・4/1）シルトのブロック土
4-2 灰オリーブ色（5Y6/2）シルト
5-1 6－1 に暗灰黄色（2.5Y4/2）シルトを斑状に含む
6-1 オリーブ黄色（5Y6/3）シルト
6-23 灰色（5Y6/1）シルト
a ピット・杭埋土
暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト



a 黒褐色（2.5Y3/1）シルト
ごく少量 6－1 を含む

図 53 C調査区平面図・土層断面図　　図 54 C調査区 Pit1断面図



1-3 コンクリート
2-1 バラス
2-15 バラスと灰色（10Y5/1）のブロック土
2-16 a・b・6－1、黒褐色（10YR3/1）シルト、灰色（5Y6/1）シルト、暗青灰色（5B4/1）シルトのブロック土
6-24 灰色（N4/0）シルト 同色の粗砂・粘土、明緑灰色（10GY7/1）粘土を斑状に含む
6-25 明緑灰色（5G6/1）シルト
6-26 明緑灰色（10GY6/1）粘土
6-27 明緑灰色（10GY6/1）粗砂 同色粘土のラミナを含む
a 河川埋土 暗赤褐色（5YR3/2）粗砂 0.5 ～8 ㎝大礫を多く含む 緑灰色（5G6/1）シルトのラミナを含む
b 河川埋土 a と同じ 礫主体

図 55 D調査区平面図・土層断面図

写真75　A調査区全景（南東から）

写真76　A調査区Pit1半裁状況（南西から）

写真77　A調査区河川1土層断面（東から）

写真78　A調査区河川2土層断面（南東から）

写真79　A調査区河川3土層断面（南東から）

写真80　B調査区全景（南から）

写真81　B調査区Pit1土層断面（南東から）

写真82　C調査区全景（南から）

写真83　C調査区東部北西壁土層断面（南東から）

写真84　D調査区全景（南から）

写真85　D調査区西部北西壁土層断面（南東から）

（4）遺物（図56・写真86）

今回出土した遺物はいずれも小片で、図化できるものは少ない。1はA調査区第6－1層上面出土。弥生時代中期の甕口縁部で、跳ね上げ口縁である。2～3はD調査区機械掘削時出土。河川埋土もしくは攪乱土に含まれていたと考えられるが、本来的には河川埋土に含まれていた可能性が高い。2は弥生時代前期後半～中期前半の鉢口縁部。口縁部をわずかに肥厚させる。3は弥生時代中期の壺もしくは鉢の底部。内外面にヨコミガキを施す。4はD調査区床面清掃時出土。弥生時代中～後期の壺もしくは鉢の底部。摩滅が激しい。

（5）小結

今回の調査の結果、工事予定地は削平・攪乱が著しく、B・C調査区の一部を除いて第2層直下で第6層が検出された。また、A調査区で河川3条、B調査区で河川1条、D調査区で河川1条を検出した。これらの河川は遺跡保存公園で検出された河川と同一である可能性がある。ただし、遺跡保存公園の河川では埋土下部・上部で須恵器が出土していることから、古墳時代後期から奈良時代にかけて機能していたと推測されている[註1]のに対して、今回の調査区からは須恵器類が出土しなかったため、断定はできない。統合移転時に建物南東側で検出された流路[註3]との関連も考慮する必要があろう。また、ピットがA調査区で1基、B調査区で1基、C調査区で1基検出された。これらのピットから遺物は出土しなかったが、埋土の色調から弥生～古墳時代に属する可能性が高く、竪穴住居もしくは掘立柱建物の一部である可能

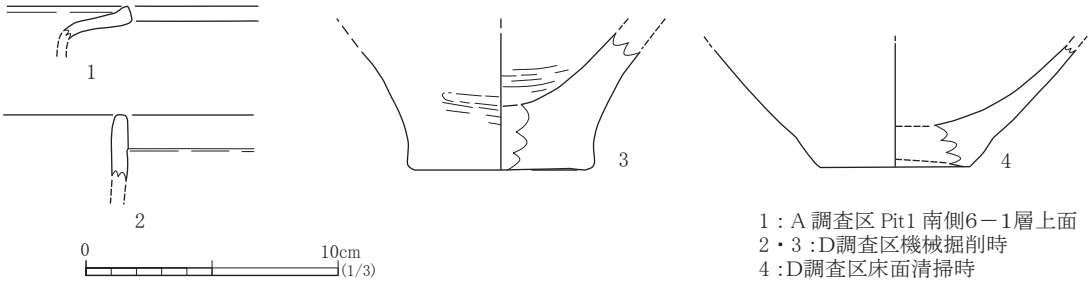


図 56　出土遺物実測図

写真 86　出土遺物

表8　出土遺物（土器）観察表

法量(　)は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	A調査区Pit1 南側6-1層上面	弥生土器　甕	口縁部		①にぶい黄橙色（10YR7/2） ②橙色（5YR6/6）	0.1～3mmの砂粒を含む	
2	D調査区 機械掘削時	弥生土器　鉢	口縁部		①淡黄橙色（10YR8/3） ②灰白色（10YR8/2）	0.1～4mmの砂粒を含む	
3	D調査区 機械掘削時	弥生土器 壺もしくは鉢	底部	②(7.4)	①灰黄色（2.5Y6/2） ②灰黄色（2.5Y7/2）	0.1～4mmの砂粒を含む	
4	D調査区 床面清掃時	弥生土器 壺もしくは鉢	底部	②(6.0)	①②灰黄色（2.5Y7/2）	0.1～4mmの砂粒を含む	

性がある。しかし、これらのピットの周囲は既設管等による攪乱が顕著であり、建物の復元は困難であることが推測された。

上記の調査結果について、平成24年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会（3月29日）で審議を行った。その結果、遺構は検出されたものの攪乱が著しい上、既設管の老朽化により、既設管を残したまま広範囲で調査を行うことが安全確保上困難であることから、工事施工時に立会調査を行うことになった。

【註】

1）河村吉行（1987）「付篇Ⅰ　吉田構内遺跡保存地区の発掘調査（昭和59年度）」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』,山口

2）山口大学吉田遺跡調査団（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』,山口

5．陸上競技場トラック排水溝改修工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内D－17～19、E－17・19、F－16～19、G－16～18区

調査面積　約495㎡

調査期間　平成24年12月26日

調査担当　田畑直彦・横山成己・松浦暢昌

調査結果

近年、陸上競技場の排水状況が不良で、使用に支障をきたしているため、排水溝改修工事が行われることとなり、掘削後に立会調査を実施した。工事はトラックの周囲を約120㎝幅で現地表下40～50㎝まで掘削を行うものである。調査の結果、A～H地点で河川及び遺構を確認した。以下で各地点の状況を報告する。

A地点は現地表下20㎝までが表土で、以下20～30㎝が旧水田床土である灰オリーブ色（5Y4/2）シルト、35～40㎝が地山であるオリーブ黄色（5Y6/3）シルトで、同層上面を検出面とする溝2条を検出した。SD1は最大幅120㎝で、埋土は黄灰色（2.5Y4/1）シルトであった。SD2は最大幅360㎝で埋土は灰色（N5/0）粘質土であった。SD1・2から遺物は出土しなかった。

B地点は、現地表下10㎝までが表土で、以下10～28㎝が旧水田床土である灰オリーブ色（5Y4/2）シルト、28～40㎝が地山であるオリーブ黄色（5Y6/3）シルトで、同層上面を検出面とする溝1条を検出した。SD3の最大幅は130㎝で、埋土は灰色（N4/0）シルトであった。遺物は出土しなかった。

C地点は、現地表下18㎝までが表土で、以下18～27㎝が旧水田耕土である灰オリーブ色（5Y5/2）

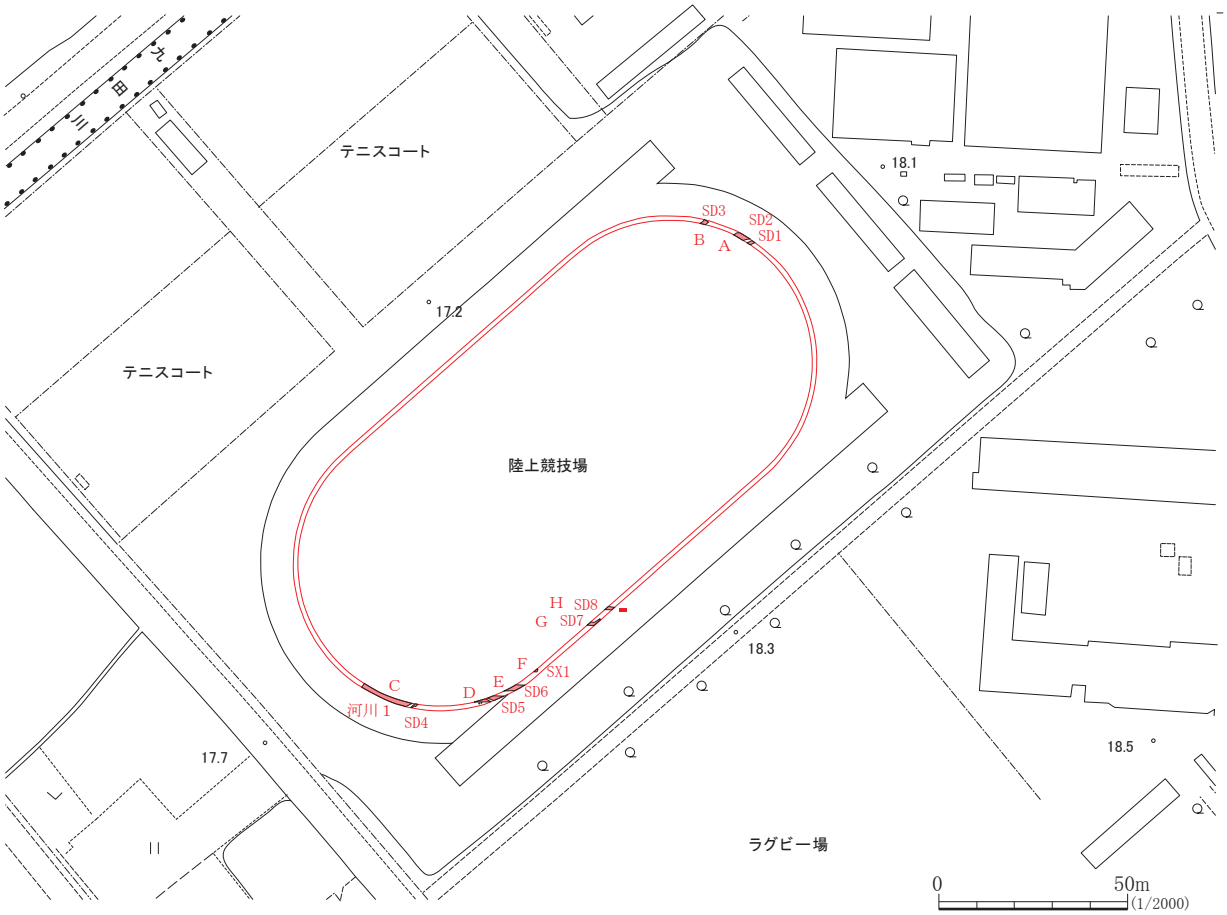


図 57　調査区位置図

シルト、27～41㎝が旧水田床土である灰オリーブ色（5Y6/2)シルト、41～53㎝が地山であるオリーブ黄色（5Y6/3）シルトで、同層上面を検出面とする河川1条、溝1条を検出した。河川の幅は14m程度で、埋土は灰黄色(2.5Y4/1）シルトである。SD4の最大幅は100㎝で、埋土は灰黄色(2.5Y4/1）シルトである。共に遺物は出土しなかった。以下、D～H地点は層序が近似するため、層序の詳細は記載を省略し、地山で検出した遺構について述べる。

D地点では、現地表下42㎝の掘削底面で直径15㎝のピット2基を検出したほか、現地表下17㎝の地山を検出面とする幅120㎝の溝（SD5)を検出した。埋土は共に黄灰色（2.5Y4/1)で、遺物は出土しなかった。

E地点では、現地表下15㎝の地山を検出面とする最大幅200㎝の溝（SD6）を検出した。埋土は灰オリーブ色（7.5Y5/2)粗砂である。遺物は出土しなかった。

F地点では、現地表下12㎝の地山を検出面とする幅40㎝、深さ26㎝の不明遺構を検出した。埋土は黄灰色（7.5Y4/1)シルトである。遺物は出土しなかった。

G地点では、現地表下20㎝の地山を検出面とする最大幅240㎝の溝（SD7)を検出した。埋土は黄灰色（2.5Y4/1)シルトで、微細な土器片が出土した。

H地点では、現地表下18㎝の地山を検出面とする最大幅75㎝の溝を検出した。埋土は黄灰色（2.5Y4/1)シルトである。遺物は出土しなかった。

以上、検出した河川と遺構は上面の検出にとどまった関係で遺物がほとんど出土していないので、時期は不明である。ただし、埋土の色調から弥生～古墳時代である可能性が高い。河川と溝については、平成6年度に実施した体育器具庫及び便所新営に伴う試掘調査[註1]、平成7年度に実施した公共下水道接続工事に伴う試掘調査・本調査、基幹環境整備に伴う立会調査でも検出されており、関連が注目される。

【註】

1）豆谷和之（2000）「第4章3　吉田体育器具庫及び便所新営に伴う試掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅣ』,山口

写真87　A地点（SD1)南西壁土層断面（北東から）

写真88　A地点(SD2）南西壁土層断面（北東から）

写真89　B地点（SD3）南西壁土層断面（北東から）

写真90　C地点西端部北東壁土層断面（南西から）

写真91　C地点東端部北東壁土層断面（南西から）

写真92　D地点西端部SD5・ピット検出状況（南東から）

写真93　E地点（SD6）北西壁土層断面（南東から）

写真94　F地点（SX1）北西壁土層断面（南東から）

写真95　G地点北西壁（SD7）土層断面（南東から）

写真96　H地点北西壁（SD8）土層断面（南東から）

6．人文・理学部管理棟EV設置工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内M-20区

調査面積　42.75㎡

調査期間　平成24年9月21日

調査担当　横山成己

調査結果

人文・理学部管理棟は、昭和58年（1983）に理学部大学院校舎として建設され、建設時に立会調査が実施された[註1]。報告には図や写真が掲載されていないが、旧耕作土下に4層の無遺物層を介在して現地表下120㎝で黄褐色粘土の地山に到達すると記述されている。

平成24年度に建物西側玄関前にエレベーターを設置する工事が計画された（図58）が、掘削深度が地山に到達する120㎝であること、建設工事の立会調査で地山上の堆積層を無遺物層と断定するのは事実上困難であることから、慎重を期して立会調査を実施する運びとなった。

調査において確認された層序は、現地表下100㎝までの表土および造成土の下に、①層厚12㎝の灰黒色粘質土、②層厚8㎝以上のにぶい灰黄色弱粘質土である（図59、写真97）。①は吉田構内造成前の旧耕土、②は旧床土と見られる。

人文学部校舎敷地の旧地形は東から西に降下しているようで、今回の調査では掘削は耕作土内にとどまり、昭和58年に確認された地山まで到達しなかった。人文・理学部周辺の地下の様相は不明確な部分が多いため、新たな工事に際しては基礎的データの獲得に努めたい。

【註】

1）河村吉行（1985）「理学部大学院校舎新営および付随工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』，山口

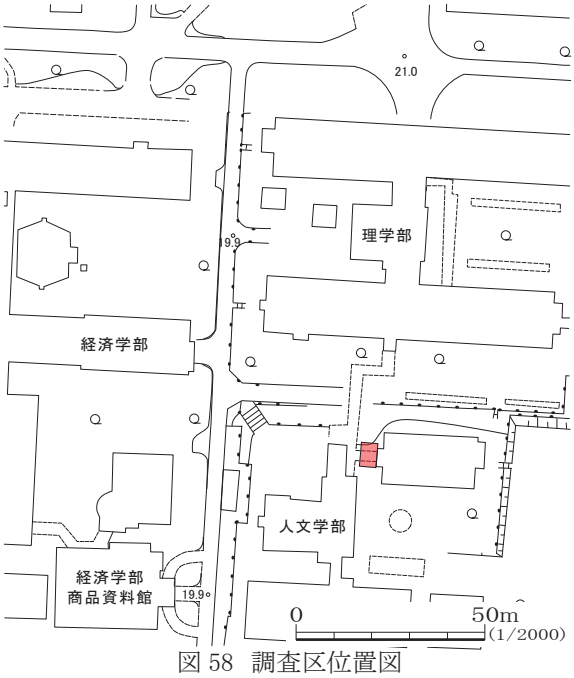


図 58　調査区位置図

写真 97　調査区西壁土層断面（東から）

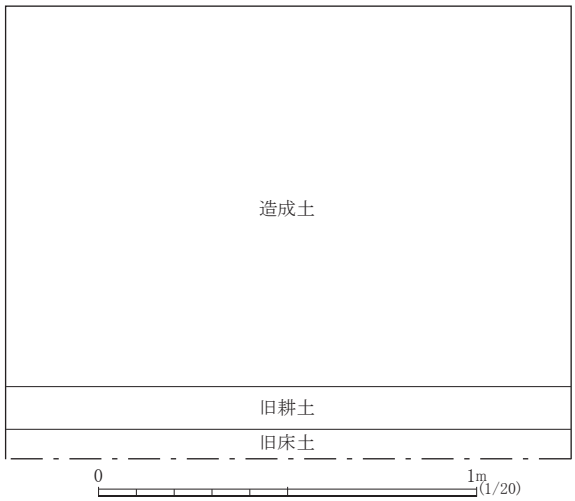


図 59　土層断面柱状図

7. 農場本館事務室等改修機械設備工事に伴う立会調査

図 60　調査区位置図

写真 98　B地点土層断面（北西から）

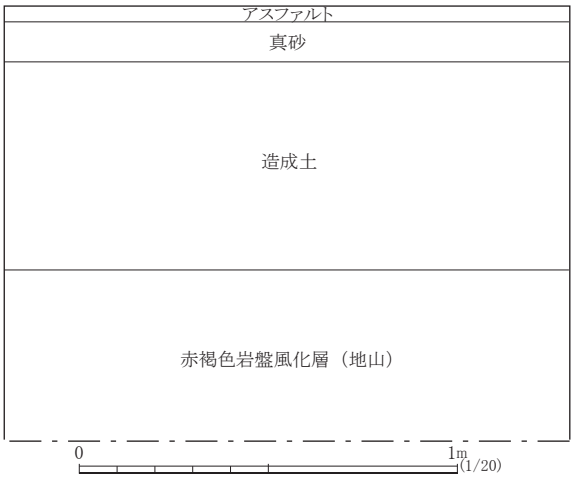


図 61　B地点土層断面柱状図

調査地区　吉田構内R-13区、S-13区

調査面積　27㎡

調査期間　平成24年11月16・20日

調査担当　横山成己

調査結果

平成24年度に農学部附属農場本館建物の改修工事が計画された。農学部本館建物は、昭和42年（1967）に竣工しているが、昭和41年（1966）に小野忠凞氏により実施された吉田遺跡第Ⅳ地区牛舎新営に伴う発掘調査で10月に撮影されたと思われる写真に、建設中の農場本館建物が映り込んでいる。小野氏により埋蔵文化財保護対応が図られた記録が残っていないため、建物地下の様相は不明となっている。今回の工事計画では、建物周域に新規配管が設けられる事となったため、工事立会を実施する運びとなった。

立会調査はA・Bの2地点で実施した（図60）。A地点では、現地表下100㎝まで掘削が行われたが、造成土内にとどまった。B地点では、現地表下120まで掘削が行われ、造成土下の現地表下75㎝地点で、地山である赤褐色岩盤風化層を確認した（図61、写真98）。

調査の結果から、農場本館建物は東に近接する丘陵傾斜地を削平して建設された可能性が高い事が判明した。岩盤風化層が露出する事から、削平深度は相当に深く、建物周囲に遺構が遺存する可能性は極めて低いと推定される。一方で牛舎新営に伴う発掘調査では、複数の竪穴住居跡や溝、ピット等が確認されており[註1]、削平深度が浅かった場所には埋蔵文化財が依存する可能性が残されている。今後も地下の掘削を伴う工事計画には慎重な埋蔵文化財保護対応が必要である。

【註】

1）山口大学吉田遺跡調査団（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』,小野忠凞（編）,山口

8. 図書館改修その他工事（廃棄物プール設置）に伴う立会調査

調査地区　吉田構内K-10区

調査面積　25㎡

調査期間　平成25年1月21日

調査担当　横山成己

調査結果

本発掘調査後に着工された図書館改修工事及び基幹環境整備工事に伴い、開発部局より、大量に排出される廃棄物の仮置き場（プール）が必要であるとの相談を受けた。プールの必要規模は、5m×5m×深度1mとのことで、場所によっては埋蔵文化財を大きく破壊する可能性のあるものであったため、九田川（氾濫原）に近く、かつ造成土も厚いと想定される吉田構内北部の蓮池公園とビオトープの間の空閑地が選定された（図62）。

プール掘削終了後に実施した立会調査では、20㎝の表土下に80㎝の造成土を検出し、掘削が造成土内にとどまったことを確認した（図63、写真99※写真中央の黒色土が表土で、その上位は掘削排出土）。

今回の工事計画は、図書館改修工事中に急遽立案されたもので、緊急の対応が必要であることから山口市教育員会の多大なる支援と指導を得ることとなった。本学開発部局には、今後は様々な状況を想定した上で工事計画を立案するよう要求し、理解を得ることとなった。

図 62　調査区位置図

写真 99　調査区西壁土層断面（東から）

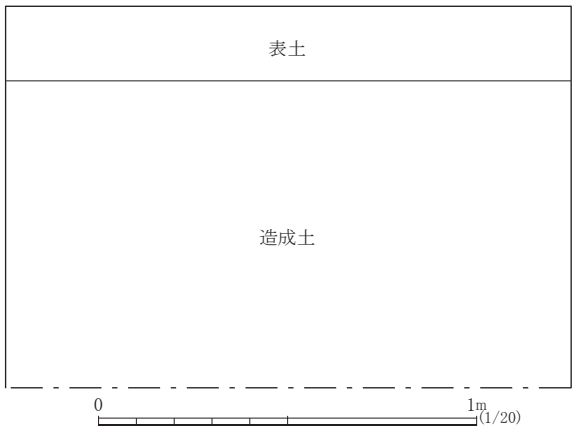


図 63　土層断面柱状図

9. 国際交流会館1号館引込給水管改修工事に伴う立会調査

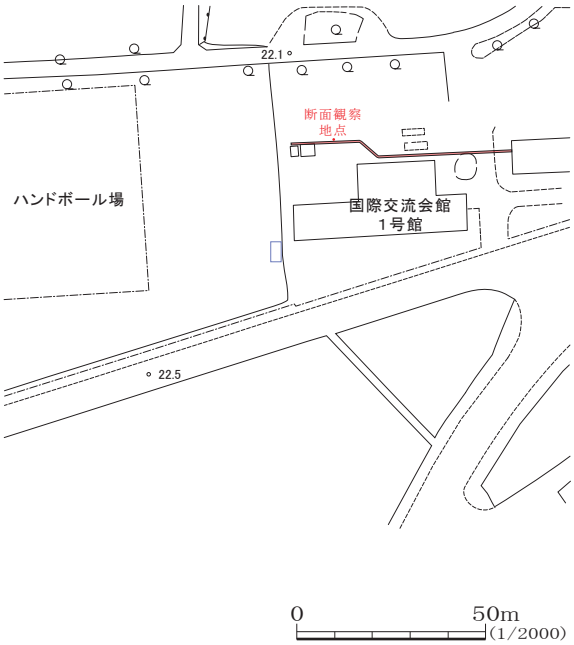


図 64　調査区位置図

写真 100　土層断面（東から）

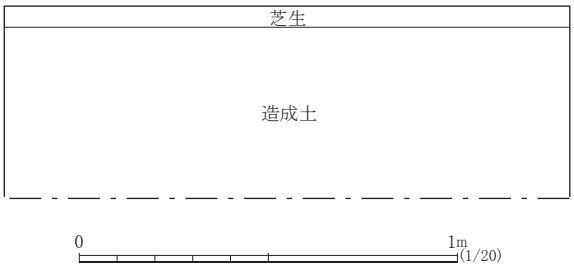


図 65　土層断面柱状図

調査地区　吉田構内M･N-22区

調査面積　15㎡

調査期間　平成24年7月4日

調査担当　横山成己

調査結果

平成24年度、吉田構内国際交流会館の給水管改修工事が立案された。建物北側に部分的に新たに給水管を埋設する計画であるが（図64）、国際交流会館新営に伴う発掘調査では、建物周域は主に表土表土直下が地山であり、溝や自然河川も確認されていたため[註1]、工事立会にて埋蔵文化財保護対応を行う運びとなった。

掘削規模は幅50㎝×深度50㎝で、新規埋設ルートに限り立会調査を実施した。調査の結果、現況の芝生の下位は50㎝まで造成土であり、地山は露出していない事を確認した。

国際交流会館1号館は竣工後約30年が経過し、大幅な改修工事時期が近づいているものと予測される。計画が立案された際には適切な埋蔵文化財保護対応を行う所存である。

【註】

1）河村吉行（1987）「吉田構内国際交流会館新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』,山口